

		作業療法学科 昼間部			
科目	統計学	単位	1	コマ数	12
担当講師	手塚雅之	学 年		1年生	
資格	作業療法士・健康運動実践指導者・修士（学術）				

科目概要	医療・福祉の領域では裏付けのあるデータに基づいた治療を進めることが大前提となっており、学会発表や新しい治療法確立の際も統計処理が行われることが多くなってきている。初学者向けになるべく身近な例を提示し、わかりやすい資料を用いて解説し、統計学を身近に感じてもらうことを目指す。				
学習の留意点	IT文化が浸透しつつある現代社会では、『統計学』が身近な生活の中に溶け込み始めている。以前は「数値の計算方法」など専門家でないと扱いが難しかった領域についても「計算アプリ」等の普及により、簡単に結果を出せるようになって来ている。数値や計算に苦手意識を持たなくても済むよう解説していくので、興味を持って授業に望んでいただきたい。				
到達目標	（１）統計学の基礎事項について説明できる。（２）裏付けのある医療を進める際に、統計処理が用いられていることを理解できる。（３）社会的データを自分なりに解釈し、自分の意見を述べる事が出来る。				
授業形態	講義		対面		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	統計学の概要（医療と科学的思考）	科学的思考とは何か、根拠に基づく医療とは何か、説明できる。
2回	統計学の基礎（ヒストグラム、尺度）	平均値、中央値、ヒストグラム、尺度について説明できる。
3回	統計学の基礎（ばらつき、偏差、分散）	ばらつき、偏差、分散について説明できる。
4回	正規分布	正規分布について説明できる。
5回	正規分布の使用	平均値の比較（t検定）について説明できる。
6回	統計処理について	EBMと統計処理について理解することが出来る。
7回	相関関係	相関関係について理解できる。
8回	データの活用	一般社会において、生活の中に統計データが活用されていることを理解することが出来る。
9回	検定の実際	クラス内におけるデータ収集から、統計検定するまでの一連の過程を理解できる。
10回	各種統計データ	社会一般に見られる統計データについて考察する。
11回	回帰分析と分散分析	回帰分析と分散分析について理解できる。
12回	データと解釈	社会的データをどのように解釈するか、考察できる。

成績評価	リアクションペーパー・小テストで5割、本試験で5割、の割合で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは全体に実施する。
使用教材 教科書	資料を配布
オフィスアワー	木曜日以外の平日9時～18時、メールでも相談可。

		作業療法学科 昼間部			
科目	情報科学	単位	2	コマ数	15
担当講師	五十嵐千代子	学 年		1年生	
資格					

科目概要	現在、IT（information technology）が発達し、情報機器が生活のすみずみに入り込んでいる。若い世代の間でも情報ツール抜きには生活が成り立たなくなっており、卒後に働くであろう医療・福祉の業界では仕事を進めるにあたって様々な情報機器を使いこなす必要がある。スマートフォン以外では、パソコンの操作、ワード・エクセル・パワーポイント、メールでの送受信などは基本技能として身に着けて置く必要があるため、情報リテラシーに関する基本的知識とあわせて解説する。授業方法は「講義」を間に挟みながら「演習」を中心に進める。				
学習の留意点	これからの学校生活、臨床実習で必須となるスキルとなる。全員が身に付け、活かしていけるようにすること。				
到達目標	（１）個人情報の取り扱いに関する基本事項、SNS利用の際の注意点などについて説明でき、社会的モラルを尊重して行動できる。（２）パソコンの基本操作、ワード・エクセル・パワーポイントの操作、メールの送受信、グーグルクラスルームを扱うことができる。（３）情報機器に関するセキュリティ管理について説明できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	臨床実習	種々の科目			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	授業オリエンテーション／メール送受信	授業概要の説明。メールの送受信、Gmailの使い方、宛先、Cc、Bcc、添付ファイルを使うことができる。
2回	ワープロソフト（１）	ワープロソフトで文章を作る。起動・終了、ファイルの新規作成と保存、ファイルの開き方と上書保存ができる。
3回	クラスルーム（１）	ドライブのひとつである「クラスルーム」を使う（クラスルームとは、クラスルームの使い方）ことができる。
4回	クラスルーム（２）	「クラスルーム」を使う（クラスルームでレポート課題を見る、レポート課題を提出する）ことができる。
5回	ワープロソフト（２）	ワープロソフトを使って文章を作る 表、罫線、作画、画像や表の挿入をすることができる。
6回	ワープロソフト（３）	ワープロソフトで文章を作ることができる。文書の保存、フォルダーの作成、フォルダーの整理をすることができる。
7回	インターネット	インターネット検索 情報検索の必要性と効率化、検索エンジン利用の心得、注意すべきことを理解することができる。
8回	ドライブ	ドライブとは、ドライブの使い方、ドライブの中の資料を閲覧する、取り出すなどができる。
9回	表計算ソフト（１）	表計算ソフト「エクセル」とはについて理解することができる。
10回	表計算ソフト（２）	表計算ソフト「エクセル」について。表を作成し、簡単な計算を行うことができる。
11回	表計算ソフト（３）	表計算ソフト「エクセル」について。表を作成して、グラフを描くことができる。
12回	プレゼンテーション（１）	パワーポイントの使い方を知る（作成、保存）。パワーポイントで資料を作成することができる。
13回	プレゼンテーション（２）	パワーポイントで作成した資料を手直しする(色彩、大きさ、背景など)を行い完成させることができる。
14回	プレゼンテーション（３）	作成したパワーポイントを使って発表を行うことができる。
15回	まとめ	提出課題の説明と準備。 これまで学んできたさまざまなことからテーマを選び、レポート課題を考える。そして、レポートを作成して提出する

成績評価	課題100％（発表等含む）
課題やレポートに関するフィードバック	必要に応じて行う。
使用教材 教科書	・30時間でマスター Word&Excel2021 ・30時間でマスタープレゼン＋PowerPoint2021 実教出版企画開発部編 実教出版
オフィスアワー	随時（木曜日は不在）

		作業療法学科 昼間部			
科目	心理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	島津 直実	学 年		1年生	
資格	公認心理師				

科目概要	心理学は人の心理・精神活動と仕組みを科学的な方法を用いて研究する学問といえます。心理学が扱う領域は幅広い。本講義では、その中から社会心理学，学習心理学，発達心理学，認知心理学，感情心理学，パーソナリティ心理学を取り上げ，基礎的な知見を概説します。				
学習の留意点	事前学習として教科書の該当箇所を読んでください。また，事後学習として配布資料および授業ノートを読み返し，専門用語の意味などを確認しノートにまとめ，理解を深めてください。テストは最終回に実施します。				
到達目標	社会，学習，発達，認知，感情，パーソナリティの各領域における心理学の基本的な知識を習得し，説明することができる。「こころ」を理解するための科学的枠組みを学び，心理学の視点から自らの考えを述べるができる。心理学を日常生活の中で実践的に活かすことができる。				
授業形態	講義			遠隔授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	心理学への招待:本講義の概要	実証科学としての心理学/自己理解の基礎について説明できる
2回	社会心理学1:コミュニケーション	コミュニケーションの成立条件/言語的・非言語的コミュニケーション/パーソナルスペース/説得的コミュニケーションについて説明できる
3回	社会心理学2:対人魅力	対人魅力/単純接触効果について説明できる
4回	学習心理学1:古典的条件づけ	古典的条件づけについて具体例をもとに説明できる
5回	学習心理学2:道具的条件づけ	道具的条件づけについて具体例をもとに説明できる
6回	学習心理学3:観察学習	観察学習について具体例をもとに説明できる
7回	発達心理学1:ライフサイクル1青年期まで	ライフサイクル・生涯発達の概念/心理学的観点からみた青年期までの概要を説明できる
8回	発達心理学2:ライフサイクル2成人期以降	心理学的観点からみた成人期以降の概要を説明できる
9回	発達心理学3:知能	知能に関する2因子説・多因子説/評価について説明できる
10回	認知心理学:注意と日常記憶	注意・日常記憶・記憶の変容について説明できる
11回	感情心理学1:感情の生起	情動の末梢起源説・中枢起源説・2要因説について説明できる
12回	感情心理学2:気分一致効果	気分一致効果について説明できる
13回	パーソナリティ心理学1:類型論	類型論の観点から性格について捉えることができる。バーナム効果・確証バイアスについて説明できる
14回	パーソナリティ心理学2:特性論	特性論の観点から性格について捉えることができる
15回	本講義のまとめ	各領域における心理学の基本的な知識を日常生活の中でどのように実践的に活かすことができるか考えることができる

成績評価	まとめテスト70%および小テストや発表等30%。授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施します。
使用教材教科書	心理学・入門 -- 心理学はこんなに面白い 改訂版 有斐閣アルマ サトウ タツヤ・ 渡邊 芳之
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	哲学	単位	1	コマ数	12
担当講師	井上 環	学 年		1年生	
資格	教育学博士課程（満期退学）				

科目概要	本講義では、生命倫理、とりわけ医療倫理に関わるトピックについて、グループワークを交えながら学びます。また、「哲学対話」と呼ばれる教育実践を並行して行い、講義内容の理解を深めるとともに、集団的な問題解決力、批判的思考力、多様な価値観の受容、傾聴やアサーション（自己主張）といったコミュニケーション能力の向上を目指します。				
学習の留意点	臨床の現場で他者の生に関わり、介入を行うことには、「その場面でどのような行為が最善であるか」という倫理的な問いがついて回ります。これらの問いは、個別具体的な状況の中で判断されるものですが、その判断を支えるのは、科学や医療技術、生命倫理に関する歴史的・現代的な理解と知識です。本講義では、そうした倫理的判断の手助けとなる概念的な道具を獲得することを目指します。 授業の冒頭では、前回の内容に関する小テストをGoogle Classroom上で実施します。各授業の要点を説明できるよう、復習を心がけてください。講義中は、気づきや疑問点を積極的にメモし、リアクションペーパーに反映させるようにしましょう。これらの記録は、哲学対話の議論や学期末レポート作成に大いに役立ちます。 学期末レポートでは、授業での議論を踏まえたうえで、各自が自由に問いを設定し、それに対して論じてもらいます（分量：1,500～2,000字程度）。「哲学対話」の概要は授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方は、授業の進行状況に応じて適宜調整する場合があります。				
到達目標	① 生命倫理に関わる重要な概念や論点を説明できる。 ② ①を踏まえて、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。 ③ 対話を通じた他者との協同的な探究に参加し、その成果を考察・表現することができる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	心理学	教育学		社会学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス（授業の概要・進め方・評価方法）	生命倫理学を学ぶ意義、哲学対話の注意点や意義を説明できる。
2回	生命倫理学の歴史	20世紀アメリカにおける生命倫理学の展開について説明できる。
3回	哲学対話［1］（日常をめぐる問い）	日常をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる。
4回	医療倫理	医療倫理の四原則と医師-患者関係の変遷について説明できる。
5回	インフォームド・コンセント	インフォームド・コンセントの歴史的背景と論点について説明できる。
6回	終末期医療	緩和ケア・鎮静を含む終末期医療の諸問題について説明できる。
7回	哲学対話［2］（生命倫理・医療倫理をめぐる問い）	生命倫理・医療倫理に関する問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる。
8回	老いと医療	高齢者医療の諸問題と、「老い」をめぐる問いについて説明できる。
9回	障害者・病者への差別と排除	障害者・病者に対する差別と排除の歴史について説明できる。
10回	ケアの倫理・臨床哲学	キュアとケアの違いを理解し、ケアの倫理および臨床哲学の議論について説明できる。
11回	哲学対話［3］（生命倫理・医療倫理をめぐる問い）	生命倫理・医療倫理に関する問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる。
12回	まとめ	レポート作成の注意点を理解し、講義内容を踏まえて自らの考察をレポートとして表現できる。

成績評価	① 各回における小テスト・小レポート（60%） ② 学期末レポート（40%）
課題やレポートに関するフィードバック	課題へのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上で個別対応を実施します。
使用教材 教科書	使用教材：担当教員が作成した資料を都度配布する 教科書：なし 参考書：玉井真理子・大谷いづみ編『はじめて出会う生命倫理』有斐閣アルマ、小泉博明・井上兼生・今村博幸・吉田修馬編著『テーマで読み解く生命倫理』教育出版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談

		作業療法学科 昼間部			
科目	教育学	単位	1	コマ数	12
担当講師	井上 環	学 年		1年生	
資格	教育学博士課程（満期退学）				

科目概要	本講義では、教育学の主要なトピックについて学びます。特に、対人的支援としてのリハビリテーションと関係する内容を中心に、グループワークを交えながら進めていきます。また、「哲学対話」と呼ばれる教育実践を並行して実施することで、講義内容への理解を深めるとともに、集団的な問題解決力、批判的思考力、多様な価値観の受容、傾聴やアサーション（自己主張）といったコミュニケーション能力の向上を目指します。				
学習の留意点	リハビリテーションは対人的な営みであり、相手に「教える」という働きかけが欠かせません。その意味で、教育学を学ぶことは、より良いコミュニケーションのあり方を探求することにつながります。同時に、教育学を通じて、自身の成長や学びを捉え直す機会を得るとともに、現代の社会や文化への理解を深めることもできます。 授業の冒頭では、前回の内容に関する簡単な小テストをGoogle Classroom上で実施します。各授業の要点を説明できるよう、復習を心がけてください。講義中は、気づきや疑問点を積極的にメモし、授業後に提出するリアクションペーパーに反映させるようにしましょう。これらの記録は、哲学対話の議論や学期末レポートの作成に大いに役立ちます。 学期末レポートでは、授業での議論を踏まえたうえで、各自が自由に問いを設定し、それに対して論じてもらいます（分量は1,500～2,000字程度を予定しています）。「哲学対話」の概要については、授業内で説明します。また、各講義のテーマや哲学対話の進め方は、授業の進行状況に応じて適宜調整する場合があります。				
到達目標	① 教育学に関わる重要な概念や論点について説明できる。 ② ①を踏まえて、自身の考えを深めそれを適切に表現することができる。 ③ 対話を通じた他者との協同的な探究に参加し、その成果を考察・表現することができる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	心理学	哲学		社会学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ガイダンス（授業の概要・進め方・評価方法）	教育学を学ぶ意義を説明できる
2回	教える-学ぶの関係	コミュニケーションとしての「教えること」、学びと教えに関わる論点について説明できる
3回	教育工学	インストラクショナルデザインに関わる論点について説明できる
4回	哲学対話［1］（日常をめぐる問い）	日常をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる
5回	子ども	「小さな大人としての子ども」「子どもの発見」「子どもの消失」に関わる論点について説明できる。
6回	教育の目的	教育目的としての有能化・社会化・主体化に関わる論点について説明できる
7回	哲学対話［2］（教育をめぐる問い）	教育をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる
8回	特別支援教育①	障害児教育の歴史、インクルーシブ教育に関わる論点について説明できる
9回	特別支援教育②	発達障害のある子どもの教育に関わる論点について説明できる
10回	ジェンダーとセクシュアリティ	ジェンダーと教育の課題/セクシュアリティと教育の課題に関わる論点について説明できる
11回	哲学対話［3］（教育をめぐる問い）	教育をめぐる問いをテーマとした哲学対話に参加し、その成果を考察・表現できる
12回	まとめ	レポート作成の注意点を理解し、講義内容を踏まえて自らの考察をレポートとして表現できる

成績評価	① 各回における小テスト・小レポート（60%） ② 学期末レポート（40%）
課題やレポートに関するフィードバック	課題へのフィードバックは、授業内で全体に対し実施するとともに、必要に応じてGoogle Classroom上で個別対応を実施します。
使用教材 教科書	使用教材：担当教員が作成した資料を都度配布する 教科書：なし 参考書：講義中に適宜指示する口
オフィスアワー	授業前後の休憩時間、メール・Google Classroomでの相談

		作業療法学科 昼間部			
科目	英語	単位	2	コマ数	15
担当講師	黒木 豊域	学 年		1年生	
資格	米国ユタ州プロボ市ワサチ・メンタルヘルスセンターでのセラピストの経験のもとに、クライアントと英語での対話の訓練を行ないます。				

科目概要	グローバル化するわが国において、外国人観光客・在留外国人は年々増加傾向にある。これに伴い、PT・OTが外国人患者への支援行う機会の増大が見込まれている。この科目では、PT・OTが、英語にて患者に接し、医療用語を用いてリハビリ現場で会話ができるようになることを目指す。すなわち、最初の接遇からはじまり、問診、説明、肢位の指示などの特定の状況における会話を英語でできるようになるために、ロールプレイ演習を行う。中学や高等学校教育の英語と異なり、会話する英語の習得を目標とし、毎回の授業は声を出して話すことに焦点が当てられている。また、人体や施術に関わる英語の専門用語を習得することも目標としている。				
学習の留意点	英語の学習のための英語の学習ではなく、実践現場におけるコミュニケーションのための英語学習を行う。コミュニケーションとは、相手との意思疎通であり、言語は手段の一部でしかない。それを念頭に、非言語、すなわち、表情、身振り手振り、に焦点をあてた英会話訓練を行う。毎回の授業はロールプレイの台本を作成し、ペアでの練習を行い、発表を繰り返す。また、英語が聞き取れるようになるためのコツを授業を通じて学習する。これらを通じて英会話上達の方法を習得し、生涯を通じて多言語力を高めていく能力の基礎を身に着ける。英会話力が格段に上達する期待を持って授業に取り組んで欲しい。				
到達目標	1．人体に関してや一般的な医療用語の英単語を覚え活用することができる 2．支援現場において用いることのできるフレーズを活用できる 3．支援現場における英会話を構成し、活用できる。				
授業形態	ロールプレイの練習				
関連科目					

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	Introduction ロールプレイ 1：笑顔と挨拶	授業の目的と学習方法、達成課題について理解する。表情を乗せた挨拶ができるようになる
2回	ロールプレイ 2：痛む部位を聞いてみよう 次回の単語	問診において、痛む部位について尋ねることができる。
3回	ロールプレイ 3：痛みの種類や程度を聞いてみよう 単語テスト1	痛みの種類や程度をたずねることができる。
4回	ロールプレイ 4：痛みの経過を聞いてみよう 次回の単語	痛みの経過を尋ねることができる
5回	ロールプレイ 5：基本的な肢位を指示してみよう 単語テスト2	基本的な肢位を指示できる
6回	ロールプレイ 6：バイタルサインを確認しよう 次回の単語	バイタルサインを確認できる
7回	ロールプレイ 7：自動稼動域を測定してみよう 単語テスト3	自動稼動域を測定できる
8回	ロールプレイ 8：筋力を測定してみよう 次回の単語	筋力を測定できる
9回	ロールプレイ 9：歩行評価をしてみよう 単語テスト4	歩行評価ができる
10回	ロールプレイ10：移乗動作の練習をしてみよう 次回の単語	移乗動作のサポートができる
11回	ロールプレイおまけ：ホームエクササイズ の指導 単語テスト5	ホームエクササイズの指導ができる
12回	試験のためのロールプレイの計画	患者との出会いから診断、指導までの支援現場における英会話を構成し、活用できる。
13回	試験のためのロールプレイの練習	感情に基づいた表情やジェスチャー、声の抑揚を添えたコミュニケーションとしての英語表現ができる
14回	単語試験 とLong Play試験	ペアによるロールプレイ試験/ 試験準備
15回	単語試験 とLong Play試験	ペアによるロールプレイ試験/ 試験準備

成績評価	成績は以下の合算による： 1．単語テスト（各5点：合計25点） 2．ロールプレイ・ショート（各3点：合計30点） 3．定期試験：単語試験 25点 4．定期試験：ロールプレイ・ロング 20点				
課題やレポートに関するフィードバック	毎回のロールプレイにおいて次の項目において随時その場で評価をフィードバックする。 ・表情豊かに話すことができた ・メリハリのある声で話すことができた ・大きなジェスチャーを使えた ・例文にアレンジを加えた ・暗記しパフォーマンスできた				
使用教材 教科書	配布プリントによる				
オフィスアワー	無し				

		作業療法学科 昼間部			
科目	保健体育	単位	2	コマ数	15
担当講師	小平 健太郎	学 年		1年生	
資格	NSCA-CSCS, NSCA-CPT, 体育学修士				
補佐教員	山下 高介（中級パラスポーツ指導員）				

科目概要	運動の重要性は近年特に叫ばれているが、方法によっては逆効果にもなるリスクも潜んでいるため対象者に合わせた適切な方法を経験則だけでなく知見として習得していくことが専門職としても求められる。 また、自身の動作での課題の発見や適した改善を図ることは自身の健康を保つためにも必要である。 講義における基礎知識の習得だけでなく演習やグループディスカッションを通じて、多方面から運動や動作について考える時間を設ける。				
学習の留意点	講義を踏まえて運動が身体にもたらす影響について総合的に考察したものを課題として出題する。講義内では授業課題に沿った課題を出題する。				
到達目標	①現代社会において運動が必要とされている背景を説明できる。 ②運動の有効性だけでなくリスクについて説明できる。 ③障がい者スポーツについてその起源や必要性について説明できる。 ④様々な形のスポーツについて説明できる。 ⑤感覚に制限がある中で運動を体験し、その感覚を説明できる。 ⑥既存のスポーツに対して対象者に合わせた柔軟な変更を試行できる。				
授業形態	講義・演習		対面と遠隔の併用授業		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	運動の必要性和有効性	現代で運動が求められる理由が説明できる/運動の有効性を説明できる
2回	リスクと安全管理	運動が身体にもたらすリスクを学び、知っておくべき安全配慮や応急手当を説明できる。ウォーミングアップの重要性とその内容について説明できる
3回	様々なスポーツの形	レクリエーションスポーツ・ゆるスポーツを知り、さまざまなスポーツのあり方を理解する
4回	簡易体力チェック（実技）	体力テスト、ロコモチェックを実践し自身の現状を把握・説明できる
5回	障がい者スポーツ	障がい者スポーツの歴史や現状、運動の必要性を説明できる
6回	障がい者スポーツ	実際のパラスポーツ選手のドキュメンタリー映像などの鑑賞を通じて障がい者スポーツを具体的に学び、理念や意義を理解する
7回	スポーツ科学の応用	映像学習によりスポーツ科学分野での知見の応用を説明できる
8回	行動変容	運動・スポーツへの参加を促すための行動変容手法を学びながら、コミュニケーションスキルを身に付ける
9回	体育館実技（自体重での運動、バスケットボール）	自体重での運動で安全な運動の仕方を理解する。用具や場所が限られている中で工夫して楽しむ方法を検討し実践できる
10回	障がい体験・障がい者スポーツ実践	ブラインドウォーキングや車いすでの運動体験から障がいの理解を深める
11回	体育館実技（障がい体験・障がい者スポーツ実践）	実践における基本的な視点や方法を知り、工夫しながら実践できる
12回	体育館実技（障がい体験・障がい者スポーツ実践）	車いすバスケットボール体験を通じて、その運動感覚を体験し説明できる
13回	体育館実技（自体重での運動、バレーボール）	自体重での運動で安全な運動の仕方を理解する。用具や場所が限られている中で工夫して楽しむ方法を検討し実践できる
14回	体育館実技（自体重での運動、バドミントン・卓球）	自体重での運動で安全な運動の仕方を理解する。用具や場所が限られている中で工夫して楽しむ方法を検討し実践できる
15回	総合演習	運動が身体にもたらす影響について総まとめとしての課題に取り組むことができる

成績評価	レポート試験：70%、講義内課題30%の合計100%で評価する。 授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない。
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に対して実施する
使用教材教科書	百寿時代の運動・スポーツのトリセツ ―日本臨床スポーツ医学会からの提案― (著書名:日本臨床スポーツ医学会学術委員会/出版社:名有限会社ナップ)
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	社会学	単位	1	コマ数	12
担当講師	石川 秀志	学 年		1年生	
資格	キャリアコンサルタント（国家資格）、社会福祉士実習演習指導者講習会修了				

科目概要	社会学という科目に求められる最大の課題は、社会のさまざまな分野において次々に生起する諸現象および諸課題に対して系統的な知識に基づき解釈や説明ができること、さらに具体的な問題解決そして社会的支援に寄与できるか、ということにあります。この課題の克服のためには、これまで多くの研究者達によって提起されてきた社会理論を学習し再検討することが必要となります。				
学習の留意点	社会学の基礎知識を身につけ、私たちの生きる社会について分析し考察できるようになるためには、まずは真剣に授業に参加することが必要です。また「自分理解」の機会にしてほしいとも思います。自分の「アンコンシャスバイアス」に気づいてほしいと思います。将来、医療人として人の気持ちのわかる人間になるために。				
到達目標	「社会学的知識」と「社会学的探求方法あるいは思考方法」を身につけ「人間」「社会問題」「時代」の三つの問題関心に興味を持てるようになることです。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	社会調査	社会福祉			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	社会学について	社会学について 授業概要
2回	M. ウェーバーの社会学について	方法論の一つである「理念型」を使えるようになる
3回	E. デュルケムの社会学について	「創発特性」を理解し、社会現象を考えることができるようになる
4回	集団の類型について	「総括」と「特性」の考え方を使って物事を見ることができるようになる
5回	構造と機能について	「構造的役割」と「対人的役割」を理解し自分の役割について考えることができるようになる
6回	組織論について	「潜在的逆機能」という観点で物事を考えることができるようになる
7回	社会的ジレンマについて	「フリーライダー問題」と「社会的ジレンマ」について理解し社会生活を考えることができるようになる
8回	社会問題の捉え方について	社会問題構築主義を理解し、今何が社会問題なのか考えることができるようになる
9回	家族問題について	老々介護、8050問題を通して今何が問題なのか考えることができるようになる
10回	地域社会について	自分が住む地域社会を自分との関わりで考えることができるようになる
11回	福祉について	「社会モデル」の考え方を理解し「障害」を考えることができるようになる
12回	復習	

成績評価	定期試験（筆記試験）6割以上のものが合格
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	教科者使用せず
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	人間関係論	単位	1	コマ数	15
担当講師	深瀬 勝久	学 年		1年生	
資格					

科目概要	対人援助職に必要なコミュニケーションについて学ぶ コミュニケーションの種類とコミュニケーションスキルについて習得する				
学習の留意点	クラスメイトとの演習などでは、適切に正のぎードバックに努める				
到達目標	自己の対人パターンなどの洞察が進む				
授業形態	講義		対面		
関連科目	心理学	臨床心理学		体験実習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	授業の流れを理解する
2回	コミュニケーション	対人援助職としてのコミュニケーション
3回	コミュニケーション	対人援助職としてのコミュニケーション
4回	コミュニケーション	言語的・非言語的コミュニケーションを理解する
5回	自己理解	性格・人格について
6回	自己理解	エゴグラムテスト
7回	態度	ポーターの態度類型・臨床実習における態度
8回	マナーとしてのコミュニケーション	臨床実習における態度
9回	観る	観察の基本を理解する
10回	聴く	面接の基本を理解する
11回	伝える	医療面接における伝えるということを理解する
12回	感情管理	アンガーマネージメントを含む感情管理をマスターする
13回	自己実現	医療従事者を目指す、自分のやるべきことなどにつて考える
14回	医療面接	医療面接を模擬患者に行う
15回	まとめ	授業のまとめを行う

成績評価	授業内成果物、レポートで評価する。全体の6割の評価で合格とする
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	PT・OT・STのためのコミュニケーション実践ガイド 第3版 山口美和
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	肥後 心平	学 年		1年生	
資格	博士（学術）				

科目概要	解剖学では、作業療法・理学療法を学ぶうえで必要な人体の構造を学びます。人体の機能は多くあり、その機能は様々な構造により支えられています。解剖学Ⅰでは、はじめに人体を構成する細胞を学習した後、肉眼で観察可能な人体の構造のうち、運動機能を支える筋肉系と骨格系を中心に学習を進めます。				
学習の留意点	作業療法・理学療法を学ぶためには、まず身体の構造や各部位の名称、位置、機能について理解しておく必要があります。身体の構造を学ぶ解剖学は、より応用的な作業療法・理学療法を学ぶ土台になるもので、しっかりと身につける必要があります。身体やその部分、運動の方向性などを指す解剖学用語は非常に多いため、1回の授業ごとに復習をするようにしてください。自分がどの程度理解できているかを確認してもらうため、第8回、第15回の前半で確認テストを行い、その後すぐに解説を行います。この確認テストは学習内容の区切りがよい点で行うため、確認テスト前にしっかりとそれまでの内容をまとめて復習するようにしてください。				
到達目標	解剖学、細胞学、組織学、発生学の概要を理解し、骨・関節、筋の位置と構造を理解、習得する				
授業形態	講義			対面	
関連科目	機能解剖学Ⅰ		機能解剖学Ⅱ		身体障害評価学Ⅰ
	作業療法基礎演習Ⅰ				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	解剖学総論	解剖学で使用される用語を覚える。人体における機能と形態の関係の概要を理解する
2回	細胞学概論・組織学総論	人体を構成する細胞の構造と機能を理解する。人体を構成する組織の分類と構造を理解する。
3回	骨学・関節学(1)	骨学・関節学概論。骨・関節の組織学を理解する
4回	骨学・関節学(2)	頭蓋骨を構成する骨とその部位名称を覚える。関節の名称と構造・運動を理解する。
5回	骨学・関節学(3)	軸骨格を構成する骨とその部位名称を覚える。関節の名称と構造・運動を理解する。
6回	骨学・関節学(4)	上肢の骨を構成する骨とその部位名称を覚える。関節の名称と構造・運動を理解する。
7回	骨学・関節学(5)	下肢・骨盤の骨を構成する骨とその部位名称を覚える。関節の名称と構造・運動を理解する。
8回	確認テスト・解説	1-7回授業内容の確認テストと解答解説。自分の理解度を確認する。
9回	筋肉学(1)	上肢の筋1。第9, 10回の授業2回で、上肢の筋肉の名称・作用・神経支配を理解する。
10回	筋肉学(2)	上肢の筋2。
11回	筋肉学(3)	下肢の筋1。第11, 12回の授業2回で、下肢の筋肉の名称・作用・神経支配を理解する。
12回	筋肉学(4)	下肢の筋2
13回	筋肉学(5)	頭部・頸部・胸部の筋の名称・作用・神経支配を理解する。
14回	筋肉学(6)	腹部・背部の筋の名称・作用・神経支配を理解する。
15回	確認テスト・解説	9-14回授業内容の確認テストと解答解説。自分の理解度を確認する。

成績評価	定期試験(100%) ただし授業時間中に2回実施する確認テストも評価に加える可能性がある 授業時間数の 3 分の 1 を超えて欠席した者には単位を与えない
課題やレポートに関するフィードバック	8回、15回の前半40分に確認テストを実施し、後半に解説を行う
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学
オフィスアワー	授業時間の前後10分程度

		作業療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	森下 雅大	学 年		1年生	
資格	博士（理学）				

科目概要	本講義では、脈管系と内蔵（循環器、消化器、呼吸器、泌尿器、生殖器、内分泌器官）の正常構造について系統解剖学的に解説する。				
学習の留意点	人体の構造を学ぶ解剖学の知識は生体機能やその異常を理解するための基礎となる。覚える用語が多いが、他の授業とも関連付けて体系的に習得してほしい。講義では単元ごとに小テストを実施する予定なので、知識の定着のため、教科書や配布資料を用いて毎回の講義範囲を復習すること。また、講義内容に関する質問は随時受け付けるので、疑問点を放置せずに授業時もしくはメールで質問すること。メールアドレスは授業内で掲示する。				
到達目標	脈管系、循環器系、消化器系、呼吸器系、泌尿器系、生殖器系および内分泌系の構成と、各器官系を構成する内臓の正常な位置、形態、構造を理解し、各部の名称を説明できる。				
授業形態	講義		対面授業		
関連科目	生理学Ⅱ	内科学・老年学Ⅰ		内科学・老年学Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	解剖学Ⅱ概論・脈管系概論	講義全体と脈管系についての概要を把握する。
2回	心臓の構造と働き	心臓の各部位の名称と機能、特に刺激伝達系と栄養血管を理解する。
3回	動脈系	動脈の一般的な構造・機能と頭頸部、四肢、体幹の動脈系を構成する主要な血管について理解する。
4回	静脈系	静脈の一般的な構造・機能と頭頸部、四肢、体幹の静脈系を構成する主要な血管について理解する。
5回	リンパ系	リンパ系と免疫系の概要と組織の特徴を理解する。
6回	消化器系1	消化器系、特に消化管の構造を理解する。
7回	消化器系2	消化腺の構成と組織の特徴を理解する。
8回	呼吸器系1	呼吸器系の概要と上気道・縦隔の位置と構成を理解する。
9回	呼吸器系2	下気道、気管支、肺の構造を理解する。
10回	泌尿器系1	泌尿器系の概要と構成する骨盤内臓器と腎臓の構造を理解する。
11回	泌尿器系2	尿管、膀胱、尿道の構造を理解する。
12回	男性生殖器系	生殖器の性差と、男性生殖器（精巣、前立腺、外生殖器）の構造を理解する。
13回	女性生殖器系	女性生殖器（卵巣、子宮、外生殖器）の構造を理解する。
14回	内分泌系1	内分泌系の概要と、中枢の内分泌器官（視床下部-下垂体軸）について理解する。
15回	内分泌系2	末梢の内分泌器官とその特徴を理解する。

成績評価	定期試験および小テスト
課題やレポートに関するフィードバック	解説の配布など
使用教材 教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 第6版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	解剖学Ⅲ	単位	1	コマ数	15
担当講師	春原 正隆	学 年		1年生	
資格	歯科医師・博士（医学）				

科目概要	人体の正常構造を理解するために作業療法士に必要な解剖学的知識を修得するため、人体を構成する諸器官を系統別に学習する。解剖学Ⅲでは、神経系や感覚器系を中心に講義・課題を通して3次的に理解する。		
学習の留意点	授業時間数の3分の1を超えて欠席した者には 単位を認定しない。		
到達目標	1) 脊髄神経の構成および分布、働きについて説明できる。 2) 神経系の主要な伝導路について説明できる。 3) 各種感覚器の種類、形態的特徴および働きについて説明できる。		
授業形態	対面授業	講義	
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ, 検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ, 整形外科学Ⅰ・Ⅱ, 運動療法学Ⅰ・Ⅱ, リハビリテーション医学概論Ⅰ・Ⅱ 疾患別理学療法Ⅰ		

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	神経系総論①	神経系の区分，神経系の構成（p. 229～234）について説明ができる
2回	神経系総論②	髄膜と脳室系，神経系の発生（p. 235～240）について説明ができる
3回	中枢神経系①	脊髄，脳幹①（p. 241～251）について説明ができる
4回	中枢神経系②	脳幹②，小脳（p. 245～255）について説明ができる
5回	中枢神経系③	大脳（p. 256～267）について説明ができる
6回	末梢神経系①	脳神経①（p. 300～310）について説明ができる
7回	末梢神経系②	脳神経②，自律神経系（p. 300～314）について説明ができる
8回	末梢神経系③	脊髄神経①（p. 278～300）について説明ができる
9回	末梢神経系④	脊髄神経②（p. 278～300）について説明ができる
10回	中枢神経系④	神経路（p. 268～277）について説明ができる
11回	感覚器系①	外皮，視覚器（p. 319～326）について説明ができる
12回	感覚器系②	平衡聴覚器，嗅覚器，味覚器（p. 326～330）について説明ができる
13回	神経系まとめ	
14回	神経系まとめ	
15回	神経系まとめ	

成績評価	定期試験
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	標準理学療法学・作業療法学 解剖学 解剖トレーニングノート
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	生理学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	黒澤 美枝子	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	「生理学」は「生きている身体の仕組み」を知る学問です。「生理学」では健常なヒトででの仕組みを学びます。「正常」から逸脱した状態が「病的な状態」であり、これから皆さんが学ぶ学問の基本になります。生理学Ⅰでは、人体の生理機能のうち、動物機能（神経系・筋・運動・感覚）について学んでいきます。				
学習の留意点	生理学Ⅰで学ぶ「神経系（神経系一般、運動、自律神経系、感覚）」は、生理学の他分野、例えば、消化器や泌尿器などと違いイメージしづらく、初めて生理学を学ぶ皆さんにとっては、理解が難しい内容も多く含まれると思います。しかし、国家試験で出題される頻度が高く、リハビリテーション効果の基礎ともいえる内容を含み、他の教科との関連も深い分野となります。そのため、生理学全体の講義の中で多くの時間をこの「神経系」にとり、一つ一つ丁寧に解説していきたいと思います。				
到達目標	①神経系機能の基礎を説明できる。 ②筋収縮の仕組みを説明できる。 ③運動（反射と随意運動）の仕組みを説明できる。 ④自律神経系の機能の特徴を説明できる。 ⑤感覚機能の仕組みと特徴を説明できる。				
授業形態	講義			遠隔	
関連科目	解剖学Ⅲ	生理学実習		機能解剖学Ⅲ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論（生理学の基礎）	身体の成り立ち、生体恒常性、細胞、物質代謝等、生命現象の概要を説明できる
2回	神経機能の基礎－膜電位	神経系の分類、ニューロンの機能（膜電位）を説明できる
3回	神経機能の基礎－興奮の発生と伝導	ニューロンの機能（活動電位の発生と伝導）を説明できる
4回	シナプス伝達、中枢神経機能	ニューロンの機能（シナプス伝達）を説明できる 主な中枢神経機能を説明できる
5回	筋収縮	骨格筋の構造と働き、筋の収縮の仕組み、筋のエネルギー供給の仕組みを説明できる
6回	運動単位	骨格筋の運動神経支配、運動単位を説明できる
7回	骨格筋の受容器と伸張反射	骨格筋の受容器と感覚神経、伸張反射を説明できる
8回	骨格筋の種々の反射性調節	屈曲反射、交叉性伸展反射など様々な反射とその仕組みを説明できる
9回	運動に関わる脳機能	運動の調節に関わる脳領域（脳幹、小脳、大脳基底核、大脳皮質）とその機能を説明できる
10回	自律神経系支配の特徴	自律神経系による調節の特徴を説明できる
11回	自律神経系の中枢と反射	自律神経系の中枢と内臓反射を説明できる
12回	感覚一般の特徴、体性感覚	感覚の分類と一般的特徴、体性感覚の仕組みを説明できる
13回	視覚	視覚の仕組みを説明できる
14回	聴覚	聴覚の仕組みを説明できる
15回	総復習	これまで学習した重要ポイントを説明できる

成績評価	①リアクションペーパーの提出（不定期）10％ ②定期試験 90％
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内で全体に実施する。
使用教材教科書	生理学第3版 医歯薬出版 内田さえ・原田玲子ほか
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	生理学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	黒澤 美枝子	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	「生理学」は「生きている身体の仕組み」を知る学問です。「生理学」では健常なヒトででの仕組みを学びます。「正常」から逸脱した状態が「病的な状態」であり、生理学はこれから皆さんが学ぶ学問の基本になります。生理学Ⅱでは、人体の生理機能のうち、植物機能（血液・循環・生体の防御・呼吸・消化と吸収・栄養代謝・体温・排泄・内分泌）を学んでいきます。				
学習の留意点	生理学Ⅱでは血液、循環、生体の防御、呼吸、消化と吸収、栄養代謝、体温、排泄、内分泌など広く植物機能を学びます。そして、各機能の調節をする「神経系」（生理学Ⅰで講義）についても生理学Ⅱで再び勉強することになります。範囲が広い分1回の授業で学ぶ内容も多くなります。そのため、各分野において特に重要な点を中心に解説していきたいと思います。生理学Ⅰと生理学Ⅱで教科書1冊を学び終えます。				
到達目標	①循環・呼吸の機能を説明でき、血圧調節や呼吸調節の仕組みを説明できる。 ②生体の防御の仕組みを説明できる。 ③消化・吸収、栄養代謝の仕組みを説明できる。 ④体温調節の仕組みを説明できる。 ⑤排泄の仕組みを説明できる。 ⑥代表的なホルモンの生理機能、分泌調節を説明できる。				
授業形態	講義			遠隔	
関連科目	解剖学Ⅱ	内科学・老年学Ⅱ			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	血液の機能	血液の組成と働き、血球の生成・分化、止血作用を説明できる
2回	生体の防御機能	白血球の機能、自然免疫、獲得免疫を説明できる
3回	心臓の機能	心臓の構造と機能を説明できる
4回	血管機能と動脈圧調節	血管機能、動脈圧の反射性調節を説明できる
5回	呼吸の機能（内呼吸）	ガスの交換と運搬を説明できる
6回	呼吸運動の調節と肺気量	呼吸運動とその調節の仕組み、肺気量を説明できる
7回	消化管の運動機能	胃・小腸・大腸の運動、排便の仕組みを説明できる
8回	消化液の機能、栄養素吸収	唾液・胃液・膵液・胆汁をその分泌調節、栄養素の吸収を説明できる
9回	栄養素の働きと代謝	栄養素の働きとその代謝を説明できる
10回	体温調節	産熱と放熱の仕組み、体温調節の仕組みを説明できる
11回	排泄機能	腎臓の尿生成機構、蓄尿と排尿の仕組みを説明できる
12回	ホルモンの分類と分泌の調節	ホルモンの分類、分泌刺激、分泌調節の仕組みを説明できる
13回	ホルモンの各論	視床下部ホルモン、下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモンの種類とその作用、分泌調節を説明できる
14回	ホルモンの各論	甲状腺ホルモン、膵臓ホルモン、副腎髄質ホルモン、副腎皮質ホルモンの種類とその作用、分泌調節を説明できる
15回	総復習	これまで学習した重要ポイントを説明できる

成績評価	①リアクションペーパーの提出（不定期）10％ ②定期試験 90％
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内で全体に実施する。
使用教材教科書	生理学第3版 医歯薬出版 内田さえ・原田玲子ほか
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	生理学実習	単位	1	コマ数	15
担当講師	渡辺 信博	学 年		1年生	
資格					

科目概要	生理学実習はグループ学習が基本となります。ヒトの生理機能の基本となる、血圧や心拍数、心電図、皮膚感覚、筋電図を自身の体で測定し、安静時や負荷（刺激）を与えた時の変化を調べます。生理機能の変化を体験することに加え、グループ内でデータを比較することで個体差についても学びます。測定機器の操作を習得し、実施した内容をレポートに文章や図でまとめることを通じて、生理学で学んだ内容の理解をより深めることが本実習の目的です。				
学習の留意点	実習に臨むにあたり、実習書をあらかじめ読み、各実習の目的や手順などを理解しておいてください。さらに生理学生理学の座学で学んだことに基づき、結果を予想しておいてください。もし予想した結果が得られなかった場合や失敗してしまった場合でも、その原因をよく考察することが重要です。 各実習で得た結果は各自がレポートにまとめ、必ず提出してください（〆切は実習の翌週の授業開始までです）。				
到達目標	人体の生理機能について理解を深める。				
授業形態	対面授業				
関連科目	生理学Ⅰ	解剖学Ⅲ			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習の一般的解説	生理学実習における注意事項や実習の進め方について理解する。
2回	実習①～③の解説	実習①～③の目的や実施内容、方法を理解する。
3回	実習①：血圧と心拍数 1	血圧と心拍数を測定し、安静時及び体位変換の影響を理解する。
4回	実習①：血圧と心拍数 1	血圧と心拍数を測定し、安静時及び体位変換の影響を理解する。
5回	実習②：血圧と心拍数 2	血圧と心拍数を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する。
6回	実習②：血圧と心拍数 2	血圧と心拍数を測定し、運動負荷と寒冷負荷の影響を理解する。
7回	実習③：心電図	心電図を記録し、心電波形の意味を理解する。深呼吸や暗算が心拍数に及ぼす影響とそのしくみを考察する。
8回	実習③：心電図	心電図を記録し、心電波形の意味を理解する。深呼吸や暗算が心拍数に及ぼす影響とそのしくみを考察する。
9回	実習④、⑤の解説	実習④、⑤の目的や実施内容、方法を理解する。
10回	実習④の準備、実習④：皮膚感覚	実習④で使用する刺激毛を作製する。2点弁別閾を測定する。
11回	実習④：皮膚感覚	皮膚の感覚点を測定する。皮膚の部位による感覚点の分布の違いや皮膚冷却の影響を理解する。
12回	実習④：皮膚感覚	皮膚の感覚点を測定する。皮膚の部位による感覚点の分布の違いや皮膚冷却の影響を理解する。
13回	実習⑤：筋電図	等張性運動時や等尺性運動時の筋電図を測定し、屈筋と伸筋のはたらきを理解する。
14回	実習⑤：筋電図	等張性運動時や等尺性運動時の筋電図を測定し、屈筋と伸筋のはたらきを理解する。
15回	発表会	生理学実習で取り組んだ内容について、グループ毎に発表する

成績評価	実習レポートの内容（90％）と発表の取り組み（10％）により評価します。総合で6割以上の場合に単位取得を認めます。なお、授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えることはできません。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは講義時間内におこないます。
使用教材 教科書	生理学実習NAVI 第3版 医歯薬出版株式会社 大橋敦子 生理学 第3版 医歯薬出版株式会社 内田さえ・原田玲子ほか
オフィスアワー	授業前後および休み時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	福澤阿弾	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法士として治療を行うにあたり、運動器の構造と運動のつながりを理解することはとても重要である。 そのつながりを理解したうえで、骨や筋・神経・脈管を骨標本だけではなく人体を触察することで理解を深めていき、作業療法評価学や治療学に活かしていく。				
学習の留意点	筋骨格触察は、作業療法士として基礎となる評価から治療に至るまで、触れて診ることが重要なスキルとなります。 実施に当たり、まず安全性を重視し、適切な圧力や清潔さを保ちつつ、倫理的配慮を忘れないことが重要です。そして、正確な解剖学の知識を基に触察を行い、視覚と触覚を結びつける練習をすることで、効果的な技術習得を目指します。また、繰り返し練習とフィードバックを通じて技術を磨き、実際の臨床場面を想定した対応力を養うことが大切です。さらに、患者とのコミュニケーションを大切にしながら触察を行うことで信頼関係を築くことが求められます。 繰り返し演習を行うことで、対象者の身体面の変化に気付くことができるようになって欲しいです。				
到達目標	運動器の構造と運動のつながりを理解する。 骨・筋・神経・脈管の触診ができ、筋の起始・停止・走行を理解する。				
授業形態	講義・演習			対面授業	
関連科目	解剖学 I	整形外科科学 I		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体部位の名称 関節の名称と分類	身体部位の名称及び関節の名称と分類を骨標本と照らし合わせながら理解する
2回	運動の面と軸 関節運動の名称	運動の面と軸を基に関節運動の名称を理解する
3回	下肢・体幹の骨・関節の名称	下肢・体幹の骨や関節の名称を骨標本と照らし合わせながら理解する
4回	下肢・体幹の関節運動について	下肢・体幹の関節運動を理解する
5回	下肢・体幹の骨指標の触察	骨盤・大腿骨・脛骨・腓骨・足根骨・趾骨の骨指標を触察する
6回	下肢の筋・神経・脈管を触察①	大殿筋・中殿筋・大腿筋膜張筋・縫工筋の触察をする
7回	下肢の筋・神経・脈管を触察②	梨状筋・大腿方形筋・腸骨筋・大腰筋・大腿動脈の触察をする
8回	下肢の筋・神経・脈管を触察③	大腿四頭筋・大腿二頭筋・半腱様筋・半膜様筋の触察をする
9回	下肢の筋・神経・脈管を触察④	長内転筋・大内転筋・薄筋・前脛骨筋の触察をする
10回	下肢の筋・神経・脈管を触察⑤	長趾伸筋・長母趾伸筋・長腓骨筋・短腓骨筋の触察をする
11回	下肢の筋・神経・脈管を触察⑥	腓腹筋・ヒラメ筋・後脛骨筋の触察をする
12回	体幹の筋・神経・脈管を触察	腰方形筋・腹直筋・内腹斜筋・外腹斜筋・膝窩動脈・足背動脈の触察をする
13回	形態計測について	形態計測の目的や手順、方法、注意点についての講義
14回	下肢の肢長計測	下肢の肢長計測を演習にて行う
15回	下肢の周径計測	下肢・体幹の周径計測を演習にて行う

成績評価	筆記試験：50％ 実技試験：50％
課題やレポートに関するフィードバック	講義では全体に、演習では全体または個別にフィードバックを行う
使用教材 教科書	Dr. マスコリーノ Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて 標準理学療法学・作業療法学 解剖学
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	福澤阿弾	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法士として治療を行うにあたり、運動器の構造と運動のつながりを理解することはとても重要である。 そのつながりを理解したうえで、骨や筋・神経・脈管を骨標本だけではなく人体を触察することで理解を深めていき、作業療法評価学や治療学に活かしていく。				
学習の留意点	筋骨格触察は、作業療法士として基礎となる評価から治療に至るまで、触れて診ることが重要なスキルとなります。 実施に当たり、まず安全性を重視し、適切な圧力や清潔さを保ちつつ、倫理的配慮を忘れないことが重要です。そして、正確な解剖学の知識を基に触察を行い、視覚と触覚を結びつける練習をすることで、効果的な技術習得を目指します。また、繰り返し練習とフィードバックを通じて技術を磨き、実際の臨床場面を想定した対応力を養うことが大切です。さらに、患者とのコミュニケーションを大切にしながら触察を行うことで信頼関係を築くことが求められます。 繰り返し演習を行うことで、対象者の身体面の変化に気付くことができるようになって欲しいです。				
到達目標	運動器の構造と運動のつながりを理解する。 骨・筋・神経・脈管の触診ができ、筋の起始・停止・走行を理解する。				
授業形態	講義・演習			対面	
関連科目	解剖学Ⅰ	整形外科科学Ⅰ		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体部位の名称 関節の名称と分類	身体部位の名称及び関節の名称と分類を骨標本と照らし合わせながら理解する
2回	頭頸部・上肢の骨・関節の名称	頭頸部・上肢の骨や関節の名称を骨標本と照らし合わせながら理解する
3回	頭頸部・上肢の関節運動について	頭頸部・上肢の関節運動を理解する
4回	頭頸部・上肢の骨指標の触察	頭蓋骨・胸骨・鎖骨・肩甲骨・上腕骨・橈骨・尺骨・手根骨・指骨の骨指標を触察する
5回	上肢の筋・神経・脈管を触察①	僧帽筋・大菱形筋・小菱形筋・肩甲挙筋・前鋸筋の触察をする
6回	上肢の筋・神経・脈管を触察②	大胸筋・広背筋・大円筋・棘上筋・棘下筋の触察をする
7回	上肢の筋・神経・脈管を触察③	小円筋・肩甲下筋・三角筋・烏口腕筋の触察をする
8回	上肢の筋・神経・脈管を触察④	上腕三頭筋・上腕二頭筋・上腕筋・腕橈骨筋の触察をする
9回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑤	橈側手根屈筋・長掌筋・尺側手根屈筋・円回内筋・方形回内筋の触察をする
10回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑥	浅指屈筋・深指屈筋・長母指屈筋・長橈側手根伸筋・短橈側手根伸筋・尺側手根伸筋の触察をする
11回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑦	総指伸筋・回外筋・長母指外転筋・長母指伸筋・短母指伸筋の触察をする
12回	上肢の筋・神経・脈管を触察⑧	短母指外転筋・短母指屈筋・母指対立筋・小指対立筋・母指内転筋の触察をする
13回	頭頸部の筋・神経・脈管を触察	胸鎖乳突筋・頸動脈・上腕動脈・橈骨動脈の触察をする
14回	上肢の肢長計測	上肢の肢長計測を演習にて行う
15回	上肢・体幹の周径計測	上肢・体幹の周径計測を演習にて行う

成績評価	筆記試験：50％ 実技試験：50％
課題やレポートに関するフィードバック	講義では全体に、演習では全体または個別にフィードバックを行う
使用教材 教科書	Dr. マスコリーノ Know the Body 筋・骨格の理解と触診のすべて 標準理学療法学・作業療法学 解剖学
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	機能解剖学Ⅲ	単位	1	コマ数	15
担当講師	阿部英人	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	身体障害分野において神経疾患患者を担当する機会が多く、その障害像を理解する上で各神経系の構造、機能などの知識は非常に重要である。脳、脊髄の中中枢神経系の構造と機能、末梢神経の構造と各末梢神経が支配する筋について学習する。				
学習の留意点	解剖学の知識は各疾患の障害像の理解に欠かせない知識となります。各神経系の知識習得には文字の暗記だけではなく図示しイメージすることで覚えやすくなります。また、他者に伝えるという方法も自分自身の知識の確認となります。講義では教授のみではなく適宜グループワークを行い互いに説明する機会を設けます。				
到達目標	①中枢神経系の構造を理解する ②中枢神経系の機能を理解する ③神経叢の構造を理解する ④末梢神経と支配筋を理解する				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学Ⅲ	身体障害評価学演習		身体障害治療学演習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション 神経概論	神経の構造を説明出来る
2回	神経概論	神経の興奮と伝導、興奮の伝達を説明出来る
3回	大脳の構造と機能	大脳の構造を説明することが出来る。主な脳回、脳溝を図示し説明することが出来る
4回	大脳の構造と機能	大脳の機能局在を説明することが出来る
5回	大脳辺縁系の構造と機能	大脳辺縁系の構造を理解する。辺縁系の機能について説明することが出来る
6回	間脳の構造と機能	間脳の機能と構造を説明することが出来る。
7回	脳幹の構造	中脳、橋、延髄それぞれの主要部位を理解する
8回	脳神経の機能	脳神経の機能分類、それぞれの脳神経の機能について説明することが出来る
9回	小脳の構造	小脳の構造について理解する
10回	小脳の構造と機能	小脳と各機関とのつながり及び小脳の機能について説明することが出来る
11回	脊髄の構造	脊髄の構造（外観及び横断面）を理解する。
12回	下行性伝導路	錐体路についてその経路と機能を説明することが出来る。錐体外路系の経路と機能を理解する
13回	上行性伝導路	感覚の種類を理解する。感覚の伝導路の経路と機能について説明することが出来る
14回	末梢神経の構造と支配筋	腕神経叢、腰・仙骨神経叢の髄節を神経叢から分岐する末梢神経を理解する。上肢・下肢筋を支配する末梢神経を理解する。
15回	末梢神経と筋支配 中枢神経の総復習	上肢・下肢筋を支配する末梢神経を理解する。 中枢神経系の構造と機能について説明することが出来る

成績評価	小テストの合計点6割以上、定期試験6割以上のものを合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 解剖学 奈良 勲 / 鎌倉 矩子 医学書院 教科書以外の資料は随時配布
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	運動学 I	単位	1	コマ数	15
担当講師	栗原実里	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	リハビリテーションで対象者を評価・治療するためには、身体の基本的な構造や機能、各関節の動き方を理解しておく必要がある。運動学Ⅰでは生体力学、解剖学・生理学の知識を用い、上肢の運動メカニズムや機能障害について、講義と演習を交えて学習していく。				
学習の留意点	人の身体の構造・仕組みを理解し、身体の動きを理解できているからこそ、適切な評価・治療が行えます。運動学Ⅰではその基礎となる「上肢の運動」について、解剖学や機能解剖学で学んだ知識を復習しながら、具体的な関節運動のメカニズムについてを勉強していきます。 筋の起始・停止は、その筋の作用をイメージするうえでとても重要になります。骨格標本で筋の走行をイメージしながら関節運動を理解していきましょう。また学習量は多く、一気に覚えることは難しいのでこまめに復習し知識の定着に努めてください。				
到達目標	(1) 上肢の関節運動を、解剖学、生理学、運動学の専門用語を用いて適切に表現できる。 (2) 上肢の正常な運動メカニズムや、機能障害について説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	機能解剖学	解剖学		生理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	基礎知識：骨・関節について	骨関節の構造について説明できる
2回	基礎知識：筋の構造と随意運動について	随意運動のメカニズムについて説明できる
3回	肩甲帯・肩の構造	肩甲帯・肩の解剖学的構造について説明できる
4回	肩甲帯・肩の動きに関わる筋	肩甲帯・肩の動きに関わる筋を説明できる
5回	肩甲帯・肩の運動	肩甲帯・肩の運動と筋の作用を説明できる
6回	肘関節・前腕の構造	肘関節・前腕の解剖学的構造について説明できる
7回	肘関節・前腕の動きに関わる筋	肘関節・前腕の動きに関わる筋を説明できる
8回	肘関節・前腕の運動	肘関節・前腕の運動と筋の作用を説明できる
9回	手関節の構造	手関節の解剖学的構造について説明できる
10回	手関節の運動と筋	手関節のの運動と筋の作用を説明できる
11回	手指の関節の構造	手指の関節の解剖学的構造について説明できる
12回	手指の関節運動	手指の関節の動きに関わる筋を説明できる
13回	手指の関節運動に関わる筋	手指の関節の運動と筋の作用を説明できる
14回	手の機能と機能障害	手のアーチ、手の機能と機能障害の原因を説明できる
15回	上肢の神経支配	上肢の運動に関わる筋の神経支配を説明できる

成績評価	課題30点、定期テスト70点：計100点のうち、60点以上のものを合格とします
課題やレポートに関するフィードバック	課題を添削し返却する。 また返却時に全体に模範解答のフィードバックを行う。
使用教材教科書	基礎運動学 第7版、中村隆一、齋藤宏、長崎浩、医歯薬出版
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	人間発達学	単位	1	コマ数	15
担当講師	阿部 正美	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	主にE. Hエリクソンの発達理論に沿って、ひとの各人生周期の発達特性、発達課題を概観する。発達課題に失敗する要因にも触れ、そこから生じる精神病理や現代社会の著しい構造変化がもたらす側面にも言及したい。				
学習の留意点	ヒトの一生涯を『発達』と捉え、その特性、各人生周期における発達課題を理解していく。テキスト「生涯人間発達学」を使用し、エリクソンの発達段階では成熟期にあたる教員の人生経験も交えながら発達の各過程について学ぶ。また現代社会の変化は急激かつ劇的であり、我々の生活にも多大な影響を及ぼしている。当授業でとり扱うエリクソンの発達段階においても大きな影響を及ぼしている。学生の皆さんにも社会に対して抱く印象やこれまでの社会経験などを聞きながら、ひとがこれからどう生きていくべきか考える契機としたい。この授業を通して、作業療法士という人に関わり援助する役割を担う者として、そのひとの人間としての存在の意味を、深く豊かに感じ取れる機会となれば幸いである。				
到達目標	①E. Hエリクソンの発達理論に基づいた、ヒトの各人生周期の発達特性・発達課題を理解する。 ②現代社会の様々な構造変化が、人間発達にもたらす影響について理解する。 ③幼児期後期の発達課題「遊び」について実践しその効用を理解する。				
授業形態	講義・演習・実習			対面	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション・序論	エリクソンが提唱する生涯発達の概念について、説明できる
2回	社会と生涯発達について	現代社会の様々な構造変化が人間発達にもたらす影響について理解する
3回	エリクソンの発達理論①乳児期	乳児期の発達特性、発達課題について説明できる
4回	エリクソンの発達理論②幼児期前期	幼児期前期の発達特性、発達課題について説明できる
5回	エリクソンの発達理論③幼児期後期	幼児期後期の発達特性、発達課題について説明できる
6回	実習/幼児期後期の遊び 立案	幼児期後期の発達課題である遊びについて、その過程を実際に経験することで理解を深める。
7回	実習/幼児期後期の遊び 発表	幼児期後期の発達課題である遊びについて、その過程を実際に経験することで理解を深める。
8回	エリクソンの発達理論④学童期	学童期の発達特性、発達課題について説明できる
9回	エリクソンの発達理論⑤思春期	思春期の発達特性、発達課題について説明できる
10回	エリクソンの発達理論⑥青年期	青年期の発達特性、発達課題について説明できる
11回	エリクソンの発達理論⑦成人前期	成人前期の発達特性、発達課題について説明できる
12回	エリクソンの発達理論⑧成人中期	成人中期の発達特性、発達課題について説明できる
13回	エリクソンの発達理論⑨成熟期	成熟期の発達特性、発達課題について説明できる/成熟期の今日的課題について課題レポートを作成・提出する（15回時までに提出）
14回	エリクソンの発達理論⑩成人後期	成人後期の発達特性、発達課題について説明できる
15回	演習/成熟期の今日的課題について発表・討論	成熟期の今日的課題についてのレポートの発表とそれを基にしたディスカッションに参加する

成績評価	課題レポートの提出で50％、定期試験50％の割合で評価する。 合わせて60％以上の点数のものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材 教科書	「生涯人間発達学」 服部祥子 著 医学書院 ほか適時資料プリントを配布する。
オフィスアワー	火曜日を除く平日（不在の場合はメールで相談してください）

		作業療法学科 昼間部			
科目	臨床心理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	島津 直実	学 年		1年生	
資格	公認心理師				

科目概要	臨床心理学は、心理的問題や精神障害を理解し専門的に援助することを目指す学問領域といえます。本講義では、まず、異常心理学について概説し、対象理解のための方法論として心理アセスメントを取り上げます。そして心理療法における諸理論および技法の基礎を学びます。				
学習の留意点	事前学習として教科書の該当箇所を読んでください。また、事後学習として配布資料および授業ノートを読み返し、専門用語の意味などを確認しノートにまとめ、理解を深めてください。テストは最終回に実施します。				
到達目標	臨床心理学に関する基本的な知識を習得し、説明することができる。対象理解および援助に必要な臨床心理学の視点から自らの考えを述べることができる。臨床心理学に関する基礎的な知識を日常生活の中で実践的に活かすことができる。				
授業形態	講義			遠隔授業	
関連科目	精神医学				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	臨床心理学への招待:本講義の概要	臨床心理学の定義を理解し、その対象について説明することができる
2回	異常心理学1:正常と異常の判断基準	適応的基準、価値的基準、統計的基準、病理的基準について説明できる
3回	異常心理学2:異常心理学とその基礎	ストレス・ストレッサーの種類について説明することができる
4回	異常心理学3:心理的問題・精神障害	精神疾患の臨床診断/統合失調症、気分障害の概要について説明できる
5回	心理アセスメント1:心理アセスメントの種類	心理アセスメントとはなにかについて説明できる
6回	心理アセスメント2:心理アセスメントの実際	心理アセスメントの諸技法について説明できる
7回	発達:ライフサイクルと心理臨床	ライフサイクル、発達段階、発達課題について説明できる
8回	心理療法の理論と技法1:精神分析	精神分析の理論や技法の基礎について説明できる
9回	心理療法の理論と技法2:来談者中心療法	来談者中心療法の理論や技法の基礎について説明できる
10回	心理療法の理論と技法3:交流分析	交流分析の理論や技法の基礎について説明できる
11回	心理療法の理論と技法4:認知行動療法1（行動療法・認知行動療法）	行動療法・認知行動療法の理論や技法の基礎について説明できる
12回	心理療法の理論と技法5:認知行動療法2（マインドフルネス）	マインドフルネスの理論や技法の基礎について説明できる
13回	心理療法の理論と技法6:認知行動療法3（技法）	認知行動療法の具体的な技法の基礎について説明できる
14回	心理療法の理論と技法7:家族療法・心理臨床の事例	家族療法の理論や技法の基礎について説明できる
15回	本講義のまとめ	臨床心理学の基本的な知識を日常生活の中でどのように実践的に活かすことができるか考えることができる。

成績評価	まとめテスト70%および小テストや発表等30%。授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えません。
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施します。
使用教材 教科書	臨床心理学入門 -- 多様なアプローチを越境する 有斐閣アルマ 岩壁 茂・福島 哲夫・伊藤 絵美
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	小児科学	単位	1	コマ数	8
担当講師	草野 修輔	学 年		1年生	
資格	医師、リハビリテーション専門医				

科目概要	PT・OTは発達障害領域のリハビリテーションにおいて、積極的に児とかかわっていく。小児のリハビリテーションを実施する上では、小児科領域における疾患や障害の特性などを把握しておくことは必須の課題である。本講義を通して小児・思春期に特有の疾患・障害、またその治療方法について理解を深める。				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	代表的な小児疾患の特徴およびその治療方法について説明することが出来る。				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	成長・発達	小児科学の総論、成長発達過程について理解する
2回	先天異常	遺伝子病、染色体異常、胎芽病、胎児病などについて理解する
3回	神経疾患	脳性麻痺、二分脊椎について理解する
4回	骨系統疾患 1	骨形成不全症、大理石病、くる病、骨軟化症などについて理解する
5回	筋疾患・脳炎・水頭症	筋ジストロフィー、脳炎、水頭症について理解する
6回	内科的疾患	小児の呼吸器疾患、循環器疾患、消化器疾患について理解する
7回	発達障害	学習障害、注意欠如多動性障害、自閉スペクトラム症、精神遅滞について理解する
8回	予防接種・感染症	小児の予防接種、感染症について理解する

成績評価	定期試験50%、レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	毎回講義内容に則したミニテストを行うことで理解度をチェックする。また復習の確認にも用いよう。
使用教材 教科書	なし
オフィスアワー	原則として講義日に約60分のオフィスアワーを設ける

		作業療法学科 昼間部			
科目	精神医学	単位	2	コマ数	15
担当講師	埜崎 都代子	学 年		1年生	
資格	作業療法士・精神保健福祉士				

科目概要	精神科作業療法学を学ぶにあたって土台となる精神医学の基礎知識を養う。代表的な精神疾患について疾患概念・診断基準・症状・治療等について理解し、基礎知識を習得する。				
学習の留意点	レポートおよび発表1回、試験1回実施する予定。				
到達目標	精神科作業療法学を学ぶにあたって土台となる精神医学の基礎知識を養う。代表的な精神疾患について疾患概念・診断基準・症状・治療等について理解し、基礎知識を習得する。				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	精神障害の分類	教科書第1章：精神医学とは、第2章：精神障害の成因と分類を読み授業内容を予習・復習する
2回	精神機能の障害と精神症状	教科書第3章：精神機能の障害と精神症状を読み、予習・復習する
3回	精神障害の診断と評価	教科書第4章：精神障害の診断と評価を読み予習・復習する
4回	脳器質性精神障害	教科書第5：章脳器質性精神障害、第6章：症状性精神障害を読み予習・復習する
5回	精神作用物質による精神および行動の障害	教科書第7章：精神作用物質による精神および行動の障害を読み予習・復習する
6回	てんかん	教科書第8章：てんかんを読み予習・復習する
7回	統合失調症	教科書第9章：統合失調症およびその関連障害を読み予習・復習する
8回	統合失調症	同上。副読本、統合失調症の行動特性および公開動画を視聴し理解を深める。
9回	気分障害	教科書第10章：気分（感情）障害を読み予習・復習する
10回	気分障害	同上。公開動画等を視聴し理解を深める。
11回	神経症性障害	教科書第11章：神経症性障害、第17章：心身医学を読み予習・復習する
12回	生理的障害および身体的要因に関連した疾患	教科書第12章：生理的障害および身体的要因に関連した障害を読み予習・復習する
13回	人格障害	教科書第13章：成人のパーソナリティー・行動・性の障害を読み予習・復習する
14回	発達障害	教科書第14章：知的障害、第15章心理的発達の障害、第18ライフサイクルにおける精神医学を読み、予習・復習する
15回	まとめ	教科書第19章：精神障害の治療とリハビリテーション、第20章：精神科保健医療・職業リハビリテーションを読み、予習・復習する

成績評価	レポートおよび発表・授業態度 20%・テスト 80%の予定
課題やレポートに関するフィードバック	FBは、授業内その他で適宜行う。レポートは返却する。
使用教材 教科書	標準理学療法・作業療法「精神医学」 統合失調症患者の行動特性：その支援と ICF
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	リハビリテーション医学概論Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		1年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。 各種社会的福祉制度、各種障害、補装具、リハビリテーション関連用語などについて理解する		
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする		
到達目標	リハビリテーションに関連する基本的概念、制度、障害評価、治療法などについて理解する		
授業形態	講義		対面授業
関連科目			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リハビリテーションの概念・理念・定義	リハビリテーションの概念、歴史的変遷、理念、定義を理解する
2回	障害分類とリハビリテーションの種類	障害分類とリハビリテーションの種類について理解する
3回	リハビリテーション関連職種	リハビリテーション関連職種について理解する
4回	リハビリテーション関連用語	リハビリテーション関連用語について理解する
5回	ADL・IADL・QOL	ADL・IADL・QOLの概念と評価法について理解する
6回	物理療法	各種物理療法について理解する
7回	補装具・義肢装具・自助具	補装具・義肢装具・自助具について理解する
8回	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハ	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハについて理解する
9回	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療について理解する
10回	社会福祉制度・介護保険	各種社会福祉制度・介護保険制度について理解する
11回	緩和医療・終末期医療	緩和医療・終末期医療について理解する
12回	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する
13回	代表的疾患のリハビリテーション	代表的疾患のリハビリテーションについて理解する
14回	健康寿命の延伸	健康寿命の延伸について理解する
15回	総まとめ	総まとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%
課題やレポートに関するフィードバック	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする
使用教材 教科書	なし 参考書：医学生・コメディあるのための手引き書 リハビリテーション概論 田島文博 編著
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法概論	単位	1	コマ数	15
担当講師	深瀬 勝久	学 年		1年生	
資格					

科目概要	作業療法について、今後4年間の学習の概要を理解する。今後学んでいくそれぞれの科目間の関連性についても理解し、動機づけを図る。作業療法についての定義、概念、哲学、歴史、MTDLPなどの理論、作業療法の職域、制度、対象疾患、評価と治療について学び、作業療法学生としての学習への興味、関心を醸成する				
学習の留意点	グループワークなどでの能動的な参加				
到達目標	作業療法を定義を用いて説明できる 作業療法の領域、流れ、歴史を理解できる 対象疾患について概ね理化する				
授業形態	講義		対面		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション・作業療法とは	作業療法の定義を用いて作業療法の説明ができる
2回	作業療法の流れ	作業療法の評価等について大まかに流れを理解する
3回	作業療法の歴史	歴史上の流れや法律、人名について理解する
4回	作業療法の領域	作業療法が展開される領域、法律について理解する
5回	対象疾患について（身体）	身体障害領域の疾患に関して理解する
6回	対象疾患について（身体）	身体障害領域の疾患に関して理解する
7回	対象疾患について（精神）	精神障害領域の疾患について理解する
8回	対象疾患について（発達）	発達障害領域の疾患について理解する
9回	作業療法の基礎理論	作業療法の理論について大まかに理解する
10回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントについて理解する
11回	身体障害の作業療法	身体障害領域の作業療法について理解する
12回	精神障害の作業療法	精神障害領域の作業療法について理解する
13回	発達障害の作業療法	発達障害領域の作業療法について理解する
14回	老年期障害の作業療法	老年期障害の作業療法について理解する
15回	まとめ	作業療法に関する定義、歴史、対象疾患、領域、基礎理論、流れを概ね理解する

成績評価	小テスト、授業内成果物、レポート50点、試験50点
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 作業療法マニュアル 生活行為向上マネジメント 改定第4版
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	基礎作業学	単位	1	コマ数	12
担当講師	深瀬 勝久	学 年		1年生	
資格					

科目概要	作業療法の基礎理論、評価・治療に必要な作業活動について学ぶ				
学習の留意点	作業療法の基礎理論について興味関心が持てるようにする				
到達目標	作業療法の基礎理論について学ぶ 作業分析を行う				
授業形態	講義		対面		
関連科目	基礎作業学演習	各評価学・治療学			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	授業の流れについて理解する
2回	作業療法の目的	作業療法の目的について理解する
3回	作業とは	作業活動とは何かを理解する
4回	ひとと作業	人が作業を行うお目的
5回	作業療法の基礎理論	基礎理論について理解する
6回	作業療法の基礎理論	基礎理論について理解する
7回	作業療法の基礎理論	基礎理論について理解する
8回	作業療法の基礎理論	基礎理論について理解する
9回	作業分析	一般的作業分析
10回	作業分析	各領域の作業分析
11回	作業分析	各領域の作業分析
12回	まとめ	振り返りを行う

成績評価	授業内成果物、まとめのレポートで評価を行う
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	ひとと作業・作業活動
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	基礎作業学演習	単位	1	コマ数	15
担当講師	栗原実里・松生容一	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	医療・福祉領域におけるリハビリテーションの一手段として作業療法があり、作業療法では様々な活動を用いて患者様のリハビリテーションに応用していく。本講義ではあくまでその一例として「室内におけるアクティビティ」を取り上げ、実体験を通して治療への活用方法を考えてもらう。活動について解説した後、実際の活動に従事して作品の完成を目指す。				
学習の留意点	基礎作業学では、実際の作業体験を通して臨床での作業の使い方・注意点、作業の効果を理解し、作業療法士として臨床で活用できるような力を養います。 ただ制作を楽しむのではなく、この作業にはどんな機能が必要なのか、どんな効果があるのか考えながら受講するようにしてください。				
到達目標	（１）作業療法のアクティビティを体験し、作品の完成を目指すことができる。 （２）具体的な作業活動を通じて、治療への応用がイメージできる。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	基礎作業学	作業療法概論			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	革細工①	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
2回	革細工②	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
3回	革細工③	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
4回	革細工④	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
5回	革細工⑤	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
6回	革細工⑥	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
7回	革細工⑦	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
8回	籐細工①	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
9回	籐細工②	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
10回	籐細工③	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
11回	籐細工④	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
12回	籐細工⑤	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
13回	籐細工⑥	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
14回	籐細工⑦	1. 作業工程を理解し、計画的に実行することが出来る 2. 制作を通して作業の効果を説明できる
15回	作業分析	体験した作業を細かく分析し、作業の効果をまとめ、説明できる

成績評価	条件に沿った作品の提出、作業分析シートの提出 作品：30点、作業分析シート：70点：計100点のうち60点以上のものを合格とします
課題やレポートに関するフィードバック	課題を添削し返却する。 また返却時に全体に模範解答のフィードバックを行う。
使用教材 教科書	配布資料
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	体験実習	単位	1	コマ数	23
担当講師	深瀬勝久/山下高介	学 年		1年生	
資格					
補佐教員	山下 高介（中級パラスポーツ指導員）				

科目概要	作業療法に関して、作業活動、集団療法、障害者スポーツ、障害体験などを通し理解を深め、る。また障害者当事者との関わる機会を授業内実習で体験し、今後の当事者との関わり、接遇などを学ぶ。				
学習の留意点	障害者施設での作業活動を企画し、実施を行う為に、それに必要な知識、技術を得られるようにする				
到達目標	①作業療法の作業活動を理解する ②障害者当事者との関わりを理解する ③障害者スポーツを理解し、作業療法に活用することができる				
授業形態	演習		対面		
関連科目	作業療法概論	人間関係論		保健体育	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション・グループワーク	この授業でやるべきことを理解する
2回	作業療法について	作業活動の実践を通して作業療法についての理解を深める
3回	作業療法について	作業活動の実践を通して作業療法についての理解を深める
4回	車椅子トラベラー	車椅子ユーザーの当事者との交流を通して、対象者のニーズなどを考える
5回	車椅子トラベラー	車椅子ユーザーの当事者との交流を通して、対象者のニーズなどを考える
6回	車椅子トラベラー	車椅子ユーザーの当事者との交流を通して、対象者のニーズなどを考える
7回	車椅子トラベラー	車椅子ユーザーの当事者との交流を通して、対象者のニーズなどを考える
8回	障害体験	車椅子体験を通して障害者目線での生活を理解する
9回	障害体験	視覚障害他の体験を通して障害者目線での生活を理解する
10回	レクリエーション体験	ローオーガナイズドスポーツを通して集団の凝集性について理解する
11回	レクリエーション体験	ローオーガナイズドスポーツを通して集団の凝集性について理解する
12回	全国障害者スポーツ大会の概要	大会について学び、障害者スポーツの理解を深める
13回	障害者スポーツ	ボッチャなどを通して障害者スポーツの指導について理解する
14回	スポーツのインテグリティと指導者に求められる資質	パラスポーツを作業療法に活用するにあたり必要な資質、能力について学ぶ
15回	障害者スポーツの安全管理	パラスポーツを作業療法に活用するにあたり安全管理の重要性と基本的な対応方法についてについて学ぶ
16回	パラスポーツ推進の取り組み	パラスポーツの推進、施策を理解する
17回	パラスポーツに関する諸施設	パラスポーツの推進、施策を理解する
18回	作業活動の計画	障害者施設での作業活動の計画を行う疾患特性も踏まえた計画を立案できる
19回	障害者施設での作業活動	障害者施設での作業活動を通して関り、指導方、法対処能力を身につける
20回	障害者施設での作業活動	障害者施設での作業活動を通して関り、指導方、法対処能力を身につける
21回	障害者施設での振り返り	障害者施設での作業活動を通しての振り返りを行い、今後の学習につなげていく
22回	障害者施設での振り返り	障害者施設での作業活動を通しての振り返りを行い、今後の学習につなげていく
23回	まとめ	授業全体を通しての知識を確認する

成績評価	各演習ごとにレポートを作成し合算で評価する 6割以上
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	なし
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害評価学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	福澤 阿弾	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法士として治療を行うにあたり、対象者の身体機能や生活動作能力を正しく評価することはとても重要である。 身体障害分野における作業療法評価の目的や手段を十分に理解したうえで、関節可動域測定および筋力検査の手技を体得し、対象者の身体機能を正しく評価できるように学習を促していく。				
学習の留意点	治療計画を立てる前段階として、作業用法評価を正しく行うことがとても重要である。授業では実際に学生同士の体を使って実技演習を行うため、相手の体を傷めない、自身の体に負担をかけない、相手に安心して体を預けてもらう、正確な結果が得られるよう正しく検査・測定を行う等気を付けなければならないことが多い。それらを体得するためには、反復して練習することがとても重要なので、集中して授業に取り組んでほしい。				
到達目標	身体障害分野における作業療法評価の目的及び手段を理解する。 関節可動域測定では測定の目的や方法及び注意点を理解し、適切な方法で正しい測定が行えるようになる。 筋力検査では検査の種類や目的、方法及び注意点を理解し、適切な方法で正しい検査が行えるようになる。				
授業形態	講義・演習			対面	
関連科目	解剖学Ⅰ	作業療法基礎演習Ⅰ		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	作業療法における評価について	作業療法評価の目的及び手段や技術について理解する
2回	関節可動域測定について	関節可動域測定の目的及や注意点、結果における解釈を理解する
3回	肩関節の関節可動域測定	肩関節屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展の関節可動域測定
4回	肘関節・前腕・手関節の関節可動域測定	肘関節屈曲・伸展、前腕回外・回内、手関節掌屈・背屈・橈屈・尺屈の関節可動域測定
5回	母指の関節可動域測定	橈側外転・尺側内転・掌側外転・掌側内転、MP関節屈曲・伸展、IP関節の屈曲・伸展、対立の関節可動域測定
6回	手指の関節可動域測定	MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲・伸展、DIP関節屈曲・伸展、外転・内転の関節可動域測定
7回	股関節・膝関節の関節可動域測定	股関節屈曲・伸展・外転・内転・外旋・内旋、膝関節屈曲・伸展の関節可動域測定
8回	足関節・足部の関節可動域測定	足関節底屈・背屈、足部外がえし・内がえし・外転・内転の関節可動域測定
9回	筋力評価について	筋力評価の種類や目的、方法及び注意点、結果における解釈を理解する
10回	肩関節の徒手筋力検査	肩関節屈曲・伸展・外転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展の徒手筋力検査
11回	肘関節・前腕・手関節の徒手筋力検査	肘関節屈曲・伸展、前腕回外・回内、手関節掌屈・背屈の徒手筋力検査
12回	母指の徒手筋力検査	橈側外転・掌側外転・内転、MP関節屈曲・伸展、IP関節の屈曲・伸展、対立の徒手筋力検査
13回	手指の徒手筋力検査	MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲、DIP関節屈曲、外転・内転の徒手筋力検査
14回	股関節の徒手筋力検査	股関節屈曲・屈曲外転膝屈曲位での外旋・伸展・外転・屈曲位からの外転・内転・外旋・内旋の徒手筋力検査
15回	膝関節・足関節の徒手筋力検査	膝関節屈曲・伸展、足関節底屈・背屈ならびに内がえし・内がえし・底屈をとまなう外がえしの徒手筋力検査

成績評価	筆記試験のみ
課題やレポートに関するフィードバック	講義では全体に、演習では全体または個別にフィードバックを行う
使用教材 教科書	標準作業療法学 身体障碍評価学 新・徒手筋力検査法 第10版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法基礎演習Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	福澤 阿弾	学 年		1年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法士として治療を行うにあたり、対象者の身体機能や生活動作能力を正しく評価することはとても重要である。 身体障害分野における作業療法評価の目的や手段を十分に理解したうえで、関節可動域測定および筋力検査の手技を体得し、対象者の身体機能を正しく評価できるように学習を促していく。				
学習の留意点	治療計画を立てる前段階として、作業用法評価を正しく行うことがとても重要である。授業では実際に学生同士の体を使って実技演習を行うため、相手の体を傷めない、自身の体に負担をかけない、相手に安心して体を預けてもらう、正確な結果が得られるよう正しく検査・測定を行う等気を付けなければならないことが多い。それらを体得するためには、反復して練習することがとても重要なので、集中して授業に取り組んでほしい。				
到達目標	身体障害分野における作業療法評価の目的及び手段を理解する。 筋力検査では検査の種類や目的、方法及び注意点を理解し、適切な方法で正しい検査が行えるようになる。				
授業形態	講義・演習			対面	
関連科目	解剖学 I	身体障害評価学 I		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	筋力評価について	筋力評価の種類や目的、方法及び注意点、結果における解釈を理解する
2回	筋力評価について	筋力評価の種類や目的、方法及び注意点、結果における解釈を理解する
3回	肩関節の徒手筋力検査	肩関節屈曲・伸展・外転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展の徒手筋力検査
4回	肩関節の徒手筋力検査	肩関節屈曲・伸展・外転・外旋・内旋・水平屈曲・水平伸展の徒手筋力検査
5回	肘関節・前腕・手関節の徒手筋力検査	肘関節屈曲・伸展、前腕回外・回内、手関節掌屈・背屈の徒手筋力検査
6回	肘関節・前腕・手関節の徒手筋力検査	肘関節屈曲・伸展、前腕回外・回内、手関節掌屈・背屈の徒手筋力検査
7回	母指の徒手筋力検査	橈側外転・掌側外転・内転、MP関節屈曲・伸展、IP関節の屈曲・伸展、対立の徒手筋力検査
8回	母指の徒手筋力検査	橈側外転・掌側外転・内転、MP関節屈曲・伸展、IP関節の屈曲・伸展、対立の徒手筋力検査
9回	手指の徒手筋力検査	MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲、DIP関節屈曲、外転・内転の徒手筋力検査
10回	手指の徒手筋力検査	MP関節屈曲・伸展、PIP関節屈曲、DIP関節屈曲、外転・内転の徒手筋力検査
11回	上肢・手指の徒手筋力検査（まとめ）	上肢・手指の徒手筋力検査
12回	股関節の徒手筋力検査	股関節屈曲・屈曲外転膝屈曲位での外旋・伸展・外転・屈曲位からの外転・内転・外旋・内旋の徒手筋力検査
13回	股関節の徒手筋力検査	股関節屈曲・屈曲外転膝屈曲位での外旋・伸展・外転・屈曲位からの外転・内転・外旋・内旋の徒手筋力検査
14回	膝関節・足関節の徒手筋力検査	膝関節屈曲・伸展、足関節底屈・背屈ならびに内がえし・内がえし・底屈をともなう外がえしの徒手筋力検査
15回	膝関節・足関節の徒手筋力検査	膝関節屈曲・伸展、足関節底屈・背屈ならびに内がえし・内がえし・底屈をともなう外がえしの徒手筋力検査

成績評価	筆記試験：50％ 実技試験：50％
課題やレポートに関するフィードバック	講義では全体に、演習では全体または個別にフィードバックを行う
使用教材 教科書	新・徒手筋力検査法 第10版
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	運動学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	栗原実里	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	リハビリテーションで対象者を評価・治療するためには、身体の基本的な構造や機能、各関節の動き方を理解しておく必要がある。運動学Ⅱでは生体力学、解剖学・生理学の知識を用い、下肢・体幹の運動メカニズムや機能障害について、講義と演習を交えて学習していく。				
学習の留意点	人の身体の構造・仕組みを理解し、身体の動きを理解できているからこそ、適切な評価・治療が行えます。運動学Ⅱではその基礎となる「上肢の運動」について、解剖学や運動学Ⅰで学んだ知識を復習しながら、具体的な関節運動のメカニズムについてを勉強していきます。 筋の起始・停止は、その筋の作用をイメージするうえでとても重要になります。骨格標本で筋の走行をイメージしながら関節運動を理解していきましょう。また学習量は多く、一気に覚えることは難しいのでこまめに復習し知識の定着に努めてください。				
到達目標	(1) 下肢の関節運動を、解剖学、生理学、運動学の専門用語を用いて適切に表現できる。 (2) 下肢の正常な運動メカニズムや機能障害、歩行メカニズムについて説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	機能解剖学	解剖学		運動学Ⅰ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	下肢帯の構造と関節について	下肢帯の構造と関節について説明できる
2回	股関節の構造と筋	股関節の解剖学的構造と関節運動に作用する筋について説明できる
3回	股関節の運動メカニズム	股関節の運動と筋の作用を説明できる
4回	膝関節の構造と筋	膝関節の解剖学的構造と関節運動に作用する筋について説明できる
5回	膝関節の運動メカニズム	膝関節の運動と筋の作用を説明できる
6回	足の関節の構造	足の関節の解剖学的構造について説明できる
7回	足の関節に作用する筋	足の関節の運動と筋の作用を説明できる
8回	足の関節の運動メカニズム	足の関節の運動と筋の作用を説明できる
9回	下肢の神経支配	下肢の運動に関わる筋の神経支配を説明できる
10回	脊椎・体幹の構造	脊椎・体幹にある関節の解剖学的構造について説明できる
11回	体幹の運動と呼吸運動	脊椎・体幹の運動や呼吸運動に作用する筋について説明できる
12回	正常歩行の基礎知識	歩行周期を説明でき、人の歩行の概要を説明できる
13回	異常歩行	異常歩行の種類とその原因について説明できる
14回	顔面および頭部の運動	顔面および頭部の運動に作用する筋について説明できる
15回	運動学習	運動学習の仕組みを説明できる

成績評価	課題30点、小テスト・定期テスト70点：計100点のうち、60点以上のものを合格とします
課題やレポートに関するフィードバック	課題を添削し返却する。 また返却時に全体に模範解答のフィードバックを行う。
使用教材 教科書	基礎運動学 第6版補訂、中村隆一、齋藤宏、長崎浩、医歯薬出版
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	運動学実習	単位	1	コマ数	15
担当講師	栗原実里	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床では対象者の姿勢や動作の観察を通して評価していく必要があります。運動学実習では解剖学、運動学で学習した知識をもとに人の姿勢や動作を観察・分析できるように講義・演習を行います。まずは学生同士グループ内で確認しあいながら正常姿勢・動作についてを学び、異常に気づけるような視点を養いましょう。				
学習の留意点	運動学実習では対象者の姿勢や動作の記述・分析ができるようになることが目標です。正しい専門用語で記述・分析するためには、まずは対象者の動きを的確に捉える必要があります。そのためには解剖学・機能解剖学・運動学で学習してきた知識が必要になります。適宜復習してください。 また姿勢や動作の「記述」は、他のセラピストが対象者を知らなくても再現できる位、分かりやすく表現できることが大切です。 また姿勢や動作の「分析」は機能面・心理面・環境面等の要因から、なぜこのような姿勢・動作になるのか仮説を立てていく作業で、臨床では「観察力」につながります。授業内では健常者だけでなく障害のある方の姿勢・動作を通して、記述・分析する力を養っていききたいと思いますので、授業内では課題を通し繰り返し練習してください。				
到達目標	1. 生体力学、機能解剖学、生理学、運動学の知識を用いて、ヒトの姿勢・運動・動作を観察・分析し、専門用語を用いて適切に記述できるようになる。 2. 実験・実習を通して現象を論理的に分析し、科学的に考察が出来るようになる。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	機能解剖学	解剖学		運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	授業オリエンテーションと観察・分析の基礎	1. 運動学用語を適切に使える 2. 重心と支持基底面の関係を説明できる
2回	正しい姿勢のポイントと観察・記述	1. 運動学用語を適切に使い説明できる 2. 正しい姿勢のポイントを説明できる
3回	姿勢の記述と分析	対象者の姿勢を適切な運動学用語で説明し、記述できる
4回	姿勢の記述と分析・確認	1. 対象者の姿勢を適切な運動学用語で説明し、記述できる 2. 対象者の姿勢と正常姿勢との違いを説明できる
5回	異常姿勢の記述と分析	1. 対象者の姿勢を適切な運動学用語で説明し、記述できる 2. 対象者の姿勢と正常姿勢との違いを説明できる
6回	正しい姿勢と異常姿勢の記述と分析・確認	1. 対象者の姿勢を適切な運動学用語で説明し、記述できる 2. 対象者の姿勢と正常姿勢との違いを説明できる
7回	寝返り・起き上がりのポイント	寝返り・起き上がりのポイントを説明できる
8回	寝返り・起き上がりの観察・記述	1. 寝返り・起き上がりのポイントを踏まえて観察できる 2. 対象者の動作を適切な運動学用語を使って説明できる
9回	寝返り・起き上がりの記述と分析・確認	1. 対象者の動作を適切な運動学用語を使って説明できる 2. なぜそのような動作になるのか考察し仮説を立てることができる
10回	起立・着座のポイント	起立・着座のポイントを説明できる
11回	起立・着座の観察・記述	1起立・着座のポイントを踏まえて観察できる 2. 対象者の動作を適切な運動学用語を使って説明できる
12回	起立・着座の記述と分析・確認	1. 対象者の動作を適切な運動学用語を使って説明できる 2. なぜそのような動作になるのか考察し仮説を立てることができる
13回	異常動作の分析 症例①	1. 対象者の動作を適切な運動学用語を使って説明できる 2. なぜそのような動作になるのか考察し仮説を立てることができる
14回	異常動作の分析 症例②	1. 対象者の動作を適切な運動学用語を使って説明できる 2. なぜそのような動作になるのか考察し仮説を立てることができる
15回	姿勢・動作分析のまとめ	1. 対象者の姿勢と動作を適切な運動学用語で説明し、記述できる 2. 対象者の姿勢と動作について、分析・考察することができる

成績評価	課題ごとに、観察結果の記録、要点のまとめ、専門用語の使用、考察の内容、提出期限の項目で評価する。 すべての課題をまとめた合計点数100点の内、60点以上であれば合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	課題を添削し返却する。 また返却時に全体に模範解答のフィードバックを行う。
使用教材 教科書	①動作分析臨床活用講座～バイオメカニクスに基づく臨床推論の実践～ 石井慎一郎 マジカルビュー ②配布資料
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	病理学概論	単位	1	コマ数	8
担当講師	ブルカッタ アルミラ	学 年		2年生	
資格	医師. 医学博士				

科目概要	病理学総論では、疾病の本態を理解するために、細胞・組織レベルでの病的変化の基礎を学びます。炎症、循環障害、代謝異常、腫瘍、先天異常などの病理学的概念を、講義と演習を交えて習得し、疾患の成り立ちを論理的に捉える力を養います。また、臨床との関連を意識し、疾患の発生意因やメカニズムを明らかにしながら、病理学的変化が個体に及ぼす影響を総合的に考察し、作業療法に必要な基礎知識の習得を目指します。				
学習の留意点	病理学は、疾病の成り立ちや進行を理解するための基礎となる学問です。細胞や組織レベルでの異常として、炎症、循環障害、代謝異常、腫瘍、先天異常などが現れます。これらの変化を正しく理解することは、作業療法を含む医療全般において不可欠です。 病理学の概念、特に疾患に関わる専門用語は一見難しく感じるかもしれませんが、日常生活や臨床との関連を意識して学ぶことで、より深い理解につながります。本講義では、画像やイラストを用いながら、病理学的変化が個体に及ぼす影響を具体的に捉えられるよう解説します。				
到達目標	1) 進行・退行性病変，代謝障害、循環障害，炎症，腫瘍，奇形などの疾患群を総論的に説明できる。 2) 疾患に関わる病理学的用語を理解し、正しく使える。 3) 他の講座で学ぶ疾患と本講座の知識との関連性を見出し説明できる				
授業形態	1)		遠隔授業		
関連科目	内科学・老年学 I				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	病理学の概要 病因論	病理学の概念を理解し、すべての疾病には原因があり、それらは外因と内因に分類され、単独で、または相互に関係して病気が発症することを理解する。
2回	退行・進行性病変	変生、萎縮、壊死、アポトーシス、肥大、過形成、化生、異型性および再生の意義と、それぞれの病理画像の違いを説明できる。
3回	代謝異常	生命を維持するための栄養素の代謝と、代謝異常が引き起こす病態について説明できる
4回	循環障害①	血液循環の基礎と、局所循環障害の病因および病態について説明できる
5回	循環障害② 炎症	全身循環の病因・病態について理解し、炎症の経過と生体の反応を説明できる。
6回	感染症 腫瘍①	感染症の成り立ちおよび感染症を引き起こす主な病原体について理解する。腫瘍の特徴、命名と分類、形態、悪性腫瘍の進展形式を説明できる。
7回	腫瘍②	腫瘍の進行度、発生原因および発がんメカニズムを簡単に説明できる
8回	先天異常、奇形	遺伝性疾患（単一遺伝子異常）、染色体異常、奇形などの基礎を学ぶ

成績評価	定期試験6割以上のものを合格とします。（授業時間数の3分の1以上欠席した者には単位を与えない）
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施する。
使用教材教科書	標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 病理学(第4 版) （ISBN 978-4-260-02871-4） 担当教員が作成した配布プリントを使用
オフィスアワー	質問があればメールしてください almiranasirden@gmail.com, p-almira@stu.nichireha.ac.jp

		作業療法学科 昼間部			
科目	内科学・老年学Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	佐久間肇	学 年		2年生	
資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリテーション科専門医				

科目概要	内科学および老年医学は、解剖学や病理学などの基礎知識の理解の上で、リハビリテーションの対象になる疾患、障害の病因、病態、さらには薬物療法、外科的治療などの治療までを系統的に学びます。これらの理解は、各種リハビリテーションの目的や手技に対する理解を深めるためにも必須の知識になります。				
学習の留意点	国家試験において臨床医学領域の中で最も出題の多い領域の一つでもあり、2年生の終わりになれば、他の科目も含めてほとんどの国家試験過去問は解けるだけの授業は受けていることになります。2年生の内にこれらの知識を確実に身に付けましょう。知識を身に着ける方法としては、学習したことをすぐに問題形式で確認していくことが有用とされています。そこで、この授業では、毎回、授業理解の程度を確認するため、国試の過去問を中心に小テストを行いながら授業を進めます。小テストでできなかったところは必ずその日のうちに、プリントを見直し、次には確実にできるようにして下さい。				
到達目標	国家試験に出題される主要な内科疾患、老年病について、病因、病態、症候、治療について理解し、説明できることを最低限の目標とします（授業終わりに行う小テストを確実に解けるようになって下さい）。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学Ⅱ	病理学概論			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	総論 1	内科的診察の留意点、検査の結果判定のポイントについて理解し、説明できる。
2回	総論 2	障害に対する生体反応、主な内科的症候について理解し、説明できる。
3回	総論 3	総論 2 に続き、各種内科的症候について理解し、説明できる。
4回	総論 4	尿・便検査、血液検査、生理機能検査、画像検査について概要を理解し、説明できる。
5回	呼吸器 1	呼吸器の解剖、症候と病態生理、画像検査についての概要を理解し、説明できる。
6回	呼吸器 2	慢性閉塞性肺疾患、びまん性汎細気管支炎、気管支喘息の病因、病態、診断、治療について、理解し説明できる。
7回	呼吸器 3	間質性肺炎、肺がん、縦隔腫瘍、肺血栓塞栓症、サルコイドーシス、塵肺の病態、診断、治療などについて理解し、説明できる。
8回	呼吸器 4	肺炎、ARDS、特発性気胸、睡眠時無呼吸症候群の病態、診断、治療について理化し、説明できる。
9回	循環器 1	心血管系の解剖と生理、主な検査、不整脈について理解し、説明できる。
10回	循環器 2	高血圧、低血圧、虚血性心疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
11回	循環器 3	弁膜症、心膜炎、心不全の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
12回	循環器 4	心筋疾患、先天性心疾患、大動脈疾患、末梢血管疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
13回	消化器 1	解剖と生理、症候、病態生理、画像検査の概要を理解し、説明できる。
14回	消化器 2	主な食道疾患、胃・十二指腸疾患の病態、診断、治療について説明し、理解できる。
15回	消化器 3	主な小腸疾患、大腸疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。

成績評価	原則、定期試験60%以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回の授業後に小テストを行い、次回の授業初めに解答と説明を行います。
使用教材 教科書	指定教科書なし。毎回、授業範囲の穴埋め形式のプリントを配布します。
オフィスアワー	授業前後を原則としますが、授業中にわからないことがあればその場でも質問を受けます。

		作業療法学科 昼間部			
科目	内科学・老年学Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	佐久間肇	学 年		2年生	
資格	総合内科専門医、神経内科専門医、リハビリテーション科専門医				

科目概要	内科学および老年医学は、解剖学や病理学などの基礎知識の理解の上で、リハビリテーションの対象になる疾患、障害の病因、病態、さらには薬物療法、外科的治療などの治療までを系統的に学びます。これらの理解は、各種リハビリテーションの目的や手技に対する理解を深めるためにも必須の知識になります。				
学習の留意点	国家試験において臨床医学領域の中で最も出題の多い領域の一つでもあり、2年生の終わりになれば、他の科目も含めてほとんどの国家試験過去問は解けるだけの授業は受けていることになります。2年生の内にこれらの知識を確実に身に付けましょう。知識を身に着ける方法としては、学習したことをすぐに問題形式で確認していくことが有用とされています。そこで、この授業では、毎回、授業理解の程度を確認するため、国試の過去問を中心に小テストを行いながら授業を進めます。小テストでできなかったところは必ずその日のうちに、プリントを見直し、次には確実にできるようにして下さい。				
到達目標	国家試験に出題される主要な内科疾患、老年病について、病因、病態、症候、治療について理解し、説明できることを最低限の目標とします（授業終わりに行う小テストを確実に解けるようになって下さい）。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学Ⅱ	整形外科科学Ⅱ			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	肝・胆道系、膵臓 1	肝臓・胆道・膵臓の解剖と生理、検査の概要について理解し、説明できる。
2回	肝・胆道系、膵臓 2	主な肝胆疾患、膵疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
3回	血液 1	血液の成分の生理、血液細胞の分化、症候、検査法の概略と主な赤血球系疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
4回	血液 2	主な白血球系の疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
5回	血液 3	主な出血性疾患、血栓性疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
6回	内分泌 1	内分泌腺の解剖と生理、主な下垂体疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
7回	内分泌 2	主な甲状腺・副甲状腺・副腎疾患の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
8回	代謝異常	糖尿病、高尿酸血症、メタボリックシンドローム、アミロイドーシスの病態、診断、治療について理解し、説明できる。
9回	腎臓	腎・泌尿器の解剖と生理、主な腎疾患について理解し、説明できる。
10回	膠原病 1	免疫機構とアレルギー、SLEの病態、診断、治療について理解し、説明できる。
11回	膠原病 2	全身性強皮症、多発性筋炎/皮膚筋炎、MCTD、ベーチェット病の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
12回	膠原病 3	関節リウマチ、強直性脊椎炎、シェーグレン症候群、結節性多発動脈炎の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
13回	老年医学 1	人口の高齢化、身体・精神機能の加齢変化、転倒の要因と予防について理解し、説明できる。
14回	老年医学 2	フレイル、サルコペニアの概念と治療、認知症の病態、診断、治療について理解し、説明できる。
15回	老年医学 3	がんの疫学、高齢者のがんの特性、がんのリハビリテーションの概要について理解し、説明できる。

成績評価	原則、定期試験60％以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	毎回の授業後に小テストを行い、次回の授業初めに解答と説明を行います。
使用教材教科書	指定教科書なし。毎回、授業範囲の穴埋め形式のプリントを配布します。
オフィスアワー	授業前後を原則としますが、授業中にわからないことがあればその場でも質問を受けます。

		作業療法学科 昼間部			
科目	整形外科学Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	河内 勇樹	学 年		2年生	
資格	理学療法士/鍼灸・あん摩マッサージ指圧師				

科目概要	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。 更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。 前期では、整形外科学の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。
学習の留意点	整形外科学の学習においては、解剖学・運動学・生理学の知識を確実に定着させ、それをもとに疾患の理解を深めることが重要です。骨・関節・筋・神経の構造や機能を正しく把握し、それらがどのように関連し合い、疾患がどのように発生するのかをイメージしながら学習を進め、各疾患の病態を基礎知識と結びつけながら理解していただきたいです。 また、国家試験対策として、過去の出題傾向を踏まえ、頻出疾患の病態・診断・治療を体系的に整理し、実際の試験問題を解きながら知識の定着を図ることが重要です。本講義でも、基礎知識を土台に疾患を具体的にイメージしながら学習しましょう。
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。
授業形態	対面講義
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ,検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ,運動療法学Ⅰ・Ⅱ,疾患別理学療法Ⅰ

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	整形外科学について	整形外科学とは、リハビリテーションとの関わり合い
2回	診断と治療総論	整形外科診断学、治療法
3回	軟部組織損傷	軟部組織の外傷総論、コンパートメント症候群、熱傷
4回	骨関節損傷総論	骨折総論、関節損傷
5回	肩、肩甲帯	肩関節の解剖、肩の外傷、疾患
6回	肘、前腕	肘関節の解剖、肘関節周囲の外傷と疾患
7回	手関節、手指	手関節・手指の解剖、外傷
8回	手関節、手指	手関節・手指の疾患
9回	股関節、大腿	股関節の解剖、外傷、疾患
10回	膝関節、下腿	膝関節の解剖、外傷、疾患
11回	足関節、足部	足関節の解剖、外傷、疾患
12回	脊椎、脊髄	脊椎、脊髄の解剖、外傷
13回	脊椎、脊髄	脊椎、脊髄の疾患
14回	脊椎、脊髄□	脊椎、脊髄の疾患②
15回	試験対策	2 5 問小テスト実施後に解説

成績評価	テスト100%
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施する
使用教材教科書	整形外科学テキスト(改定第4版) 南江堂
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	整形外科Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	河内 勇樹	学 年		2年生	
資格	理学療法士/鍼灸・あん摩マッサージ指圧師				

科目概要	整形外科学は、上肢、下肢、体幹の運動器官を専門に扱う科で、骨、関節、筋肉、神経などが関係する分野である。骨折や捻挫などの外傷と、変形性関節症や関節リウマチなど、さまざまな疾患がある。これら運動器の外傷や疾患の治療には、リハビリテーションに関わる理学療法士、作業療法士、義肢装具士などの参加が極めて重要である。 更には、運動器疾患の理解は障害者の理解にも繋がり、福祉にも関わる作業療法士にはその理解が必須である。 前期では、整形外科学の概論から、主に全身に関する疾患についての講義を行う。後期では、上肢、下肢、体幹などの部位別の疾患や外傷、およびスポーツなどの特殊な項目の講義を行う。
学習の留意点	整形外科学の学習においては、解剖学・運動学・生理学の知識を確実に定着させ、それをもとに疾患の理解を深めることが重要です。骨・関節・筋・神経の構造や機能を正しく把握し、それらがどのように関連し合い、疾患がどのように発生するのかをイメージしながら学習を進め、各疾患の病態を基礎知識と結びつけながら理解していただきたいです。 また、国家試験対策として、過去の出題傾向を踏まえ、頻出疾患の病態・診断・治療を体系的に整理し、実際の試験問題を解きながら知識の定着を図ることが重要です。本講義でも、基礎知識を土台に疾患を具体的にイメージしながら学習しましょう。
到達目標	整形外科学の講義、前期、後期を通じて、①運動器の構造と機能を理解する、②運動器に生じる主なる疾患や外傷の知識を得る、③運動器疾患の病態、障害を理解して、治療手段につなげる能力を養う、ことを目的とする。
授業形態	対面講義
関連科目	運動学Ⅰ・Ⅱ,検査測定法Ⅰ・Ⅱ・Ⅳ,運動療法学Ⅰ・Ⅱ,疾患別理学療法Ⅰ

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ロコモティブシンドローム	ロコモティブシンドロームの概念、運動器不安定症、フレイル、高齢者の運動器
2回	リウマチ性疾患	関節リウマチ総論
3回	リウマチ性疾患②	悪性関節リウマチ、強直性関節炎、若年性突発性関節炎
4回	関節疾患	関節の役割、病態、全身性関節疾患
5回	感染症	化膿性関節炎、骨髄炎、骨関節の感染症
6回	代謝、内分泌疾患	骨軟化症、くる病、骨粗鬆症、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、巨人症、先端巨大証
7回	骨、軟部腫瘍	骨腫瘍と軟部腫瘍
8回	末梢神経障害 上肢下肢	末梢神経の解剖、評価、上肢下肢の末梢神経損傷
9回	絞扼性末梢神経障害	絞扼性末梢神経障害総論口
10回	脳性麻痺	脳性麻痺の原因、発達、病型
11回	筋ジストロフィー	筋ジストロフィーの原因、病型、症状
12回	骨系統疾患・骨端症	骨系統疾患・骨端症
13回	四肢循環障害、慢性疼痛疾患	四肢循環障害による疾患、慢性疼痛疾患
14回	四肢切断および四肢欠損	切断の原因、術式、合併症など
15回	スポーツ整形外科	障害者スポーツ、スポーツ外傷、スポーツ障害、疲労骨折、RICE， など

成績評価	テスト１００％
課題やレポートに関するフィードバック	FBは全体に実施する
使用教材教科書	整形外科学テキスト(改定第4版) 南江堂
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	神経内科学Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	加藤 陽久	学 年		2年生	
資格	医師				

科目概要	将来、リハビリテーションに関わる医療人として活動するために必要な神経内科学の基礎的知識を学ぶ。本邦では高齢化社会がすすみ、疾患を有しても、充実した人生を歩むことが望まれることから、リハビリテーションへの期待はますます高まるばかりである。リハビリテーションの対象となる疾患として、整形外科疾患とともに、脳卒中や神経変性疾患をはじめとした神経疾患は主要な疾患群であり、高齢化社会を迎えた本邦にあっては、今後、神経疾患を有する患者が増加することは想像に難くない。このことから神経内科学を理解することは、リハビリテーションに関わる医療人として必須の要素となる。				
学習の留意点	本講義では、神経内科学について、神経解剖・神経生理・神経症候・神経学的検査など、神経内科学総論について講義を進め、つぎに続く神経疾患各論における理解への基礎を形成していく。当然のことであるが、他科目の講義内容の理解も必要であり、不明な点は他科目であっても振り返る。また、同様に他科目の講義において本科目の知識が必要となることもある。その場合にも本科目を振り返って学修しなおす。このように関連科目間での相互的な理解をすすめ、学修を深化させる。 ・授業外学修 予習（事前学修）：十分な時間を割り、該当する範囲の教科書および参考書を熟読しておくこと。 ・授業外学修 復習（事後学修）：十分な時間を割り、理解に至らなかった部分を確認すること。教員への質問があれば、講義と講義のあいだの休憩時間、あるいは講義前・講義後にて適宜、対応する。また事務を経由しての質問も受け付ける。ただし、後者については回答に時間を要する。なによりも講義には積極的な姿勢で臨まれたい。				
到達目標	神経内科学総論を理解し、リハビリテーションの実践に活かす基礎的な知識を身につける。				
授業形態	講義				
関連科目	解剖学Ⅲ	機能解剖学Ⅲ		身体障害評価学演習	
	高次脳機能障害治療学				

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	神経系の基礎	神経系の解剖・生理について学修・理解し、説明できる
2回	神経診察Ⅰ	意識について学修・理解し、説明できる
3回	神経診察Ⅱ	高次脳機能について学修・理解し、説明できる
4回	神経診察Ⅲ	高次脳機能について学修・理解し、説明できる
5回	神経診察Ⅳ	脳神経系について学修・理解し、説明できる
6回	神経診察Ⅴ	脳神経系について学修・理解し、説明できる
7回	神経診察Ⅵ	脳神経系について学修・理解し、説明できる
8回	神経診察Ⅶ	運動系について学修・理解し、説明できる
9回	神経診察Ⅷ	運動系について学修・理解し、説明できる
10回	神経診察Ⅸ	不随意運動について学修・理解し、説明できる
11回	神経診察Ⅹ	感覚系・反射について学修・理解し、説明できる
12回	神経系の検査Ⅰ	神経画像について学修・理解し、説明できる
13回	神経系の検査Ⅱ	神経画像について学修・理解し、説明できる
14回	神経系の検査Ⅲ	生理学的検査について学修・理解し、説明できる
15回	神経系の検査Ⅳ	脳脊髄液検査について学修・理解し、説明できる

成績評価	テスト100%
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは適宜実施する。
使用教材 教科書	＜教科書＞ 神経内科学テキスト 第5版 （南江堂） ＜参考書＞ ベッドサイドの神経の診かた 第18 版 （南山堂） 臨床のための神経機能解剖学 （中外医学社） 脳の機能解剖と画像診断 第2版 （医学書院）
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	神経内科学Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	加藤 陽久	学 年		2年生	
資格	医師				

科目概要	将来、リハビリテーションに関わる医療人として活動するために必要な神経内科学の基礎的知識を学ぶ。本邦では高齢化社会がすすみ、疾患を有しても、充実した人生を歩むことが望まれることから、リハビリテーションへの期待はますます高まるばかりである。リハビリテーションの対象となる疾患として、整形外科疾患とともに、脳卒中や神経変性疾患をはじめとした神経疾患は主要な疾患群であり、高齢化社会を迎えた本邦にあっては、今後、神経疾患を有する患者が増加することは想像に難くない。このことから神経内科学を理解することは、リハビリテーションに関わる医療人として必須の要素となる。				
学習の留意点	本講義では、神経内科学について、神経学総論に引き続き、神経疾患各論として、脳血管障害、変性疾患、末梢神経疾患、筋疾患など、代表的な神経疾患について学修していく。当然のことであるが、他科目の講義内容の理解も必要であり、不明な点は他科目であっても振り返る。また、同様に他科目の講義において本科目の知識が必要となることもある。その場合にも本科目を振り返って学修しなおす。このように関連科目間での相互的な理解をすすめ、学修を深化させる。 ・授業外学修 予習（事前学修）：十分な時間を割き、該当する範囲の教科書および参考書を熟読しておくこと。 ・授業外学修 復習（事後学修）：十分な時間を割き、理解に至らなかった部分を確認すること。 教員への質問があれば、講義と講義のあいだの休憩時間、あるいは講義前・講義後にて適宜、対応する。また事務を経由しての質問も受け付ける。ただし、後者については回答に時間を要する。 なによりも講義には積極的な姿勢で臨まれたい。				
到達目標	神経内科学各論を理解し、リハビリテーションの実践に活かす基礎的な知識を身につける。				
授業形態	講義				
関連科目	解剖学Ⅲ	機能解剖学Ⅲ			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	脳血管障害Ⅰ	虚血性脳血管障害について学修・理解し、説明できる
2回	脳血管障害Ⅱ	出血性脳血管障害について学修・理解し、説明できる
3回	脳血管障害Ⅲ	その他の血管障害について学修・理解し、説明できる
4回	変性疾患Ⅰ	パーキンソン病とその類縁疾患について学修・理解し、説明できる
5回	変性疾患Ⅱ	脊髄小脳変性症について学修・理解し、説明できる
6回	変性疾患Ⅲ	運動ニューロン疾患ほか、について学修・理解し、説明できる
7回	中枢性脱髄性疾患	多発性硬化症ほか、について学修・理解し、説明できる
8回	末梢神経疾患	ギラン・バレー症候群ほか、について学修・理解し、説明できる
9回	筋疾患	筋ジストロフィーほか、について学修・理解し、説明できる
10回	神経筋接合部疾患	重症筋無力症ほか、について学修・理解し、説明できる
11回	腫瘍・脊髄疾患	脳腫瘍ほか、について学修・理解し、説明できる
12回	感染性疾患	髄膜炎ほか、について学修・理解し、説明できる
13回	先天異常・内科系疾患	内科系疾患における神経障害ほか、について学修・理解し、説明できる
14回	外傷・自律神経疾患・機能性疾患	頭痛・めまい・てんかんほか、について学修・理解し、説明できる
15回	認知症疾患	アルツハイマー型認知症ほか、について学修・理解し、説明できる

成績評価	テスト100%
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは適宜実施する。
使用教材 教科書	<教科書> 神経内科学テキスト 第5版 （南江堂） <参考書> ベッドサイドの神経の診かた 第18 版 （南山堂） 臨床のための神経機能解剖学 （中外医学社） 脳の機能解剖と画像診断 第2版 （医学書院）
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	リハビリテーション医学概論Ⅱ	単位	2	コマ数	15
担当講師	草野 修輔	学 年		2年生	
資格	リハビリテーション専門医				

科目概要	この授業では、リハビリテーション概論に関する基本的知識を習得する。 各種社会的福祉制度、各種障害、補装具、リハビリテーション関連用語などについて理解する				
学習の留意点	各講義に即したミニテストを理解度の確認とする				
到達目標	リハビリテーションに関連する基本的概念、制度、障害評価、治療法などについて理解する				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リハビリテーションの概念・理念・定義	リハビリテーションの概念、歴史的変遷、理念、定義を理解する
2回	障害分類とリハビリテーションの種類	障害分類とリハビリテーションの種類について理解する
3回	リハビリテーション関連職種	リハビリテーション関連職種について理解する
4回	リハビリテーション関連用語	リハビリテーション関連用語について理解する
5回	ADL・IADL・QOL	ADL・IADL・QOLの概念と評価法について理解する
6回	物理療法	各種物理療法について理解する
7回	補装具・義肢装具・自助具	補装具・義肢装具・自助具について理解する
8回	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハ	急性期リハ・回復期リハ・生活期リハについて理解する
9回	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療	障害者総合支援法・地域包括ケアシステム・在宅医療について理解する
10回	社会福祉制度・介護保険	各種社会福祉制度・介護保険制度について理解する
11回	緩和医療・終末期医療	緩和医療・終末期医療について理解する
12回	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害	運動障害・感覚障害・高次脳機能障害について理解する
13回	代表的疾患のリハビリテーション	代表的疾患のリハビリテーションについて理解する
14回	健康寿命の延伸	健康寿命の延伸について理解する
15回	総まとめ	総まとめ

成績評価	定期試験：筆記試験50%＋レポート課題50%				
課題やレポートに関するフィードバック	各講義の最後に出題するミニテストについて、復習をかねて解答する				
使用教材 教科書	なし 参考書：医学生・コメディあるのための手引き書 リハビリテーション概論 田島文博 編著				
オフィスアワー	授業前後の休憩時間				

		作業療法学科 昼間部			
科目	地域実習セミナー	単位	1	コマ数	15
担当講師	栗原	学 年		2年生	
資格	作業療法士：病院・老人保健施設12年、教育分野20年				

科目概要	地域における施設の役割や機能、その中で働く作業療法士の業務を知ることにより、知識習得への動機づけを行うとともに、作業療法士としての基本的態度の獲得を目指す。				
学習の留意点	学生が自ら疑問に思い気づきを持てるような課題の提供を行っていきます。また、プレゼンを行うことによりアウトプットによる他者への伝達能力も養うような働きかけ授業の中で行っていきます。				
到達目標	○実習を通して臨床現場で基本的な態度を学ぶため、心構えを作る。 ○訪問リハ、通所リハの機能、役割を理解する。 ○訪問リハ、通所リハで働くOTの役割を理解する。 ○地域リハに必要な資源を考察できる。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	地域作業療法Ⅰ	地域作業療法Ⅱ		老年期治療学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	地域実習について理解する。
2回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの理解及びシート作成が行える。
3回	生活行為向上マネジメント	生活行為向上マネジメントの理解及びシート作成が行える。
4回	演習（PBL）	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
5回	演習（PBL）	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
6回	演習（PBL）	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
7回	演習（PBL）	グループとしてペーパー・ペイシエントに対する検討・考察ができる。
8回	演習	グループとして、ペーパー・ペイシエントに対する考察・検討を行った上で、全体に発表することができる。
9回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
10回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
11回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
12回	事前学習	実習施設の事前調べ学習に伴い、施設の役割・機能などについて概要を知ることができる。
13回	実習の報告	実習後の報告資料を作成することができる。
14回	実習の報告	作成した実習報告資料を発表しできる。また、発表者に対して質問等が行える。
15回	実習の報告	作成した実習報告資料を発表しできる。また、発表者に対して質問等が行える。

成績評価	グループ学習、個人調べ学学習、発表用レポートなどを合算し、トータル60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	担当者からその都度資料を配付します。
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法管理学	単位	2	コマ数	15
担当講師	五十嵐千代子	学 年		2年生	
資格					

科目概要	・作業療法士は国の社会保障制度（医療保険や介護保険など）のもとで従事していることを認識する。 ・この制度下でさまざまな職業の方々と共に職務を遂行していく「多職種連携」について知る。 ・これからの日本の人口構造や制度の変化に対応できる「マネジメント力」について知る。 ・「職場管理」「組織運営」について知る。 ・専門職としての「職業倫理」を知り、日頃より意識して行動できるようにする。 ・卒業後も専門職として自己研鑽が必要であることを知る。				
学習の留意点	・授業の内容に基づいた課題に取り組むことで、学習内容の定着につなげる。 ・授業に出席したうえでの課題の取り組みとなるため、欠席の場合は0点となるので注意。 ・定期テスト前に復習の課題を行う。この内容を覚えて試験に臨むこと。				
到達目標	・「医療保険」と「介護保険」について対象者、保険の概要について説明することができる。 ・「障害者総合支援法」や「就労支援」について対象者や内容の説明をすることができる。 ・専門職に求められる「職業倫理」について説明することができる。 ・職場の「管理」「運営」について具体例を挙げて説明することができる。 ・「質の保証」と「リスクマネジメントについて説明できる。 ・卒後教育について説明できる。				
授業形態	講義		0		
関連科目	作業療法概論	リハビリテーション概論		リハビリテーション医学	
	0	0		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	作業療法管理学のオリエンテーション	医療保険と介護保険の仕組み、使用のされ方、＊2 財源と保険の活用のされ方を説明
2回	社会保障制度	組織の中での部門の役割／療法士の業務 組織、記録、診療報酬について ＊3 作業療法部門での収益の確保
3回	業務管理	労働条件管理や労働環境の整備 ＊4 労務管理に関する問題を解く
4回	労務管理	組織マネジメント リーダーシップとマネジメントの講義 ＊5 フォロワー，リーダー，それぞれの立場で物事を考える
5回	組織マネジメント	専門職に求められる職業倫理 ＊6 職業倫理に関する事例検討
6回	職業倫理	障害者手帳、障害者総合支援法での支援 ＊7 この制度の活用によって広がることは
7回	障害者・障害児サービス	就労支援に関する施設と内容 ＊8 住んでいる地域の就労支援施設を知る
8回	就労支援	行政におけるリハビリテーション支援 ＊9 病院と行政の支援の違いは
9回	地域における予防・保健	法律／職能団体 ＊10 どのような法律で身分が保証されているのか
10回	身分法と倫理綱領	他職種連携 講義と連携事例の紹介 ＊11 地域包括ケア会議の動画を観ての感想
11回	多職種連携と地域連携	患者満足度と質／リスクマネジメント ＊12 作業療法の質を高めつつ，患者満足度を高めるためには
12回	医療の質とリスクマネジメント	養成教育と卒後教育 専門職になるためとなった後の教育についての講義 ＊13 卒後もなぜ学び続けるのか
13回	養成教育と卒後教育	自己研鑽、職能団体の役割、学会、学術活動についての講義 ＊14 作業療法の良さを世の中に広めるためには
14回	養成教育と卒後教育	社会人基礎力 ＊15 社会人基礎力を身につけるために
15回	働くということ	自己研鑽、職能団体の役割、学会、学術活動についての講義

成績評価	授業内の課題45点、定期試験55点の合算で60点以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	課題はコメントを付けて返却。
使用教材 教科書	リハビリテーション管理学 斉藤秀之 能登真一 医学書院
オフィスアワー	木曜日以外

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害評価学Ⅱ	単位	2	コマ数	23
担当講師	五十嵐千代子 小笹久志	学 年		2年生	
資格					

科目概要	「上肢骨折」「末梢神経損傷」「関節リウマチ」「脊髄損傷」に関して、作業遂行評価について原因・症状、生活行為やそれを行うのに必要な心身の活動、生活上の障害などについて学ぶ。脊髄損傷に関しては事例を提示しIADLについて考え発表を行う演習をする。				
学習の留意点	解剖学、生理学の体の仕組み、運動学の筋と支配神経、菌の作用の知識が基礎となります。各々が復習しながら理解するように努めてください。				
到達目標	- それぞれの疾患の原因や医学的治療、障害像について説明することができる。 - 疾患の特徴に沿った評価について説明できる。 - 個々に求める生活行為を向上させるための作業療法治療・援助などについて説明できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	解剖学	生理学		運動学	
	整形外科学	機能解剖学		日常生活活動学	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	頸髄損傷の病態像	病態像について理解することができる。
2回	頸髄損傷の障害像	障害像について理解することができる。
3回	頸髄損傷の評価項目	代表的な評価について説明できる。
4回	頸髄損傷の評価項目	代表的な評価について説明できる。
5回	残存筋とADLの関係	残存筋とADLの関係について説明できる。
6回	機能レベル別のADL	機能レベル別のADLについて説明できる。
7回	機能レベル別のADL	機能レベル別のADLについて説明できる。
8回	機能レベル別のADL	機能レベル別のADLについて説明できる。
9回	頸髄損傷者のIADLについて考える	車椅子ユーザーと一緒に出掛けるプランを考える。
10回	頸髄損傷者のIADLについて考える	車椅子ユーザーと一緒に出掛けるプランを考える。
11回	頸髄損傷者のIADLについて考える	プレゼン用のパワーポイントの作成、発表準備。
12回	頸髄損傷者のIADLについて考える	発表とフィードバック。
13回	骨折 総論・病態	骨折の総論・病態を説明できる。
14回	骨折 上肢骨折の評価	上肢骨折の評価を説明できる。
15回	骨折 上肢骨折の対処	上肢骨折の対処を説明できる。
16回	骨折 下肢骨折の評価	下肢骨折の評価を説明できる。
17回	骨折 下肢骨折の対処	下肢骨折の対処を説明できる。
18回	関節リウマチの病態	関節リウマチの病態を説明できる。
19回	関節リウマチの評価	関節リウマチの評価を説明できる。
20回	関節リウマチの対処	関節リウマチの対処を説明できる。
21回	末梢神経損傷の病態	末梢神経損傷の病態を説明できる。
22回	末梢神経損傷の評価	末梢神経損傷の評価を説明できる。
23回	末梢神経損傷の対処	末梢神経損傷の対処を説明できる。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	定期試験の解答を開示。
使用教材 教科書	- 標準作業療法学 作業療法評価学 第3版 編集 能登真一 医学書院 - 標準作業療法学 身体機能作業療法学 第3版 編集 山口 昇 医学書院 - 作業療法学全書 改訂第4版 第4巻 作業治療学1 身体障害 編集 菅原洋子 協同医書出版
オフィスアワー	五十嵐 火・水・金 9：00～17：00 教員室 もしくは G-mail 小 笹 火・木・金 14：00～21：00 教員室 もしくは G-mail

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害評価学演習	単位	1	コマ数	23
担当講師	阿部英人	学 年		2年生	
資格					

科目概要	身体障害領域の中でも脳血管疾患の対象者を診る機会が多くあります。この授業では脳血管疾患の病態・基礎知識と評価の基礎を学びます。 実際の対象者を前に評価をすることを前提に評価時の態度や身だしなみ、話し方などの基本的態度を身に付けていくことを心掛けて下さい。				
学習の留意点	各項目を関連付け脳血管障害の障害像をイメージ出来るようにして下さい。検査方法のみを習得するのではなく、検査の意義、検査方法、結果の解釈までの一連の流れを理解し、障害が操作に与える影響を考えながら受講して下さい。また、対象者への配慮も意識しながら取り組んで下さい。				
到達目標	身体障害領域の脳血管疾患の基礎知識と評価の基礎を学び、模擬患者に必要な評価を実施できる。				
授業形態	演習		対面		
関連科目	身体障害治療学演習	神経内科学		解剖学・生理学	
	身体障害評価学Ⅰ	#REF!		#REF!	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	中枢神経系の構造と機能・脳動脈と脳血管疾患について	中枢神経系の構造と機能を理解し脳血管障害と関連させることが出来る
2回	脳血管疾患の症状について	脳血管疾患の発生機序と分類・病態と障害を説明することが出来る。
3回	脳血管疾患の障害：反射と筋緊張の異常の機序（講義）	反射と筋緊張検査の意義を説明することが出来る
4回	脳血管疾患の評価：反射と筋緊張の評価技法（演習）	反射と筋緊張検査を適切に実施し評価結果を記載することが出来る。
5回	脳血管疾患の評価：運動検査と回復段階（講義と演習）	ブルンストロームによる回復段階の意義を説明することが出来る
6回	脳血管疾患の評価：ブルンストロームテスト（演習）	ブルンストローム法及び上田の片麻痺機能テストにより上肢の運動検査が実施できる
7回	脳血管疾患の評価：ブルンストローム（演習）	ブルンストローム法上田の片麻痺機能テストにより下肢の運動検査が実施できる
8回	脳血管疾患の評価：ブルンストロームと上田の片麻痺機能テスト（演習）	ブルンストローム法及び上田の片麻痺機能テストにより手指の運動検査が実施できる
9回	脳血管疾患の障害：感覚検査（講義）	感覚障害の発生機序、感覚検査の意義を説明することが出来る
10回	脳血管疾患の評価：感覚検査（演習）	感覚検査を適切に実施し評価結果を記載することが出来る。
11回	脳血管疾患の障害：脳神経	脳神経の障害について説明出来る。
12回	脳血管疾患の評価：脳神経の評価	脳神経の検査を適切に実施し評価結果を記載することが出来る。
13回	脳血管疾患の評価：脳神経の評価	脳神経の検査を適切に実施し評価結果を記載することが出来る。
14回	脳血管疾患の障害：小脳の障害	小脳障害について説明出来る
15回	脳血管疾患の障害：小脳の障害評価	協調運動検査を適切に実施し評価結果を記載することが出来る。
16回	脳血管疾患の評価：バランス（姿勢反射）の知識と障害（講義）	バランス検査の意義を説明することが出来る
17回	脳血管疾患の評価；バランス検査（演習）	静的坐位・立位バランス検査、動的バランスを適切に実施し評価結果を記載することが出来る。
18回	脳血管疾患の動作：基本的動作の観察評価（講義・演習）	脳血管障害の基本的動作の特徴を理解し適切に評価し結果を記載することが出来る。
19回	脳血管疾患の動作：基本動作の観察評価（講義・演習）	脳血管障害の基本的動作の特徴を理解し適切に評価し結果を記載することが出来る。
20回	脳血管疾患の画像の診かた：	脳の解剖と機能、画像の種類を理解し、画像と病巣・障害予測を説明出来る
21回	脳血管疾患の障害と評価のまとめ（講義・演習）	学生同士が脳卒中片麻痺患者を模倣し全般的な検査・測定をに実施することができる。
22回	脳血管疾患の障害と評価のまとめ（講義・演習）	学生同士が脳卒中片麻痺患者を模倣し全般的な検査・測定をに実施することができる。
23回	脳血管疾患の障害と評価のまとめ（講義・演習）	学生同士が脳卒中片麻痺患者を模倣し全般的な検査・測定をに実施することができる。

成績評価	定期試験（筆記試験：40％、実技試験60％）で総合評価します。その上で、60点以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	作業療法学全書 身体障害 病気がみえるvol.7脳神経 標準作業療法 作業療法評価学
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	精神障害評価学	単位	1	コマ数	15
担当講師	深瀬 勝久	学 年		2年生	
資格					

科目概要	精神障害領域の障害特性を復習し、作業療法での評価について学ぶ				
学習の留意点	精神症状などを理解できるように具体例を伝える				
到達目標	情報収集・観察・面接・検査に関して一通り体験、理解する				
授業形態	講義		対面		
関連科目	精神医学	精神障害治療学		精神障害治療学演習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	今後の授業の流れを理解する
2回	精神医学の確認	統合失調症について理解する
3回	精神医学の確認	感情障害、神経症などについて理解する
4回	精神医学の確認	認知症などについて理解する
5回	対象者・自己の理解	精神障害の対象者の内的な面を理解する
6回	対象者・自己の理解	障害者に関わる自分の内的な面を理解する
7回	評価技法・情報収集	他部門からの情報収集に関して理解する
8回	評価技法・観察	外観の観察について理解する
9回	評価技法・観察	作業活動の観察について理解する
10回	評価技法・面接	精神障害における面接技法を習得する
11回	評価技法・心理テストなど	心理テスト、質問紙による評価方法を理解する
12回	焦点化	評価のまとめとICF、焦点化について理解する
13回	症例検討	ペーパーペイシントを活用した症例検討を行う
14回	症例検討	ペーパーペイシントを活用した症例検討を行う
15回	まとめ	授業の振り返りとまとめを行う

成績評価	小テスト30点・期末テスト70点合算で6割以上
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材 教科書	精神障害と作業療法 標準理学療法・作業療法 精神医学
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	発達障害評価学	単位	2	コマ数	15
担当講師	大西 麓子	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	発達に障害を持つ子どもや療育者を支援するさい作業療法士は様々な評価を実施する。関わる子どもは生まれた時から障害を持っていることが多い。その障害（疾患）も様々であり、療育者への関与に関しても支援することが重要である。作業療法士が援助を開始するためには、情報を収集し、分析し、解釈しつつ子どもの課題の原因と出現のメカニズムを知る作業が必要である。情報を収集するためには臨床場面でよく実施される臨床観察や使用される評価法を学ぶ必要がある。方法としては臨床観察の仕方と標準化されている評価法を経験し、臨床思考はMTDLPと照らし合わせる。自分の体をどのように動かすと、臥位から座ることができるのかな？（運動機能）握ったり、摘んだりするには目の動きや体の位置はどうなっているのかな？（巧緻運動、手と目の協調性）いつも動き回って、集中することが苦手な子どもはなぜ？（公園にある遊具はどのように動かし、脳のどこに作用するのか）評価する方法が多くなるのでノートのとり方、配布される資料の整理をしっかりとすること。	
学習の留意点	・ 定期試験は別日程にて実施 ・ 演習では体が動きやすい服装で参加してください。 ・ 評価実技は沢山の練習といろんな学生さんと練習することが大切です	
到達目標	発達に障害を持つ子どもの様々な疾患の基礎知識と評価の基礎から実施まで学び、必要な評価について具体的に説明ができること。	
授業形態	講義	実習
関連科目	人間発達学 運動学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	発達障害領域について	発達障害児・者における評価の意義を説明できる
2回	発達障害の評価（粗大運動）	実際に臥位→立位までを行い、表現できる（言語化すること）
3回	発達障害の評価（粗大運動）	乳児期～1才半までの体の動かし方を体験し表現できる（言語化すること）
4回	運動発達の評価	反射・反応について説明できる
5回	運動発達の評価	粗大運動能力尺度（GMFM）について説明できる
6回	運動発達の評価	子どもの上肢機能・発達について説明できる
7回	標準化された評価法（量的）	作業療法士が良く使用する、標準化された評価法について実施し、説明できる
8回	標準化された評価法（量的）	作業療法士が良く使用する、標準化された評価法について実施し、説明できる
9回	特定の領域の検査	作業療法士が良く使用する、特定の領域の検査について実施し、説明できる
10回	特定の領域の検査	作業療法士が良く使用する、特定の領域の検査について実施し、説明できる
11回	特定の領域の検査	軽度発達障害児に使用されるスクリーニング検査について実施ができ、説明ができる
12回	特定の領域の検査	視覚機能、上肢機能（エハート）の評価について説明ができる
13回	特定の領域の検査	提示された動画を観て評価・分析ができる
14回	発達障害の評価のまとめ	提示された動画を観て評価・分析ができる
15回	発達障害の評価のまとめ	すべての発達障害・評価についてのおさらい

成績評価	・筆記試験（90％） ・レポート提出（10％）
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材 教科書	標準作業療法 専門分野 作業療法評価学 担当教員が作成した配布プリントを使用 随時、記録用紙などを配布
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法基礎演習Ⅱ	単位	2	コマ数	30
担当講師	阿部英人、大西麗子、 手塚雅之	学 年		2年生	
資格					

科目概要	身体障害分野、精神障害分野、発達障害分野の評価技術の習得を目指します				
学習の留意点	身障分野：バイタルサイン、上肢機能検査、感覚検査は幅広い疾患で使用する検査となります。上肢機能検査では広く使用されているＳＴＥＦについて学びます。上肢機能検査はＳＴＥＦのみではないので注意して下さい。感覚検査は被験者の主観に頼らなければならないため検査の環境、被験者の状態を考慮した上で実施する必要があります。検査の指示にあたり学生間でフィードバックを行いどのように伝えれば良いか考えながら進めていきましょう。				
到達目標	①身体障害分野の検査測定目的、内容を理解し適切な方法で実施できる。				
授業形態	演習			対面	
関連科目	身体障害評価学	身体障害治療学演習			

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	身体障害分野①バイタルサイン評価 担当：阿部	血圧、脈、体温、呼吸、意識の正常値を説明することが出来る
2回	身体障害分野①血圧、脈、体温、呼吸の評価 担当：阿部	血圧、脈、体温、呼吸、意識の測定が行える
3回	身体障害分野②上肢機能評価 担当：阿部	上肢機能評価の対象、目的を説明することが出来る
4回	身体障害分野②ＳＴＥＦ 担当：阿部	ＳＴＥＦによる評価が実施出来る
5回	身体障害分野③感覚評価（講義） 担当：阿部	表在感覚の種類を説明することが出来る。感覚検査の対象、目的を説明することが出来る。
6回	身体障害分野③触覚・痛覚評価 担当：阿部	触覚・痛覚の評価が実施出来る
7回	身体障害分野③温冷覚評価 担当：阿部	温冷覚の評価が実施出来る
8回	身体障害分野③識別覚評価 担当：阿部	識別覚の評価が実施出来る
9回	身体障害分野③深部感覚評価 担当：阿部	深部感覚検査の対象、目的を説明することが出来る。
10回	身体障害分野③深部感覚評価 担当：阿部	深部感覚の評価が実施出来る
11回	精神障害分野 講義オリエンテーション担当：手塚	対人コミュニケーションの演習を行う
12回	精神障害分野 他者・自己の理解	自己肯定感・自己管理能力について演習を通して学ぶ
13回	精神障害分野 他者・自己の理解	自己肯定感・自己管理能力について演習を通して学ぶ
14回	精神障害分野 観察・面接（観る）	観察から非言語的情報を読み取る体験を行う
15回	精神障害分野 観察・面接（聴く）	対人コミュニケーションにおいて聴く練習を行う
16回	精神障害分野 観察・面接（伝える）	伝え方、伝わり方の演習を行う
17回	精神障害分野 医療面接	信頼関係を築くための面接・質問を考える
18回	精神障害分野 医療面接	医療場面における面接を体験する
19回	精神障害分野 観察（作業面接）	作業面接の観察・記録をする
20回	精神障害分野 観察（作業面接）	作業面接の観察・記録をする
21回	発達障害分野 知的機能の評価担当：大西	知的機能に必要な評価項目と実施、解釈について学ぶ
22回	発達障害分野 知的機能の評価担当：大西	知的機能に必要な評価項目と実施、解釈について学ぶ
23回	発達障害分野 発達障害児の評価	遊びの評価、視知覚機能、上肢の操作機能評価を学ぶ
24回	発達障害分野 発達障害児の評価	粗大運動機能評価
25回	発達障害分野 脳性麻痺児の評価（姿勢・運動）	脳性まひの特徴を知り、反射・筋緊張・姿勢反射・姿勢と手の機能を学ぶ
26回	発達障害分野 脳性麻痺児の上肢機能評価	脳性まひの特徴を知り、姿勢と手の機能、日常生活動作機能評価を学ぶ
27回	発達障害分野 重症心身障害児の評価	姿勢・手の機能の特徴を学ぶ、対象者の評価を学ぶ
28回	発達障害分野 摂食機能評価	対象者の特徴を知り口腔機能の評価方法を学ぶ
29回	発達障害分野 食事動作機能評価	対象者の特徴を知り食事動作機能の評価方法を学ぶ
30回	発達障害分野 整形外科疾患に対する評価（二分脊椎など）	疾患に合わせた評価、まとめを学ぶ

成績評価	3領域の平均し6割以上を合格とします。 ①身体障害分野では血圧測定、ＳＴＥＦ、感覚検査の実技試験を実施し各検査6割以上を合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	「標準作業療法学 身体障害評価学 第4版」編集 能登真一 医学書院
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害治療学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	阿部英人 五十嵐千代子	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	① I C Fとは2001年に世界保健機関（WHO）総会において採択された人間の生活機能と障害の分類法である。作業療法を展開するにあたり、対象者個人の人物・物的・文化的環境との関わりを幅広く捉え、プラス面、マイナス面を同時に評価し、治療に結び付ける視点を養う必要がある。 ②作業療法支援では内部障害について病態、評価、治療について講義を通して学ぶ。				
学習の留意点	I C Fは作業療法士のみならず医療・福祉関係者の共通言語となっています。そのため臨床現場では欠かせない基本的な知識となります。臨床現場（実習）に出るまでに確実に知識の習得に努めて下さい。内部障害の特徴として神経疾患や整形疾患と違い目に見えにくいという特徴があります。また日常生活動作においても標準化されたテストでは評価しきれない側面があります。この授業では内部障害患者に対して作業療法プロセスでは日常生活動作の評価・指導を主に進めていきます。				
到達目標	① I C Fの特徴を理解し、各項目に分類が出来る ②循環器呼吸器内分泌の解剖生理を理解する ③内部障害の病態 ④内部障害への作業療法プロセスを説明することが出来る。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	解剖学	生理学		内科老年学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ICFの概念について I C I D Hから I C F への変遷	ICIDHからICFへの変遷について説明することが出来る。 . ICFの特徴について説明することが出来る。
2回	ICFの構成要素	各構成要素の特徴、それぞれの相互作用を説明することが出来る。
3回	ICFにて全体像を捉える	模擬症例を通し、それぞれの構成要素に分類することが出来る。
4回	ICFにて全体像を捉える	模擬症例を通し、それぞれの構成要素に分類することが出来る。
5回	循環器疾患の作業療法	循環器の構造を説明することが出来る
6回	循環器疾患の作業療法	循環器の病態を説明することが出来る
7回	循環器疾患の作業療法	循環器疾患の評価と作業療法支援を説明することが出来る
8回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器の構造を説明することが出来る。呼吸器の病態を説明することが出来る
9回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の評価を説明することが出来る
10回	呼吸器疾患の作業療法	呼吸器疾患の作業療法支援を説明することが出来る
11回	糖尿病疾患の作業療法	糖尿病の病態について説明することができる。
12回	糖尿病疾患の作業療法	糖尿病による障害の評価と作業療法士のかかわり方について説明できる。
13回	乳がんの作業療法	乳がんによる障害について説明できる。
14回	乳がんの作業療法	乳がんの術後のリハビリテーションの進め方や、リンパ浮腫の生活指導などについて説明できる。
15回	終末期の作業療法	終末期の作業療法士の評価、かかわり方について説明できる。

成績評価	小テスト6割以上、定期試験（筆記試験）6割以上得点したものを合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	・作業療法学全書 第4巻 身体障害 菅原 洋子 編著 協同医書出版 ・標準作業療法学 作業療法評価学 能登真一 他 編集 医学書院
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害治療学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年		2年生	
資格	認定作業療法士／医療福祉教育・管理修士				

科目概要	作業療法治療学として、身体障害を生じる代表的疾患に対する基本的な作業療法について理解することを,ねらいとします。 【モデルコアカリ】 F-2-1) 身体障害作業療法 F-2-9) 義肢装具に関わる作業療法 D-14-1) 熱傷 E-1-4) 生活行為向上マネジメント				
学習の留意点	必要に応じて事前学習や復習ができているか、あるいはその機会を授業の中で取り入れて、学生の理解度を確認すること。				
到達目標	①疾患ごとの生活障害の特性について ②疾患ごとの予後について ③治療原理について ④疾患ごとの作業療法について ①～④の内容について、学生は治療的アプローチの思考過程を説明できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	身体障害治療学Ⅰ	身体障害評価学Ⅰ・Ⅱ		身体障害治療学演習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	関節可動域の治療原理①ROM	・関節可動域の拡大について、問題が生じる原因と改善方法について説明できる
2回	関節可動域の治療原理②ROM維持・改善	・関節可動域の拡大、筋力の維持・増強について、問題が生じる原因と改善方法について説明できる
3回	筋力の治療原理①筋力低下の原因・評価	・筋力の維持・増強について、問題が生じる原因と改善方法について説明できる
4回	筋力の治療原理②筋力維持・改善	・筋力の維持・増強について、問題が生じる原因と改善方法について説明できる
5回	演習学習 ROM/筋力に対するアプローチと作業（MTDLP）	MTDLPの基本的プログラムにおける筋力・可動域のアプローチについて評価をふまえてつながりを説明できる
6回	熱傷①病態と医学的治療	・熱傷について、病態と医学的治療および作業療法評価とアプローチについて説明できる
7回	熱傷②評価と作業療法	・熱傷について、病態と医学的治療および作業療法評価とアプローチについて説明できる
8回	神経変性疾患 1：パーキンソン病	・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自具を含めた作業療法アプローチについて説明できる
9回	神経変性疾患 2：脊髄小脳変性症	・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自具を含めた作業療法アプローチについて説明できる
10回	神経筋疾患 1：ギランバレー症候群	・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自具を含めた作業療法アプローチについて説明できる
11回	神経筋疾患 2；多発性硬化症	・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自具を含めた作業療法アプローチについて説明できる
12回	神経筋疾患 3：ALS評価	・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自具を含めた作業療法アプローチについて説明できる
13回	神経筋疾患 4：ALSの作業療法	・神経変性疾患、神経筋疾患について、病態像と対象機器・自具を含めた作業療法アプローチについて説明できる
14回	切断①：原因、手術、術前術後評価	・切断について、切断前後の評価と術後の断端管理、作業療法アプローチ、義手義足の使用までの過程を説明できる
15回	切断②：作業療法アプローチ	・切断について、切断前後の評価と術後の断端管理、作業療法アプローチ、義手義足の使用までの過程を説明できる

成績評価	●定期試験： 80％ 第 1回～13回： 1～ 5回 30点 6～13回 57点 第14回～15回 13点 ●課題取り組み：20％ 課題提出期限、課題体裁・形式の厳守
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	作業療法全書 改訂第3版 作業治療学1 身体障害：菅原洋子 編集（協同医書出版社） 義肢装具のチェックポイント：日本整形外科学会/日本リハビリテーション医学会 監修（医学書院）
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	精神障害治療学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	山下 高介	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。				
学習の留意点	精神障害領域の作業療法では、複数の専門知識を多面的に組み合わせて対象者を支援します。本科目では、その中でも特に重要とされる専門知識や視点に絞り演習を行うことで学生の理解度を高めるように構成します。				
到達目標	①精神科作業療法における支援手法や種類を挙げることができる。 ②精神科作業療法における支援を実演できる。 ③精神科作業療法における支援結果を正しく記述し、解釈を説明できる。□				
授業形態	講義		対面		
関連科目	精神障害評価学	精神障害治療学Ⅱ		0	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	本科目の構成や評定方法を説明できる。
2回	精神科作業療法支援に用いる知識や理論①	精神科作業療法の支援プロセスについて、説明できる。
3回	精神科作業療法支援に用いる知識や理論②	精神科作業療法の支援に活用できる作業療法理論を挙げることができる。
4回	精神科作業療法支援に用いる知識や理論③	精神科作業療法の支援に活用できる作業療法以外の理論を挙げることができる。
5回	#REF!	プロセスレコード内で、精神科作業療法の支援について言及できる。
6回	精神科作業療法支援とプロセスレコード	精神科作業療法において、特に重要となる個人因子と環境因子について列挙できる。
7回	精神科作業療法の心身機能に対する支援	ケーススタディにおいて、個人因子と環境因子が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
8回	精神科作業療法の心身機能に対する支援演習	精神科作業療法において、特に重要となる心身機能について列挙できる。
9回	精神科作業療法の活動に対する支援	ケーススタディにおいて、心身機能が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
10回	精神科作業療法の活動に対する支援演習	精神科作業療法において、特に重要となる活動について列挙できる。
11回	精神科作業療法の参加に対する支援	ケーススタディにおいて、活動が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
12回	精神科作業療法の参加に対する支援演習	精神科作業療法における参加に必要な要素について列挙できる。
13回	精神科作業療法の個人因子・環境に対する支援	ケーススタディにおいて、参加が支援にどのように関連しているのかを述べることができる。
14回	精神科作業療法の個人因子・環境に対する支援演習	ICFを用いて、それぞれの要素と支援の関係を図示し、説明することができる。
15回	精神科作業療法で活用できるアクセシビリティ	Microsoftに標準搭載されたアクセシビリティ機能について、説明を受けながら操作することができる。

成績評価	下記の構成で、全体の60%以上で合格とします。 ①ポートフォリオ：10%、②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	教科書：最新 作業療法学講座 精神障害作業療法学参考図書主観的感覚と生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック精神科リハビリテーション評価法ハンドブック（e-book）
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	精神障害治療学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	山下 高介	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	作業療法は精神医療におけるリハビリテーションの中心に据えられており、評価から治療へいたる一連の流れや臨床思考過程を理解しておくことは、臨床の現場に出る前に必須のことである。そのため、作業療法の専門的な知識を活用した精神障害領域における実践について、座学と演習を通して学ぶ。				
学習の留意点	精神障害領域の作業療法では、複数の専門知識を多面的に組み合わせて対象者を支援します。本科目では、その中でも特に重要とされる専門知識や視点に絞り演習を行うことで学生の理解度を高めるように構成します。□				
到達目標	①疾患別の支援手法や種類を挙げることができる。 ②疾患別の支援を実演できる。 ③疾患別の支援結果を正しく記述し、解釈を説明できる。				
授業形態	講義		対面		
関連科目	精神障害治療学Ⅰ	0		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーションと導入	本科目の構成や評定方法について説明できる。
2回	精神科作業療法における統合失調症の評価と支援	面接演習で得た情報から、対象者の精神症状について自身の意見を述べることができる。
3回	統合失調症のケーススタディ①	面接演習で得た情報から、認知行動療法を用いて対象者像について自身でモデル化することができる。
4回	統合失調症のケーススタディ②	原稿をもとに、対象者の状態に合わせて面接技法を実演することができる。
5回	精神科作業療法におけるうつ病の評価と支援	Co-opアプローチについて、利点を列挙することができる。
6回	うつ病のケーススタディ①	Co-opアプローチについて、クラスメイトを相手に実演してみることができる。
7回	うつ病のケーススタディ②	統合失調症の回復指標を列挙できる。
8回	精神科作業療法における依存症候群の評価と支援	事例の情報をもとに、評価と支援内容を提案することができる。
9回	依存症候群のケーススタディ①	自身で提案した評価と支援内容を実施するための準備と実演がすることができる。
10回	依存症候群のケーススタディ②	うつ病の回復指標を列挙できる。
11回	#REF!	事例の情報をもとに、評価と支援内容を提案することができる。
12回	#REF!	自身で提案した評価と支援内容を実施するための準備と実演がすることができる。
13回	#REF!	依存症候群の回復指標を列挙できる。
14回	#REF!	事例の情報をもとに、評価と支援内容を提案することができる。
15回	#REF!	自身で提案した評価と支援内容を実施するための準備と実演がすることができる。

成績評価	下記の構成で、全体の60%以上で合格とします。 ①ポートフォリオ：10%、②演習課題：90%
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	教科書：精神科作業療法の理論と技術参考図書最新 作業療法学講座 精神障害作業療法学主観的感覚と生きづらさに寄り添う～精神科作業療法士が伝えたい臨床思考ケースブック精神科リハビリテーション評価法ハンドブック（e-book）
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	発達障害治療学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	大西 麓子	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	発達に何らかの障害を持つ子どもや者に対する作業療法について、障害特性を学び、発達段階ふまへ評価、支援目標や内容について学ぶ。特に治療学Ⅰでは出会う機会の多い脳性麻痺児・者、軽度発達障害児について援助方法を学ぶ。障害の特性を知る為に動画見て、記録する作業もある。				
学習の留意点	・演習では体が動きやすい服装で参加してください ・評価実技は沢山の練習といろんな学生さんと練習することが大切です ・各項目でプリントを配布します。必ず持参すること。				
到達目標	・定期試験は別日程にて実施 ・自分たちで体験する授業では動きやすい服装で ・実技の際はいつも決まった同士で実施しない事				
授業形態	講義		対面授業		
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	発達とは 発達課題とは	発達障害とは何か説明ができる
2回	発達に障害を持った児・者に対する作業療法士の役割について	発達に障害をもった子どもに対する作業療法士の役割について説明ができる
3回	脳性麻痺児・者への理解と援助の進め方	脳性麻痺とは何か/定義・多様性、治療理論を説明できる
4回	脳性麻痺、痙直型（四肢麻痺）	痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
5回	脳性麻痺、痙直型（両麻痺）	痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
6回	脳性麻痺、痙直型（片麻痺）	痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
7回	脳性麻痺、アテトーゼ型	アテトーゼ型の特徴を説明できる
8回	脳性麻痺児・者への援助方法	脳性麻痺児・者への援助方法を列挙できる
9回	脳性麻痺児・者への援助方法・抱っこの方法	脳性麻痺児の援助方法の説明ができる
10回	更衣動作：自分たちで体験する	セルフケアの1つである更衣について説明できる
11回	更衣動作：自分たちで体験する	実技を通して動作分析ができる
12回	軽度発達障害の援助法の1つの感覚統合療法について	軽度発達障害とは何か 定義、多様性、援助方法を説明できる
13回	注意欠陥他動性障害。自閉スペクトラム症等の作業療法	援助方法の1つである感覚統合について説明ができる
14回	感覚統合療法で使用する遊具で遊んでみて、活動分析をする	学校にある遊具で遊んでみて遊具の意義が説明できる
15回	遊具で遊んで見て、活動分析の発表、まとめ	活動分析ができ、説明できる

成績評価	・筆記試験（80％） ・実技テスト（10％） ・課題（10％） の総合判定
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材教科書	・発達障害の作業療法 「実践編」 第3版 ・子どもの理解と援助のために〔感覚統合Q＆A〕 改訂第2版 担当教員が作成した配布プリントを使用 随時、記録用紙などを配布
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	発達障害治療学Ⅰ	単位	1	コマ数	15
担当講師	大西 麓子	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	発達に何らかの障害を持つ子どもや者に対する作業療法について、障害特性を学び、発達段階ふまへ評価、支援目標や内容について学ぶ。特に治療学Ⅰでは出会う機会の多い脳性麻痺児・者、軽度発達障害児について援助方法を学ぶ。障害の特性を知る為に動画見て、記録する作業もある。				
学習の留意点	・演習では体が動きやすい服装で参加してください ・評価実技は沢山の練習といろんな学生さんと練習することが大切です ・各項目でプリントを配布します。必ず持参すること。				
到達目標	・定期試験は別日程にて実施 ・自分たちで体験する授業では動きやすい服装で ・実技の際はいつも決まった同士で実施しない事				
授業形態	講義			対面授業	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	発達とは 発達課題とは	発達障害とは何か説明ができる
2回	発達に障害を持った児・者に対する作業療法士の役割について	発達に障害をもった子どもに対する作業療法士の役割について説明ができる
3回	脳性麻痺児・者への理解と援助の進め方	脳性麻痺とは何か/定義・多様性、治療理論を説明できる
4回	脳性麻痺、痙直型（四肢麻痺）	痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
5回	脳性麻痺、痙直型（両麻痺）	痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
6回	脳性麻痺、痙直型（片麻痺）	痙直型四肢麻痺の特徴を説明できる
7回	脳性麻痺、アテトーゼ型	アテトーゼ型の特徴を説明できる
8回	脳性麻痺児・者への援助方法	脳性麻痺児・者への援助方法を列挙できる
9回	脳性麻痺児・者への援助方法・抱っこの方法	脳性麻痺児の援助方法の説明ができる
10回	更衣動作：自分たちで体験する	セルフケアの1つである更衣について説明できる
11回	更衣動作：自分たちで体験する	実技を通して動作分析ができる
12回	軽度発達障害の援助法の1つの感覚統合療法について	軽度発達障害とは何か 定義、多様性、援助方法を説明できる
13回	注意欠陥他動性障害。自閉スペクトラム症等の作業療法	援助方法の1つである感覚統合について説明ができる
14回	感覚統合療法で使用する遊具で遊んでみて、活動分析をする	学校にある遊具で遊んでみて遊具の意義が説明できる
15回	遊具で遊んで見て、活動分析の発表、まとめ	活動分析ができ、説明できる

成績評価	・筆記試験（80％） ・実技テスト（10％） ・課題（10％） の総合判定
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材 教科書	・発達障害の作業療法 「実践編」 第3版 ・子どもの理解と援助のために〔感覚統合Q＆A〕 改訂第2版 担当教員が作成した配布プリントを使用 随時、記録用紙などを配布
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	日常生活活動学	単位	1	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年		2年生	
資格	認定作業療法士／医療福祉教育・管理修士				

科目概要	「日常生活」は作業療法士が扱う専門性の高い重要な領域です。ADL・IADLの理解を深め、対象者にとって、その人らしい「日常生活」および「社会参加」を支援するためのシステムや、実際の福祉機器に触れ、環境面としても、その知見を広めていきましょう。 【モデルコアカリ】 F-2-8) 日常生活活動に関わる作業療法 F-3-3) 住環境整備・支援機器と作業療法				
学習の留意点	日常生活活動に関連する環境面と心身機能構造の繋がりを具体的に示すよう工夫すること。また、福祉用具等については、実際の用具の使用や体験を通して学べるようにすると良い。 【福祉用具体験講習会】 での体験学習と課題は、演習１～４の疾患に応じた福祉用具や機器を選定した上で、実際に使用し、その内容を演習学習に取り入れること。				
到達目標	① 日常生活活動・手段的日常生活動作の、概念について説明できる。 ② 日常生活活動・手段的日常生活動作の、評価と支援システムについて説明できる。 ③ 疾患に応じた作業別の支援について説明・模擬実践できる。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	身体障害評価学	身体障害治療学Ⅰ・Ⅱ		日常生活動作演習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	日常生活活動の概念とその範囲：ADLとは、ADLとQOL、ICIDH・ICFについて	講義内容について要点を説明できる
2回	ADLの支援システム：ADL支援（専門職の役割とサービス提供機関）・介護の支援・福祉用具の支給	講義内容について要点を説明できる
3回	ADL評価①：指数化への志向（PULSES・BI・FIM)	ADLの代表的評価について、方法や評価の視点を説明できる
4回	ADL評価②：指数化への志向（その他)	ADLの代表的評価について、方法や評価の視点を説明できる
5回	IADL評価とQOL：老研式活動能力指標、FAI、CHARTについて	IADLの代表的評価について、方法や評価の視点を説明できる
6回	福祉用具体験学習）最新の福祉機器について：体験学習と課題（グループワーク）	実際の福祉用具の使用を体験し、ADLでの適応に際の利用の活用を説明できるようにする
7回	福祉用具体験学習）最新の福祉機器について：体験学習と課題（グループワーク）	実際の福祉用具の使用を体験し、ADLでの適応に際の利用の活用を説明できるようにする
8回	演習１－① 疾患に応じた作業別支援：脳血管障害（グループワーク）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
9回	演習１－② 疾患に応じた作業別支援：脳血管障害（発表）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
10回	演習２－① 疾患に応じた作業別支援：リウマチ（グループワーク）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
11回	演習２－② 疾患に応じた作業別支援：リウマチ（発表）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
12回	演習３－① 疾患に応じた作業別支援：パーキンソン病（グループワーク）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
13回	演習３－② 疾患に応じた作業別支援：パーキンソン病（発表）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
14回	演習４－① 疾患に応じた作業別支援：脊髄損傷（グループワーク）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる
15回	演習４－② 疾患に応じた作業別支援：脊髄損傷（発表）	疾患・障害像に応じた用具の適応について個人およびグループで意見交換し、まとめた内容を記載・発表できる

成績評価	●課題提出：20％（提出期限厳守）●グループワーク課題：20％（課題内容やまとめ方等） ●定期試験：60％ それらを100％として、総合的に評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	ADLとその周辺 評価・指導・介護の実際：伊藤利之 鎌倉矩子 監修（医学書院） 参考書として、標準作業療法学 作業療法評価学：岩崎テル子 他（医学書院）
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	地域作業療法学Ⅰ	単位	2	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年		2年生	
資格	認定作業療法士／医療福祉教育・管理修士				

科目概要	地域における基本的な作業療法について理解することです。地域リハビリテーションを取り巻く人々の生活や文化、環境、社会構造は年々変化しています。病院や施設から、住み慣れた地域へと移行するためには、実際の生活を見据えたリハビリテーションの 提供が必要です。この授業では障害者や、高齢者を支える人的・物理的・社会制度的環境に関する知識、地域での 生活期における作業療法およびニーズに対応すべく専門職としての態度を学びます。【OTモデルコアカリ】F-3-1： 地域における作業療法E-1-4： 生活行為向上マネジメント				
学習の留意点	地域や社会に対する理解を深め、学習者自身がその課題解決に向けた意見や知識の活用が図れるように、ディスカッションや他者の意見を知る機会を取る。 身近な地域資源について興味関心を向けられるよう、体験や当事者との対話など、授業方法に相互作用性を出来るだけ取り入れる。				
到達目標	・講義においては要点を課題に準じてまとめ、その内容を解説できること。 ・演習やグループワークにおいては、他者の意見を参考にし、自身の考えや意見を述べる、記録ができること。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	リハビリテーション概論	地域作業療法 セミナー		見学実習	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	地域リハビリテーションとは、ICF、社会資源について	授業内容に関する要点を解説できる。
2回	社会保障制度（介護保険制度）	授業内容に関する要点を解説できる。
3回	地域包括ケアシステムと作業療法	授業内容に関する要点を解説できる。
4回	第1回～第3回の学習内容の振り返りとまとめ：発表	第1～3回目の講義内容に関する要点について整理し、その内容をまとめ解説ができる。
5回	生活行為向上マネジメント① 背景および概要：他職種との連携・協働について	MTDLPの開発背景を説明できる
6回	生活行為向上マネジメント② 聞き取り・インタビュー	聞き取り・インタビューの要点を説明できる
7回	生活行為向上マネジメント③ アセスメント	アセスメントの要点とシートの記載ができる
8回	生活行為向上マネジメント④ プランニング：社会資源の活用	社会資源の活用を含めたプランニングができる
9回	生活行為向上マネジメント⑤ 生活行為申し送り	生活行為申し送りの要点が説明できる
10回	演習①：地域高齢者の想いを分析する オリエンテーションおよび分析計画	演習に必要な事前学習と今後の講義の授業計画を立てられる。
11回	演習②：地域高齢者の想いを分析する 分析から編集	授業計画に基づいて、学習に取り組める。関連する知識の整理と、技能の練習ができる。
12回	演習③：地域高齢者の想いを分析する 分析から編集	授業計画に基づいて、学習に取り組める。関連する知識の整理と、技能の練習ができる。
13回	演習④：地域高齢者の想いを分析する 資料まとめ	学習したことを整理し、成果物としてまとめることができる。
14回	演習⑤：地域高齢者の想いを分析する 資料まとめ	学習したことを整理し、成果物としてまとめることができる。
15回	演習⑥：地域高齢者の想いを分析する 資料共有	学んだことを自分の言葉で表現し、他者へ伝えることができる。

成績評価	●課題提出：20％（提出期限厳守） ●グループワーク課題：20％（課題内容やまとめ方の工夫等） ●定期試験：60% 上記を100点換算し、総合評定する
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	作業療法マニュアル 生活行為向上マネジメント 改訂第4版： 日本作業療法士協会
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	地域見学実習	単位	1	コマ数	45
担当講師	作業療法学科教員	学 年		2年生	
資格	作業療法士				

科目概要	地域実習は、臨床実習指導者のもとで、地域で支援を必要とする人々や、その家族に作業療法を用いた援助を提供するための知識・技術を習得することを目的とする。 1. 地域における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、地域での支援や援助の実際的方法を学ぶ 3. 地域包括ケアシステムや生活行為の重要性について学ぶ				
学習の留意点	社会人として、職業人としての身だしなみ、挨拶、言葉遣い、所作、立ち振る舞い、全体的な礼儀などの行動全体に気を付ける。 原則として遅刻、早退、欠席は認めない。 実習全体の8割以上の出席で可否判定を行う。				
到達目標	今までの学内での講義・演習で修得した、知識をもとに、指導者の指導・援助のもと、地域での作業療法士の役割や、対象児・者への支援・援助を理解することを目標とする。 ①作業療法学生としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③地域での作業療法および作業療法士の役割について説明することが出来る ④地域での他職種連携について、事例を用いながら説明することが出来る ⑤生活行為、および生活行為向上マネジメントの必要性を説明できる				
授業形態	実習		対面		
関連科目	人間関係学	解剖学・生理学 ・運動学		作業療法評価学 作業療法概論	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	実習前 ①地域実習に関連する授業の指定教科書等・講義資料のポイントは実習前に整理し、確認すること。 ②地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメントの知識を整理し、確認すること。 臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。 実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。	
2回		
3回		
4回		
5回		
6回		
7回		
8回		
9回		
10回		
11回		
12回		
13回		
14回		
15回		

成績評価	実習地評価、課題・提出物をもとに総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習地での課題やレポートのフィードバックは実習地で実施する。 また、実習全体に対する相談およびフィードバックは、「実習中の電話やメール」「臨床実習地訪問の面談時」「実習終了後」に担当教員からも行う。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。 施設によるが、通院時はスーツ着用。 学生評価表やデイリーノート、ケースノート、出欠表、必要時には各種報告書など実習書類を持参する。 臨床実習の手引き 学校資料
オフィスアワー	担任や作業療法学科教員

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法研究法	単位	1	コマ数	8
担当講師	手塚雅之	学 年		3年生	
資格	作業療法士・健康運動実践指導者・修士（学術）				

科目概要	作業療法に関する総合的な知識を土台に、エビデンスに基づいた作業療法の実践が出来ることを目指す。そのために自ら主体性をもって問題意識を持ち、解決し、新しい知見を開拓していくことができるよう、科学的な研究手法についての基礎知識を学習する。				
学習の留意点	作業療法士は業務上、様々な種類の疾患やそれらに対応した多くの治療法に出会うことになり、にわか知識では対応できないことが多い。研究法を通して習得していただきたいのは、自ら疑問に思ったことを自ら解消する手法である。問題解決の手掛かりとなるので、自らの興味関心を大事にしてもらいたい。				
到達目標	研究姿勢・倫理・研究の過程・各種研究手法について基礎知識を習得する。				
授業形態	講義			対面	
関連科目	統計学	臨床実習Ⅰ		作業療法総合演習Ⅰ・Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	研究とは	研究とは何か、作業療法における研究の目的
2回	研究の様式と過程	研究様式の分類、研究の流れ
3回	文献レビューの仕方	文献レビューの目的、検索方法、テーマの設定
4回	文献研究	総説・メタアナリシス・理論
5回	研究倫理・管理・報告	研究の倫理と管理、論文の書き方と発表
6回	種々の研究1	調査研究・実験研究・統計の方保
7回	種々の研究2	シングルケース実験法・事例研究
8回	文献研究の発表	個別研究の発表

成績評価	提出されたレポートで評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	提出されたレポートを元に個別にフィードバックを行う。
使用教材 教科書	資料を配布
オフィスアワー	木曜日以外の平日9時～18時、メールでも相談可。

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法特講	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実践能力に関連する基本的態度、医療人としての倫理観、作業療法士としての職務遂行能力を身につける ことを目的に、作業療法専門科目の作業療法治療学として授業として位置付ける。				
学習の留意点	臨床実践教育として、臨床実習に準じて基本的態度、倫理観、期待される職務遂行能力を主体的に身につけること。				
到達目標	- 臨床実践に必要な基本的態度について、自己を振り返り、具体的な課題を明確にする。 - 臨床実践で求められる倫理観について、領域特性を踏まえて自分で表現できる。 - 作業療法士として自分が期待する（望む）、職務遂行能力について具体的に表現できる。				
授業形態	対面			講義	
関連科目					

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	臨床実践教育概論	臨床実習で学ぶべきこと（基本的態度・臨床思考過程・臨床技能）
2回	臨床実践教育概論	臨床実習指導について（経験学習と指導方法：見学、模倣、実施）
3回	臨床実践教育各論①	臨床実習におけるハラスメント（１）
4回	臨床実践教育各論②	臨床実習におけるハラスメント（２）
5回	臨床実践教育各論③	臨床における感染予防（１）
6回	臨床実践教育各論④	臨床における感染予防（２）
7回	臨床実践教育特講 1	精神障害領域における臨床での作業療法①
8回	臨床実践教育特講 2	精神障害領域における臨床での作業療法②
9回	臨床実践教育特講 3	身体障害領域における急性期の作業療法①
10回	臨床実践教育特講 4	身体障害領域における急性期の作業療法②
11回	臨床実践教育特講 5	老年期障害領域における臨床での作業療法①
12回	臨床実践教育特講 6	老年期障害領域における臨床での作業療法②

成績評価	*課題提出：４０％ ・ファイリングされてる（１０％） ・必要記録が揃っている（１０％） ・提出期限厳守（２０％） *レポート：６０％ ・提出形式が整っている、 - 内容の具体性、自己表現等 上記の総合的な評定とする
課題やレポートに関するフィードバック	課題に向けた質問は適宜受ける。フィードバックを希望する学生は申し出ること。
使用教材 教科書	
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法総合演習Ⅰ	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習Ⅰの実施前に、実習直前の準備教育を行う。 1) 身体障害系セミナー 2) 老年期障害系セミナー 3) 発達障害系セミナー 4) 精神障害系セミナー 各評価学・治療学の振り返りの講義、実技演習。				
学習の留意点	ただ単に検査・測定 of 知識や技術を習得に限局せず、学生自身が考察・検討しながら進めていくことで、臨床思考過程も養っていくよう課題の提供を行う。				
到達目標	事例報告を中心とした演習、評価実技などを共同学習において学び、評価実習や総合実習に必要な知識を確認する。各領域の評価学・治療学などの振り返りを通じて、作業療法についての理解を深める。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション「作業療法総合演習Ⅰの全体説明」	この授業の全体像を理解する。
2回	評価演習 身体障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
3回	評価演習 身体障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
4回	評価演習 身体障害分野③ 検査・測定	身体障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
5回	評価演習 身体障害分野④ 検査・測定	身体障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
6回	評価演習 身体障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
7回	評価演習 身体障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
8回	評価演習 身体障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
9回	評価演習 老年期障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
10回	評価演習 老年期障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
11回	評価演習 老年期障害分野③ 検査・検査	老年期障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
12回	評価演習 老年期障害分野④ 検査・測定	老年期障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
13回	評価演習 老年期障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
14回	評価演習 老年期障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
15回	評価演習 老年期障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
16回	評価演習 発達障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
17回	評価演習 発達障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
18回	評価演習 発達障害分野③ 検査・測定	発達障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
19回	評価演習 発達障害分野④ 検査・測定	発達障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
20回	評価演習 発達障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
21回	評価演習 発達障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
22回	評価演習 発達障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
23回	評価演習 精神障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
24回	評価演習 精神障害分野② 面接・観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
25回	評価演習 精神障害分野③ 検査・測定	精神障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
26回	評価演習 精神障害分野④ 検査・測定	精神障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
27回	評価演習 精神障害分野⑤ 全体像のまとめ	対象者の全体像をまとめることができる
28回	評価演習 精神障害分野⑥ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
29回	評価演習 精神障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
30回	全体の振り返り、まとめ	各分野において適切な評価を実施できる

成績評価	演習中の課題提出とその内容で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内及び授業外で適宜フィードバックします。
使用教材 教科書	評価実習に必要な教科書・資料を各自準備してください。
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法セミナーⅠ	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習Ⅰの前後に、実習前学習及び実習の振り返り教育を行う。 1) 身体障害系セミナー 2) 老年期障害系セミナー 3) 発達障害系セミナー 4) 精神障害系セミナー 専門領域別に事例報告を行い、質疑応答、討論を行う。 領域別の事例報告を踏まえて臨床実習Ⅱの準備学習を行う。				
学習の留意点	臨床実習Ⅰの準備学習として、分野ごとにグループを作るなどして学習を進めていきます。内容として知識・技術を組み合わせ、実習分野の学習を集中して行えるような時間設定を行っていきます。実習後の事例報告会では、学生が発言しやすいよう教員からヒントとなるような質疑を交えることで、より活発化した				
到達目標	事例報告を中心とした相互学習を通じて、実習経験を共有し、次期の評価実習や総合実習に必要な知識を習得する。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	作業療法セミナーⅡ	臨床実習Ⅰ		臨床実習Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	作業療法臨床セミナーⅠの全体説明	授業内容の理解ができ、説明できる。
2回	レポート・レジメのまとめ方① 情報収集（一般、社会的、医学的）	レジメ作成のための基本《一般・社会的・医学的》情報の整理ができる。
3回	レポート・レジメのまとめ方② 作用療法評価（面接、観察、検査・測定）	レジメ作成において作業療法評価《面接・観察・検査・測定》のまとめができる。
4回	レポート・レジメのまとめ方③ 全体像のまとめ	レジメ作成における全体像をまとめることができる。
5回	レポート・レジメのまとめ方④ 目標設定 考察	レジメ作成における目標設定とそれを結びつける考察をすることができる。
6回	身体障害分野① 症例A 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
7回	身体障害分野② 症例A 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
8回	身体障害分野③ 症例B 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
9回	身体障害分野④ 症例B 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
10回	身体障害分野④ 症例C 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
11回	身体障害分野④ 症例C 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
12回	老年期障害分野① 症例D 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
13回	老年期障害分野① 症例D 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
14回	老年期障害分野① 症例E 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
15回	老年期障害分野① 症例E 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
16回	老年期障害分野① 症例F 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
17回	老年期障害分野① 症例F 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
18回	発達障害分野① 症例G 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
19回	発達障害分野① 症例G 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
20回	発達障害分野① 症例H 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
21回	発達障害分野① 症例H 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
22回	発達障害分野① 症例I 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
23回	発達障害分野① 症例I 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
24回	精神障害分野① 症例J 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
25回	精神障害分野① 症例J 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
26回	精神障害分野① 症例K 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
27回	精神障害分野① 症例K 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
28回	精神障害分野① 症例L 発表	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
29回	精神障害分野① 症例L 検討	発表された症例の全体像を理解し、必要に応じて質問等ができる。
30回	全体の振り返り・まとめ	症例発表の課題提出ができる。

成績評価	事例報告50%、提出課題50%で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内・外、適宜フィードバックする。
使用教材 教科書	0
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害治療学Ⅲ	単位	1	コマ数	15
担当講師	仲木 右京	学 年		3年生	
資格					

科目概要	ここでは手の外科領域の障害特性を捉え、ハンドセラピィの実際について講義を実施します。また、障害特性がもたらすその個人の作業障害上の問題を考えられるよう、問題提起をしながら学生自身の思考力を促していきます。加えてスプリントの作製を体験することによってハンドセラピィ領域の治療の手段としての認識を高めてもらいます。				
学習の留意点	手の外科領域の障害を理解するためには、これまで学習してきた解剖学、運動学、生理学などの知識がベースになります。それらについて再確認したうえで講義に臨まれることが必要となります。また手の障害がどのような作業障害に結びつくか自分のこととして考える姿勢で講義に臨まれることを期待します。				
到達目標	①主要な手の外科疾患について理解することができる ②ハンドセラピィの実際について説明することができる ③スプリントの作製を通してスプリント療法について体験できる				
授業形態	講義・実習			対面	
関連科目	整形外科学Ⅰ	整形外科学Ⅱ		身体障害評価学Ⅱ	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	ハンドセラピィについて	ハンドセラピィとは何かその目的について説明できる
2回	手の骨折について	骨折について説明できる
3回	手の骨折について	骨折の治癒過程における作業障害について説明できる
4回	骨折に対するハンドセラピィ	手の骨折についてハンドセラピィのすすめ方について説明できる
5回	末梢神経損傷について	末梢神経損傷の病態について説明できる
6回	末梢神経損傷について	末梢神経損傷の病態について説明できる
7回	末梢神経損傷のハンドセラピィ	末梢神経損傷の評価についての意義を説明できる
8回	末梢神経損傷のハンドセラピィ	ハンドセラピィのすすめ方について説明できる
9回	腱損傷について	腱損傷について理解しそのハンドセラピィについて説明できる
10回	手の変形性関節症について	手の変形性関節症について理解しそのハンドセラピィについて説明できる
11回	スプリント作製実習①	ガントレットサムスパイカスプリントの作製手順を説明できる
12回	スプリント作製実習①	ガントレットサムスパイカスプリントの作製を実施できる
13回	スプリント作製実習②	サムホールロックアップスプリントの作製手順を説明できる
14回	スプリント作製実習②	サムホールロックアップスプリントの作製を実施できる
15回	試験・フィードバック	

成績評価	筆記試験70%、実技試験20%、授業への取り組み方10%で評価します
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	担当教員が作成した配布プリントを使用 （参考）第4巻 作業治療学1 身体障害 協同医書
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	身体障害治療学演習	単位	1	コマ数	23
担当講師	栗原実里	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	この授業では、これまで身体障害評価学・治療学で学んできた知識を基に、脳血管疾患の既往歴のある方にご協力いただき、機能面や活動面の評価・治療を体験して頂きます。教科書や講義で知識として学んだことを、実際に見たり、触ったり、聞いたりすることで理解を深めていきましょう。また実習に向けての準備となるよう、態度面も意識して演習に取り組みましょう。				
学習の留意点	これまで神経内科、身体障害評価学・治療学で学んだことを復習しながら作業療法の評価から治療までの一連の流れを演習やグループワークを中心に体験して頂きます。グループワークではお互いに協力し合って課題を進めてください。脳血管疾患により障がいをお持ちの方に授業にご参加いただき、実際に身体に触れ、お話を聞かせて頂くことで教科書だけでは学べないことを勉強して頂きます。授業に当たっては適宜課題が出ますので、しっかり取り組み提出期限を守って提出してください。 また長期実習前のタイミングでの授業となりますので、社会人として、医療職として患者様に失礼のない「態度」「マナー」を意識して演習に取り組んでください。				
到達目標	①脳血管疾患の病態について説明できる ②疾患や障害に適した評価が想起でき、指導のもと実施できる ③疾患や障害に応じた治療を指導のもとで実施できる ④適切な身だしなみ・言動ができ、当事者の方に失礼のないよう配慮ができる				
授業形態	実習		対面		
関連科目	身体障害評価学	身体障害治療学		神経内科学	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション	授業の到達目標について説明でき、グループメンバーと協力しあって課題を進めることが出来る
2回	脳血管疾患の病態像を調べる	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 適切な文献を使い病態について調べることができる
3回	脳血管疾患の病態像を確認する	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 脳血管疾患の病態について説明することが出来る
4回	病態から評価項目を想起する	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 病態から想起できる評価項目について説明できる
5回	画像・動画から障害を推察する	1. 対象者の観察したことを専門用語を用いて表現できる 2. 観察した結果から推察したことを説明できる
6回	画像・動画から障害を推察する	1. 対象者の観察したことを専門用語を用いて表現できる 2. 観察した結果から推察したことを説明できる
7回	症例情報から病態・障害像をまとめる	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 症例情報から病態・障害像について説明できる
8回	症例情報から評価項目を想起する	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 症例情報をもとに適切な評価について説明できる
9回	評価の練習	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 必要な評価が正しく実施できる
10回	評価の練習	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 必要な評価が正しく実施できる
11回	評価の実施①	1. 指導の下正しく評価が実施できる 2. 対象者に失礼のない態度・言動ができる
12回	評価の実施②	1. 指導の下正しく評価が実施できる 2. 対象者に失礼のない態度・言動ができる
13回	評価の実施③	1. 指導の下正しく評価が実施できる 2. 対象者に失礼のない態度・言動ができる
14回	評価結果のまとめ	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 評価結果を専門用語を用い適切に記述できる
15回	評価結果のまとめ	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 評価結果を専門用語を用い適切に記述できる
16回	脳血管疾患の治療(痙縮・可動域制限)	脳血管疾患の治療について説明できる
17回	脳血管疾患の治療(上肢機能障害)	脳血管疾患の治療について説明できる
18回	脳血管疾患の治療（ADL）	脳血管疾患の治療について説明できる
19回	治療の実施（見学）	1. 指導者の模倣をして治療が実施できる 2. 対象者に失礼のない態度・言動ができる
20回	治療の実施（模倣）	1. 指導者の模倣をして治療が実施できる 2. 対象者に失礼のない態度・言動ができる
21回	治療結果のまとめ（レジユメ作成）	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 対象者の全体像をを専門用語を用い適切に記述できる
22回	治療結果のまとめ（レジユメ作成）	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 対象者の全体像をを専門用語を用い適切に記述できる
23回	治療結果のまとめ（レジユメ作成）	1. グループメンバーと協力しあって課題を進めることができる 2. 対象者の全体像をを専門用語を用い適切に記述できる

成績評価	課題100%で評価し、60%以上の成績であるものを合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	課題を添削し返却する。 また返却時に全体に模範解答のフィードバックを行う。
使用教材 教科書	①からだがみえる 人体の構造と機能 ②標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学 第4版 ③作業療法学全書 改訂第3版 第4巻 作業治療学 1 身体障害 ④配布資料
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	精神障害治療学演習	単位	1	コマ数	23
担当講師	深瀬勝久・手塚雅之	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	精神科では薬を用いた治療以外に、疾患の特性や患者様の能力に合わせて作業療法・認知療法・行動療法・等々様々な治療・援助手段が用いられている。本講義ではそれら各種治療法の内容を、講義による説明と実体験を通して理解を進める。また作業療法におけるアクティビティの活用方法などについても学ぶ。				
学習の留意点	自分の心と身体の体感を通して学ぶことが求められるので、臆することなく実体験に臨んでほしい。特にリハビリテーション領域における作業療法の特徴は、心理・精神領域にもアプローチするところにあり、その魅力が伝わるよう工夫するので少しでも自分のものにしてもらえればよい。				
到達目標	①精神科における薬物療法以外の各種治療法について体験し、感想が述べられる。 ②各種治療法についてその意義・目的・方法について説明できる。 ③精神科におけるアクティビティ（作業活動）の活用方法について説明出来る。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	臨床心理学	精神医学		精神障害治療学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	リラクゼーション（漸進的筋弛緩法）	漸進的筋弛緩法の名称と内容を想起し、説明できる。
2回	リラクゼーション（呼吸法）	呼吸の原理とリラクゼーションの関係を説明できる。
3回	リラクゼーション（自律訓練法）	自律訓練法の名称と内容を想起し、説明できる。
4回	認知行動療法（行動療法）	行動療法の名称と内容を想起し、説明できる。
5回	認知行動療法（認知療法）	認知療法の名称と内容を想起し、説明できる。
6回	認知行動療法（S S T）	S S Tの名称と内容を想起し、説明できる。
7回	認知行動療法（マインドフルネス）	マインドフルネスの名称と内容を想起し、説明できる。
8回	心理療法（アサーショントレーニング）	アサーショントレーニングの名称と内容を想起し、説明できる。
9回	心理療法（カウンセリング）	カウンセリングの際のポイントを説明できる。
10回	精神科の治療と作業療法の位置づけ	精神科における治療法を整理して説明できる。
11回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い、評価のまとめができる
12回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い、評価のまとめができる
13回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い、焦点化ができる
14回	事例検討	精神障害のペーパーペイシエントを使い焦点化ができる
15回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
16回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
17回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
18回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
19回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
20回	模擬患者演習	模擬患者の観察ができ、プロセスレコードが作成できる
21回	模擬患者演習	プロセスレコードを参考に評価のまとめができる
22回	模擬患者演習	プロセスレコードを参考に評価のまとめができる
23回	まとめ	模擬患者演習のレポートを提出

成績評価	小テストと授業内成果物で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックは全体に行う。
使用教材 教科書	①精神障害と作業療法 ②精神疾患の理解と精神科作業療法
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	発達障害治療学演習	単位	2	コマ数	30
担当講師	大西 麓子	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	発達障害領域の作業療法は、長期的視野を持って、またその人らしく生活を創造していけるように、生活支援（援助）していくことが重要である。主に運動機能障害と知的な遅れを持った人たち（重度の脳性麻痺者）に対して評価（臨床観察・面接・実際に体を動かしてもらう）・援助方法を立案し、アプローチを実施する。				
学習の留意点	・1年次での授業（人間発達学）や小児学、発達障害評価学・治療学を再度学習し授業に臨んでください。 ・演習では動きやすい服装で参加してください ・演習はグループで実施しますので、各人の役割を十分理解し、相談しながら意見を出し、自分のものにしてください。				
到達目標	発達障害領域の脳性まひ疾患の基礎知識と評価の基礎から実践まで学び、対象者に必要な援助方法を実施できる（特に成人の場合）。				
授業形態	対面授業			講義	
関連科目	基礎作業学演習	発達障害評価学		発達障害治療学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	発達障害治療学演習・企画書作成に向けてのオリエンテーション	演習の進行について理解し説明ができる
2回	提供情報の共有化・レポート作成に向けての指導	写真・動画からケースの特色を見出し、書き出すことができるようになる
3回	企画書作成	ケースの特色を見出し評価法を選ぶことができる
4回	企画書作成、実習のシュミレーション	列挙した評価法の説明と必要性を説明できる
5回	校内実習のシミュレーション（30分×2G）と修正	各人が選んだケースの特徴や評価法をグループで検討することができる。援助方法を考える
6回	企画書提出	各人が選んだケースの特徴や評価法をグループで検討することができる。援助方法を考える
7回	企画書のフィードバック	ケース1を迎えてグループが列挙した評価を実施できる
8回	企画書のフィードバック	面接方法・評価を実施することができる
9回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	ケース2を迎えてグループが列挙した評価を実施できる
10回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	面接方法・評価を実施することができる
11回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	各グループでケースの問題点・利点を共有化する
12回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	援助方法の再確認を行い、実施提案してみる
13回	ケース検討・ケースレポート作成に向けて	支援目標・援助方法をケースごとに提案・説明ができるよう文章化する。
14回	ケース発表のための準備	支援目標・援助方法をケースごとに提案・説明ができるよう文章化する。
15回	演習結果の共有化のための発表	ケースの発表を経験する。

成績評価	・筆記試験（ケースに関する課題）（30点） ・レポート（演習のまとめ）（50点） ・役割を遂行する（20点） ・発表
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項無し
使用教材 教科書	発達障害の作業療法 第3班 実践編 担当教員が作成した配布プリント
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	老年期障害治療学	単位	2	コマ数	30
担当講師	阿部英人	学 年		3年生	
資格					

科目概要	現在、我が国の高齢化率は29%を超え、今後も上昇が予測され2036年には3人に1人が高齢者になる。作業療法士として高齢者を対象とした医療・福祉・保健などさまざまな領域で果たす役割は大きい。高齢者が人生の最終章を生きるということに注目し、作業療法の基本的姿勢及び生活支援を学ぶ。高齢期に多い疾患、特に認知症への作業療法評価治療を学ぶ。				
学習の留意点	高齢者の支援において、現状のみを把握するのではなく、これまでどのような人生を歩んできたのか、また様々な人生経験からどのような価値観を持ち、死生観を持っているのかを知ることが非常に重要である。この授業では高齢期に多い疾患の中でも特に認知症高齢者への関わりについて学習する。				
到達目標	①高齢社会を理解する ②高齢者が抱える問題を理解し支援する基本的な姿勢を身につける ③高齢期に多い疾患の特徴を理解し評価、治療計画を立案することが出来る ④認知症の特徴を理解し高齢者に対する作業療法の展開を理解する				
授業形態	講義		対面		
関連科目	内科・老年学	地域作業療法		身体障害評価学	
	0	0		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	高齢社会について	高齢者の定義、高齢社会になった背景、高齢化率の変化
2回	高齢社会について	高齢者の定義、高齢社会になった背景、高齢化率の変化
3回	高齢者に関する社会施策	高齢社会による社会への影響と社会施策の変遷について説明出来る
4回	高齢者に関する社会施策	高齢社会による社会への影響と社会施策の変遷について説明出来る
5回	高齢期に多い疾患について	高齢期に多い疾患及び特徴が説明出来る
6回	高齢期に多い疾患について	高齢期に多い疾患及び特徴が説明出来る
7回	フレイルとサルコペニアについて	フレイルとサルコペニアの診断基準を説明することが出来る
8回	フレイルとサルコペニアについて	高齢者の体力測定を実施することが出来る
9回	高齢者に対する行政の関わり	行政で働くOTの役割を知る
10回	高齢者に対する行政の関わり	行政で働くOTの役割を知る
11回	高齢者に対する嚆下、言語指導	多職種連携（ST）について理解を深める
12回	高齢者に対する嚆下、言語指導	高齢者に対する食事、言語指導を説明することが出来る
13回	高齢期の作業療法	高齢者に対しての作業療法評価、目標、治療実践について説明出来る
14回	高齢期の作業療法	高齢者に対しての作業療法評価、目標、治療実践について説明出来る
15回	認知症概論：中核症状とBPSD	中核症状とBPSDを説明することが出来る
16回	認知症概論：中核症状とBPSD	中核症状とBPSDを説明することが出来る
17回	認知症各論	脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の特徴を説明することが出来る
18回	認知症各論	脳血管性認知症、アルツハイマー型認知症、レビー小体型認知症、前頭側頭型認知症の特徴を説明することが出来る
19回	認知症評価①	HDS-R、MMSEを実施することが出来る
20回	認知症評価②	BPSD評価（定型的評価）実施出来る
21回	認知症評価③	BPSDがなぜ起きているのかを中核症状、背景因子から考察することが出来る
22回	認知症評価③	BPSDがなぜ起きているのかを中核症状、背景因子から考察することが出来る
23回	認知症への作業療法	模擬事例に対して評価手段の選択・解釈、治療計画立案を経験する
24回	認知症への作業療法	模擬事例に対して評価手段の選択・解釈、治療計画立案を経験する
25回	認知症への作業療法	模擬事例に対して評価手段の選択・解釈、治療計画立案を経験する
26回	認知症への作業療法	模擬事例に対して評価手段の選択・解釈、治療計画立案を経験する
27回	パーキンソン病に対する作業療法	パーキンソン病の障害像を説明できる。また評価、治療を理解する
28回	大腿骨頸部骨折に対する作業療法	大腿骨頸部骨折の障害像を説明できる。また評価、治療を理解する
29回	高齢者に対するアクティビティの意義と適応について（グループワーク）	他の学生にアクティビティを提供することで教示法を体験する
30回	高齢者に対するアクティビティの意義と適応について（グループワーク）	他の学生にアクティビティを提供することで教示法を体験する

成績評価	小テストの合計点6割以上、定期試験6割以上のものを合格とします。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内及び授業後、その他メール等で適宜受け付けます。
使用教材教科書	高齢期作業療法学 第4版 監修 松房 利憲 医学書院 作業療法学全書 第4巻 身体障害 標準作業療法学 作業療法評価学
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	日常生活活動学演習	単位	1	コマ数	23
担当講師	五十嵐千代子	学 年		3年生	
資格					

科目概要	作業療法の対象となる方々それぞれが求める生活像に対して、疾患の特徴や予後を踏まえ、体の機能を改善させるだけでなく、残っている機能を活用したり方法を変えることにより「できることを」増やしていくことが職業としての専門域である。「脳血管疾患（片麻痺）」「頸髄損傷（四肢麻痺）」「嚥下障害（食べることの障害）」を通して、不自由になった生活動作を改善させる方法や維持する方法などを学ぶ。				
学習の留意点	・この科目は作業療法の中核となる日常生活活動に関する授業である。 ・疾患別の障害像について2年生まで学んだことが必要となる。 ・評価学，治療学の知識も必要である。 ・復習を欠かさずに行うことが必須である。				
到達目標	・それぞれの心身機能の問題と日常生活障害について説明することができる。 ・日常生活活動の評価の方法や、疾患によっては評価の時間帯などを説明することができる。 ・残存機能の活かし方を説明できる。 ・日常生活の改善・維持の方法を説明できる。 ・リスク管理について説明することができる。				
授業形態	演習				
関連科目	解剖学	生理学		運動学	
	ADL学	評価学		治療学	

授業計画		
回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション／ADL評価方法の基礎	ADLの評価についての復習、
2回	片麻痺／移乗の方法と動作観察方法	障害像について理解することができる。
3回	片麻痺／移乗の動作分析	代表的な評価について説明できる。
4回	片麻痺／移乗の動作分析／作業療法	代表的な評価について説明できる。
5回	片麻痺／更衣の方法と動作観察方法	残存筋とADLの関係について説明できる。
6回	片麻痺／更衣の動作分析	機能レベル別のADLについて説明できる。
7回	片麻痺／更衣の動作分析／作業療法	機能レベル別のADLについて説明できる。
8回	片麻痺／更衣の動作分析／作業療法	機能レベル別のADLについて説明できる。
9回	片麻痺／片麻痺の起居動作	車椅子ユーザーと一緒に出掛けるプランを考える。
10回	片麻痺／片麻痺の食事，整容，入浴	車椅子ユーザーと一緒に出掛けるプランを考える。
11回	頸髄損傷のADL／起居，移動	プレゼン用のパワーポイントの作成、発表準備。
12回	頸髄損傷のADL／食事，更衣，整容，排泄，入浴	発表とフィードバック。
13回	車椅子ユーザーと外出計画	バリアフリー情報の収集とルートなど決める
14回	車椅子ユーザーと外出計画	バリアフリー情報の収集とルートなど決める
15回	車椅子ユーザーと外出	計画に基づいて実施，バリアフリーの調査，援助の工夫。
16回	車椅子ユーザーと外出	計画に基づいて実施，バリアフリーの調査，援助の工夫。
17回	車椅子ユーザーと外出のまとめ	外出に基づいてのまとめ。
18回	発表とフィードバック，アンケート。	発表とフィードバック，アンケート。
19回	FIMの使用法方法	FIMの内容について理解をする。
20回	FIMを用いた演習	事例を用いて採点を行う。
21回	嚥下障害の病態像	・病態像について理解をする。
22回	嚥下障害の評価と作業療法	・評価と作業療法について理解をする。
23回	喀痰吸引	喀痰吸引の方法について実技を通して学ぶ。

成績評価	定期試験で6割以上を合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	随時（木曜日はなし）
使用教材 教科書	・標準作業療法学 作業療法評価学 編集 能登真一 医学書院 ・作業療法学全書 身体障害 編集 菅原洋子 協同医書出版 ・・ADLとその周辺 評価・指導・介助の実際 伊藤利之 鎌倉矩子 監修 医学書院
オフィスアワー	9時から17時

		作業療法学科 昼間部			
科目	高次脳機能障害治療学	単位	1	コマ数	15
担当講師	福澤 阿弾	学 年		3 年生	
資格	作業療法士				

科目概要	脳疾患や脳外傷は様々な脳機能障害をもたらす。脳血管疾患、外傷性脳損傷、脳の変性疾患等に起因する高次脳機能障害は、ひとの作業遂行や社会生活に大きな影響を与える。高次脳機能障害のあるひとの各症状に対する作業療法介入、日常生活及び社会生活に対する支援について学習する。また、病期による作業療法の役割について理解するとともに、高次脳機能障害のあるひと個人のみならず、家族・職場などの環境に対する支援や社会資源・制度の活用等の幅広い視点で作業療法士の役割と介入・支援の内容を学び、問題解決能力を高める。				
学習の留意点	高次脳機能障害の症状と発現機序を理解するためには、これまで学んだ解剖学、脳科学、神経内科学、臨床心理学等の基礎知識が不可欠です。これらの科目で得た知識を復習し、本科目の授業内容と関連づけながら理解するようにしてください。また、授業テーマに関して十分な学修をおさめるためには、授業前後にそれぞれ30分程度の予習及び復習が必要となります。				
到達目標	高次脳機能障害の治療原則及び治療理論を述べることができる。 全般的性注意障害・半側空間無視・失語症・記憶障害・行為の障害・遂行機能障害・社会的行動障害の治療原則及び介入方法を述べることができる。 脳血管疾患、外傷性脳損傷、認知症及び他の変性疾患に対する作業療法介入を述べることができる。 高次脳機能障害と自動車運転の困難さと評価・介入方法を述べることができる。 高次脳機能障害のあるひとの地域生活、職業生活の支援及び社会資源・制度の活用方法を述べることができる。				
授業形態	講義・演習		対面		
関連科目	解剖学	神経内科学		臨床心理学	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	高次脳機能障害の治療理論	高次脳機能障害の治療原則および治療理論を学ぶ
2回	全般的性注意障害	全般的性注意障害の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
3回	半側空間無視	半側空間無視の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
4回	失語症	失語症の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
5回	記憶障害	記憶障害の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
6回	失認	失認の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
7回	失行	失行の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
8回	遂行機能障害	遂行機能の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
9回	社会的行動障害	社会的行動障害の治療原則および治療理論、作業療法介入の方法を学ぶ
10回	脳血管障害	脳血管疾患に起因する高次脳機能障害に対する作業療法介入の方法を学ぶ
11回	外傷性脳損傷	外傷性脳損傷高次脳機能障害に対する作業療法介入方法、制度の活用
12回	認知症・脳変性疾患	認知症や他の脳変性疾患に起因する高次脳機能障害に対する作業療法
13回	自動車運転の支援	自動車運転に関連する評価と支援について学ぶ
14回	就労及び地域生活の支援	就労および地域生活に対する作業療法介入の方法、制度の活用を学ぶ
15回	まとめ	これまでの授業の振り返り

成績評価	定期試験 8 0 % 課題レポート 2 0 %
課題やレポートに関するフィードバック	特記事項なし
使用教材 教科書	標準作業療法学 高次脳機能作業療法学 高次脳機能障害 ポケットマニュアル
オフィスアワー	授業前後の休憩時間

		作業療法学科 昼間部			
科目	職業関連活動学	単位	1	コマ数	15
担当講師	柴田 美雅	学 年		3年生	
資格	認定作業療法士／医療福祉教育・管理修士				

科目概要	この授業では、人にとって『職業』とはどのような意味があるのかを考え、職業リハビリテーション概念、理論を知り、作業療法士が障害者の就労にどのような役割をもち、どのような関わりができるかを学ぶことを目的とします。【モデルコアカリ】F-3-2就労支援領域における作業療法				
学習の留意点	グループワークでは、自分の意見や考えを持ちつつ、他者の視点や考えも踏まえて理解を深められるようにしてください。				
到達目標	①職業の定義とキャリア発達について理解する ②職業支援に関する理論について理解する ③障害者の就労制度について理解する ④就労支援における作業療法評価、作業療法士の役割、関連機関との連携を理解する ⑤障害ごとの作業療法について理解する（精神障害・身体障害・高次脳機能障害・知的障害・発達障害）①～⑤学生が自身の考えや意見を持ち、理解したことを記載してまとめ、説明できること				
授業形態	講義			対面	
関連科目	作業療法評価学	疾患別治療学		-	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	人と職業：職業の定義・分類、職業の意味と構成要素、働くことの二面性	講義内容の要点を説明できる
2回	職業リハビリテーション活動の概念：ニーズ、役割、サービスや支援の戦略、役割の代替	講義内容の要点を説明できる
3回	就労支援に関する理論：欲求階層モデル、職業的発達など	講義内容の要点を説明できる
4回	障害者と職業①：キャリア発達の視点、障害者雇用の現状	講義内容の要点を説明できる
5回	障害者と職業②：障害者の就労制度	講義内容の要点を説明できる
6回	職業関連活動における作業療法①：就労支援における作業療法の役割、関連職種との連携	講義内容の要点を説明できる
7回	職業関連活動における作業療法②：作業療法評価過程	講義内容の要点を説明できる
8回	職業関連活動における作業療法③：作業療法治療過程	講義内容の要点を説明できる
9回	障害別就労支援の実際：事例学習に向けた疾患別障害特性について：グループワーク学習	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
10回	障害別就労支援の実際 1：精神障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
11回	障害別就労支援の実際 2：身体障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
12回	障害別就労支援の実際 3：高次脳機能障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
13回	障害別就労支援の実際 4：知的障害の就労事例	事例について課題となる内容をまとめる。自身の意見を持ち、グループで共有し理解したことを発表できる、課題にまとめられる。
14回	まとめ①：国家試験過去問と学習内容の確認：グループワーク調べ学習	講義や演習で学んだ知識を国家試験過去問を通して、解説・解答できる
15回	まとめ②：国家試験過去問と学習内容の確認：グループワーク発表	講義や演習で学んだ知識を国家試験過去問を通して、解説・解答できる

成績評価	●提出期限厳守・課題の取組み 20％ ●グループワーク課題：20％（課題内容やまとめ方の工夫等） ●定期試験：60％ これらを100％として総合評価とする
課題やレポートに関するフィードバック	
使用教材教科書	・キャリア支援に基づく職業リハビリテーションカウンセラー理論と実際ー：松為 信雄（ジアース教育新社） ・作業療法学全書第12巻 職業関連活動 作業療法技術学4：平賀昭信・岩瀬義昭 編集日本作業療法士協会 監修（協同医書出版）
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法総合演習Ⅱ	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習Ⅰの実施後に振り返りを行い、臨床実習Ⅱの準備教育を行う。 1) 身体障害系セミナー 2) 老年障害系セミナー 3) 発達障害系セミナー 4) 精神障害系セミナー 各評価学・治療学の振り返りの講義、実技演習。				
学習の留意点	ただ単に検査・測定 of 知識や技術を習得に限局せず、学生自身が考察・検討しながら進めていくことで、臨床思考過程も養っていくよう課題の提供を行う。				
到達目標	事例報告を中心とした演習、評価実技などを共同学習において学び、総合実習に必要な知識を確認する。 評価学。治療学などの振り返りを通じて、作業療法についての理解を深める。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	臨床実習Ⅰ	臨床実習Ⅱ		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	オリエンテーション「作業療法総合演習Ⅱの全体説明」	この授業の全体像を理解する。
2回	評価・治療演習 身体障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
3回	評価・治療演習 身体障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
4回	評価・治療演習 身体障害分野③ 検査・測定	身体障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
5回	評価・治療演習 身体障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
6回	評価・治療演習 身体障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
7回	評価・治療演習 身体障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
8回	評価・治療演習 身体障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
9回	評価・治療演習 老年障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
10回	評価・治療演習 老年障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
11回	評価・治療演習 老年障害分野③ 検査・測定	老年障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
12回	評価・治療演習 老年障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
13回	評価・治療演習 老年障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
14回	評価・治療演習 老年障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
15回	評価・治療演習 老年障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
16回	評価・治療演習 発達障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
17回	評価・治療演習 発達障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
18回	評価・治療演習 発達障害分野③ 検査・測定	発達障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
19回	評価・治療演習 発達障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
20回	評価・治療演習 発達障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
21回	評価・治療演習 発達障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
22回	評価・治療演習 発達障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
23回	評価・治療演習 精神障害分野① 情報収集	対象者に合わせた評価項目を列挙できる
24回	評価・治療演習 精神障害分野② 面接、観察	対象者の状態に応じた面接・観察の準備・対応ができる
25回	評価・治療演習 精神障害分野③ 検査・測定	精神障害分野の基本的な検査・測定を実施できる
26回	評価・治療演習 精神障害分野④ 全体像のまとめ	評価した内容から全体像をまとめることができる
27回	評価・治療演習 精神障害分野⑤ 目標設定	対象者に見合った目標設定ができる
28回	評価・治療演習 精神障害分野⑥ 治療・再評価	治療プログラム立案と必要な再評価を列挙することができる
29回	評価・治療演習 精神障害分野⑦ 考察	全体像から利点・問題点を見出し、目標設定までの結びつけを説明できる
30回	全体の振り返り、まとめ	各分野において適切な評価を実施できる

成績評価	演習中の課題提出とその内容で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	授業内及び授業外で適宜フィードバックします。
使用教材 教科書	評価実習に必要な教科書・資料を各自準備してください。
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	臨床実習 I	単位	6	時間数	270
担当講師	作業療法学科教員	学 年		3年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習 I は、臨床実習指導者のもとで、作業療法の評価の修得と実践を行う 1. 各臨床実習施設における作業療法および作業療法士の役割と機能を学ぶ 2. 臨床実習指導者の指導、援助のもとに、実習生が対象児・者を全体的に把握する 3. 2. の評価に基づき実習生は、臨床実習指導者の指導・援助のもとに評価のまとめを行い、作業療法目標を設定する 4. 作業療法士としての基本的態度を習得し、専門職としての能力の向上・充実をはかる				
学習の留意点	社会人として、職業人としての身だしなみ、挨拶、言葉遣い、所作、立ち振る舞い、全体的な礼儀などの行動全体に気を付ける。 原則として遅刻、早退、欠席は認めない。 実習全体の8割以上の出席で可否判定を行う。				
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、地域見学実習：2年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考をもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への作業療法検査・評価が実施できることを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体现でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑦状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	基礎科目全般	専門基礎科目 全般		専門科目全般	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習前 ①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。	
2回		
3回		
4回	臨床実習 ①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。	
5回		
6回		
7回	実習後 ①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。	
8回		
9回	第1週：施設の概要を知る、施設における作業療法の役割を知る、対象者との初回面接、対象者の観察・検査・評価 施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。	
10回		
11回	第2週：対象者の観察・検査・評価 臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、作業療法検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。	
12回		
13回	第3週：対象者の評価及びまとめ、リハビリテーションおよび作業療法目標の設定、臨床実習指導者からのフィードバック 臨床実習指導者のもとで、対象児・者の協力を得て観察・検査・評価の実践をし、情報の整理、統合、解釈を行い、リハビリテーションおよび作業療法目標の設定を試みる。必要な記録を残す。	
14回		
15回		

成績評価	実習地評価、課題・提出物、OSCE、臨床思考過程をもとに総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。 施設によるが、通院時はスーツ着用。 学生評価表やデイリーノート、ケースノート、出欠表、必要時には各種報告書など実習書類を持参する。 臨床実習の手引き 学校資料
オフィスアワー	担任 作業療法学科教員

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法特論	単位	12	コマ数	180
担当講師	OT教員	学 年		4年生	
資格	作業療法士				

科目概要	基礎分野・専門基礎分野・専門分野の1年～4年前期までの学習を振り返り、作業療法実践のために必要な知識を再学習する。 臨床における実地的な知識をグループワークなどを通して習得する				
学習の留意点	専門分野が多岐にわたるため、複数の専任教員及び非常勤講師で、進めていくことで学生のフォローをしていきます。自ら調べるなりグループとして理解を深めることが中心となりますが、授業時間外でも積極的に教員へ質問することも心掛けてください。適宜対応いたします。				
到達目標	・解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野の知識を習得する ・各臨床医学を含む専門基礎分野の知識を習得する ・作業療法の専門分野の知識を各領域ごとに習得する				
授業形態	実習		対面		
関連科目	0	0	0	0	0

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	基礎分野解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野について（講義・グループワーク）	解剖学・生理学・運動学・心理学などの基礎分野について国家試験レベルの問題を解くことができる。
2回	専門基礎分野各臨床医学などの専門基礎分野について（講義・グループワーク）	各臨床医学などの専門基礎分野について国家試験レベルの問題を解くことができる。
3回	専門分野評価学・治療学などの作業療法専門分野について（講義・グループワーク）	評価学・治療学などの作業療法専門分野について国家試験レベルの問題を解くことができる。

成績評価	各期での筆記試験で評価する。
課題やレポートに関するフィードバック	適宜授業内・外でフィードバックを行います。
使用教材教科書	0
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	作業療法臨床セミナーⅡ	単位	2	コマ数	30
担当講師	OT教員	学 年		4年生	
資格	作業療法士				

科目概要	実習直前に準備教育を行い、臨床能力の向上を目指す。 実習で経験してきたことを振り返り、次期の実習に活かす。 実習終了後には実習で経験してきたことを振り返り、知識と経験の定着を促す。 具体的には、臨床実習Ⅱの終了後、事例報告を中心とした相互学習を通じて、学習経験を共有する。				
学習の留意点	臨床実習Ⅰでは学びえなかった治療プログラム立案・治療実施に向けた課題の提供を行います。				
到達目標	レジメを活用し、作業療法の臨床思考を学びながら事例報告、討論が行える。臨床場面での応用を含めた展開方法などについても知る。				
授業形態	実習			対面	
関連科目	臨床実習Ⅱ	0		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	作業療法臨床セミナーⅡの全体説明	この授業の趣旨を理解し、問われたことに答えられる。
2回	レポート・レジメのまとめ方① 情報収集（一般、社会的、医学的）	レジメ作成のための情報収集（一般、社会的、医学的）のまとめができる。
3回	レポート・レジメのまとめ方② 作業療法評価（面接、観察、検査・測定）	レジメ作成のための作業療法評価についてまとめができる。
4回	レポート・レジメのまとめ方③ 全体像のまとめ	レジメ作成において全体像のまとめができる。
5回	レポート・レジメのまとめ方④ 目標設定・治療プログラム立案・考察	レジメ作成において目標設定・治療プログラム立案ができる。またその、思考過程における考察ができる。
6回	身体障害分野① 症例A 発表	症例Aの状態像を理解し、説明ができる。
7回	身体障害分野② 症例A 検討	症例Aの状態像から質疑や意見を述べることができる。
8回	身体障害分野③ 症例B 発表	症例Bの状態像を理解し、説明ができる。
9回	身体障害分野④ 症例B 検討	症例Bの状態像から質疑や意見を述べることができる。
10回	身体障害分野⑤ 症例C 発表	症例Cの状態像を理解し、説明ができる。
11回	身体障害分野⑥ 症例C 検討	症例Cの状態像から質疑や意見を述べることができる。
12回	老年期障害分野① 症例D 発表	症例Dの状態像を理解し、説明ができる。
13回	老年期障害分野② 症例D 検討	症例Dの状態像から質疑や意見を述べることができる。
14回	老年期障害分野③ 症例E 発表	症例Eの状態像を理解し、説明ができる。
15回	老年期障害分野④ 症例E 検討	症例Eの状態像から質疑や意見を述べることができる。
16回	老年期障害分野⑤ 症例F 発表	症例Fの状態像を理解し、説明ができる。
17回	老年期障害分野⑥ 症例F 検討	症例Fの状態像から質疑や意見を述べることができる。
18回	発達障害分野① 症例G 発表	症例Gの状態像を理解し、説明ができる。
19回	発達障害分野② 症例G 検討	症例Gの状態像から質疑や意見を述べることができる。
20回	発達障害分野③ 症例H 発表	症例Hの状態像を理解し、説明ができる。
21回	発達障害分野④ 症例H 検討	症例Hの状態像から質疑や意見を述べることができる。
22回	発達障害分野⑤ 症例I 発表	症例Iの状態像を理解し、説明ができる。
23回	発達障害分野⑥ 症例I 検討	症例Iの状態像から質疑や意見を述べることができる。
24回	精神障害分野① 症例J 発表	症例Jの状態像を理解し、説明ができる。
25回	精神障害分野② 症例J 検討	症例Jの状態像から質疑や意見を述べることができる。
26回	精神障害分野③ 症例K 発表	症例Kの状態像を理解し、説明ができる。
27回	精神障害分野④ 症例K 検討	症例Kの状態像から質疑や意見を述べることができる。
28回	精神障害分野⑤ 症例L 発表	症例Lの状態像を理解し、説明ができる。
29回	精神障害分野⑥ 症例L 検討	症例Lの状態像から質疑や意見を述べることができる。
30回	全体の振り返り・まとめ	症例発表の課題提出ができる。

成績評価	セミナー発表（事例報告）50%、提出課題50%を合算して評価します。
課題やレポートに関するフィードバック	フィードバックはクラス全体に実施する。事例報告を踏まえて、適宜フィードバックを行う。
使用教材 教科書	0
オフィスアワー	

		作業療法学科 昼間部			
科目	地域作業療法学Ⅱ	単位	1	コマ数	15
担当講師	栗原実里	学 年		4年生	
資格	作業療法士				

科目概要	地域リハビリテーションとは障害を持つ子供、成人、高齢者やその家族が住み慣れたところで、安全に生き生きと生活できるようにサポートすることであり、作業療法士もその一端を担っている。地域で求められる作業療法士の役割や業務内容について、地域で活躍されてる各分野の作業療法士から実際の臨床現場について講義を受け学習していく。				
学習の留意点	様々な領域で働くOTの外部講師から、臨床のお話をお聞きできる貴重な機会です。積極的に質問し、多くを学びとって頂きたいと思います。みなさんが作業療法士として働く将来のビジョンを拓ける機会になることを期待します。				
到達目標	①各分野・施設の概要を理解し説明できる ②各分野・施設での作業療法士の業務内容や役割を説明できる				
授業形態	講義			対面	
関連科目	作業療法概論	地域作業療法学Ⅰ		0	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	地域作業療法概論オリエンテーション	地域リハビリテーションについて説明できる
2回	訪問リハビリテーション①	訪問リハビリテーションの概要について説明できる
3回	訪問リハビリテーション②	訪問リハビリテーションで働く作業療法士の業務内容について説明できる
4回	通所介護施設①	通所介護施設の概要について説明できる
5回	通所介護施設②	通所介護施設で働く作業療法士の業務内容について説明できる
6回	就労支援施設①	就労支援施設の概要について説明できる
7回	就労支援施設②	就労支援施設で働く作業療法士の業務内容について説明できる
8回	障害者支援施設①	障害者支援施設の概要について説明できる
9回	障害者支援施設②	障害者支援施設で働く作業療法士の業務内容について説明できる
10回	発達障害支援施設①	発達障がい者支援施設の概要について説明できる
11回	発達障害支援施設②	発達障がい者支援施設で働く作業療法士の業務内容について説明できる
12回	精神障害支援施設①	精神障がい者支援施設の概要について説明できる
13回	精神障害支援施設②	精神障がい者支援施設で働く作業療法士の業務内容について説明できる
14回	高次脳機能障害者支援①	高次脳機能障害者支援の概要について説明できる
15回	高次脳機能障害者支援②	高次脳機能障害者支援に関わる作業療法士の業務内容について説明できる

成績評価	課題１００％で評価。 ６０％以上のものを合格とする。
課題やレポートに関するフィードバック	全体にフィードバックを行う。
使用教材 教科書	資料配布
オフィスアワー	火・土・日曜日以外、午後17時まで。メールでご相談ください。

		作業療法学科 昼間部			
科目	臨床実習Ⅱ	単位	16	時間数	720
担当講師	作業療法学科教員	学 年		4年生	
資格	作業療法士				

科目概要	臨床実習Ⅱは、臨床実習指導者のもとで、職業人としての総合的、かつ、作業療法の基本的技能の取得と実践を行う 1. 臨床実習指導者の指導・援助を受けながら、対象児・者の評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得する。 2. 作業療法士としての、管理・運営業務を学ぶ 3. 他職種との協働（チーム医療）を体験・習得する。 4. 対象児・者に対する、総合リハビリテーションサービスの中での、作業療法の意義を考え、作業療法士の役割と機能を学ぶ				
学習の留意点	社会人として、職業人としての身だしなみ、挨拶、言葉遣い、所作、立ち振る舞い、全体的な礼儀などの行動全体に気を付ける。 原則として遅刻、早退、欠席は認めない。 実習全体の8割以上の出席で可否判定を行う。				
到達目標	今までの学内での講義・演習、および臨床実習（早期見学実習：1年次、見学実習：2年次、臨床実習Ⅰ：3年次）で修得した、知識、コミュニケーション能力、作業療法の検査、臨床的推論・思考をもとに、指導者の指導・援助のもと、対象児・者への評価、作業療法の計画・実施、その記録報告、再評価という一貫した作業療法のプロセスを体験・習得することを目標とする。 ①作業療法士としての礼儀・礼節・接遇が体現でき、基本的なルールを遵守することができる。 ②実習に意欲的に取り組むことが出来る ③作業療法の業務を理解し、対象者に対してリスク管理を行うことが出来る ④作業療法評価の計画・準備を行うことができる ⑤対象児・者の観察・検査結果から、全体像をまとめることが出来る ⑥対象児・者の評価結果をもとに、作業療法計画の立案を行うことが出来る ⑦作業療法計画を臨床実習指導者の指導・援助のもとに体験・実施することが出来る ⑧必要な事項を選択肢、記録を行うことが出来る ⑨状況に応じて、指導者やスタッフに連絡・報告・相談ができる。				
授業形態	実習		対面		
関連科目	基礎科目全般	専門基礎科目全般		専門科目全般	

授業計画

回数	授業内容	行動目標
1回	実習前	①実習担当者と面談し、実習の実施方法を確認し、効果的な実習を実施できるように準備する。 ②各授業の指定教科書等・講義資料のポイント、臨床実習前講義で実施した内容は実習前に整理し、確認すること。 ③コミュニケーション技能、実技練習を入念に実施し、実習に備えること。
2回		
3回		
4回	臨床実習	①臨床現場では作業療法分野だけでなく、多職種連携を常に思い浮かべて、広範囲の知識と技術を体系的に学んでいく。 ②臨床現場では積極的に様々なことを体験、見学するように努めること。 ③習得した知識は毎日書類（ポートフォリオ）として記録すること。
5回		
6回	実習後	
7回	①実習中に学んだ点を整理し、発表の準備を行うこと。 ②必要に応じて実習担当者と面談し、実習の総括を実施すること。 ③実習の成果を書類にまとめ、提出すること。	
8回	1～2週目：施設の概要を知る、施設における作業療法の役割を知る、対象者との初回面接、対象者の観察・検査・評価 施設及び作業療法室についてのオリエンテーションを受け、対象児・者の観察、作業療法の用い方、道具などに触れる。対象児・者の協力を得て、検査・評価の実践を行う。必要な記録を残す。	
9回		
10回	3～4週目 治療計画立案・実施	
11回	臨床実習指導者の指導・援助の下で、評価結果から作業療法計画を立案する。必要な記録をその他の課題の遂行を行う。	
12回	5～6週目 作業療法実施・再評価	
13回	臨床実習指導者の指導の下で、対象児・者の協力を得て、治療の実践、観察、作業面接、治療計画の修正等を行う。一定期間後に再評価を行い、治療経過をまとめて考察する。記録およびその他の課題の遂行を行う。	
14回	7～8週目：再評価、治療経過のまとめおよび考察、今後の課題のまとめ・引継ぎ、実習終了の報告・フィードバック、事務手続き	
15回	臨床実習指導者の下で、治療経過をまとめて考察する。ケーススタディの発表。記録その他の課題の遂行を行う。必要な記録を残す。	

成績評価	実習地評価、課題・提出物、OSCE、臨床思考過程をもとに総合的に判断する。
課題やレポートに関するフィードバック	実習後、学内にて発表・課題提出を行い、事後にフィードバックする。
使用教材教科書	学校指定ケーシー、白靴、実習にふさわしい身だしなみが必要。 施設によるが、通院時はスーツ着用。 学生評価表やデイリーノート、ケースノート、出欠表、必要時には各種報告書など実習書類を持参する。 臨床実習の手引き 学校資料
オフィスアワー	担任 作業療法学科教員